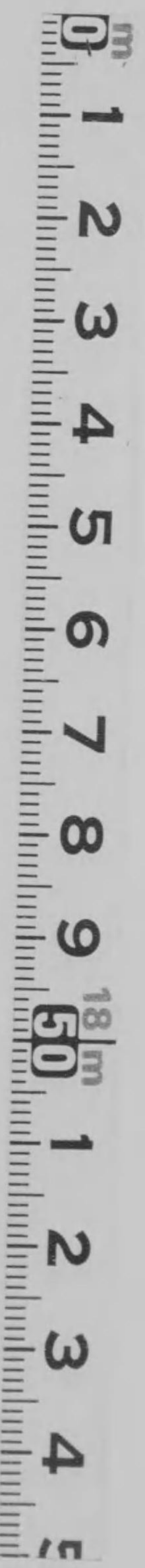
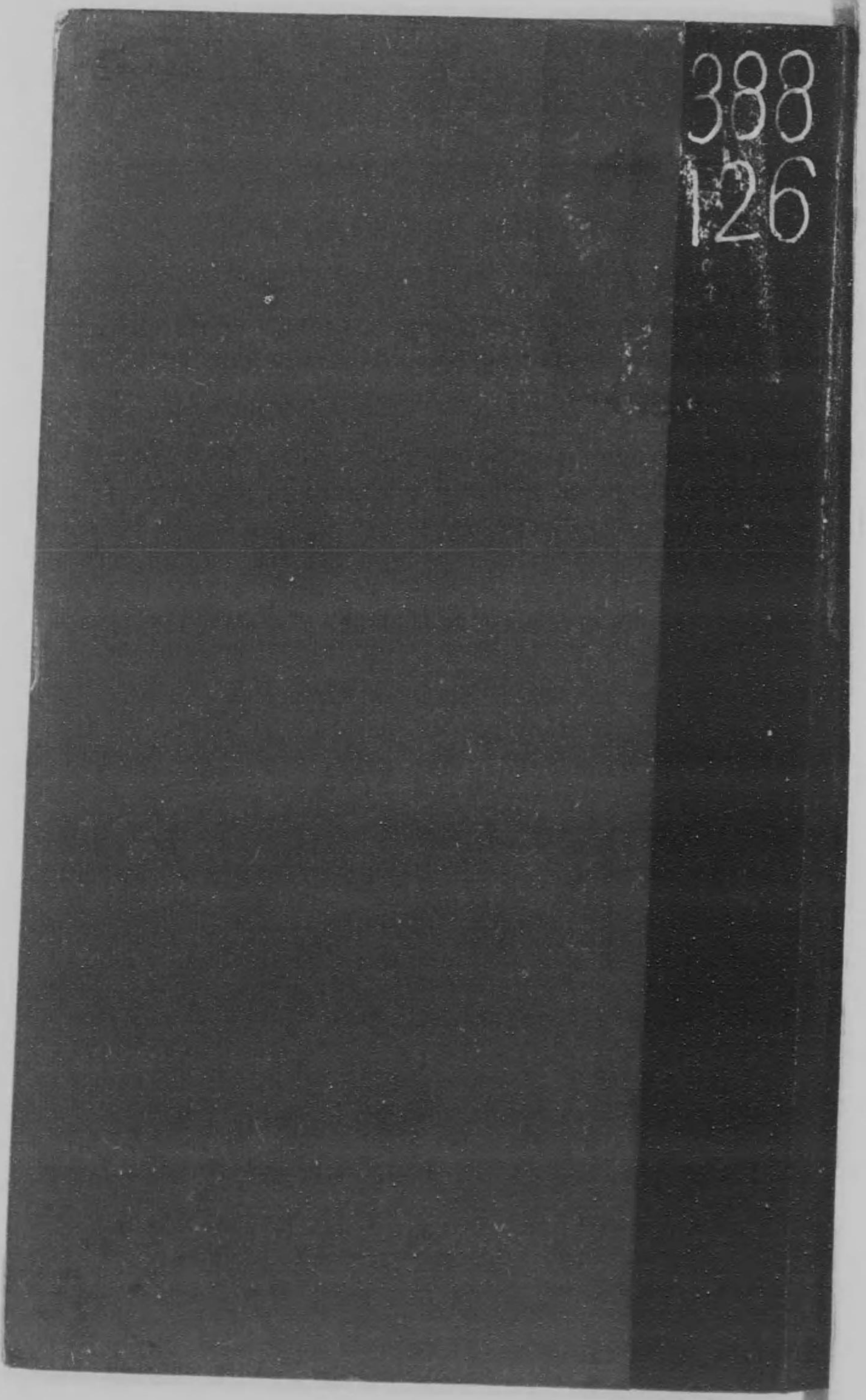


始



388  
126



388-126

近畿五  
都市中心  
日かへりの旅路  
附とびくの遊覧





# 挿畫索引

水島爾保布畫

□花の寺西行櫻……………	八〇—八二	□月ヶ瀬……………	二六—二七
□大原……………	八五—八五	□玉手山……………	三〇—三二
□日吉神社……………	九一—九三	□牛瀧の紅葉……………	二九—二九五
□粟津……………	九四—九五	□泉州金熊寺谷……………	三〇—三〇一
□姫路……………	二四—二五	□河内觀心寺……………	三三—三三
□芦屋汐見櫻……………	三二—三三	□河内天野山……………	三四—三五
□岡本梅林……………	三四—三五	□初瀬……………	三五—三五
□箕面……………	四一—四三	□天の橋立……………	四六—四六
□寶塚……………	四一—四七	□十津川……………	四六—四六
□梅の尾……………	四一—四五	□鞆の津……………	四八—四八

## 凡例

「日がへりの旅路」といつても近畿五大都市を中心としてあるものであるから、ある都市から日がへりは出来ても、ある都市からは出来ぬといふ非難はあるかも知れぬ。然し本編は略々大阪市を起點にして記述してあるから京都市神戸市は概ねこれに準據してよいと思ふ。唯奈良市と和歌山市だけは多少不都合が生じるかも知れないがそれ等の無理は何れも旅行を計畫する人の取捨に一任しなければならぬ。左に本書記述の要領ともいふべきものを記して讀者の利用に資することをした。

### 一、近畿遊覽概圖

卷頭に挿入してある圖は、旅を計畫する人が一目瞭然にその目的地と便宜な交通線を選定し得るやうに特に苦心を拂つた。旅行者は先づこの圖によつて大体の計畫を立て、更に諸種の索引によつて細かな計畫をたてるべきである。

## 二、地名索引

本編の索引は、發行所が非常な苦心と努力を費したもので、些か本書の特色として自負してゐる所のものである。先づ名所索引はその所在と交通の便を最も早く見出す便に資したもので、たさへば吉野ならば「よ」の部で見ても、記されたる頁数によつて本文を開いて見ると、どういふ所で何鐵道によつて、どこから連絡してゐるかといふことがわかる。

## 三、驛名索引

一寸とした通りがかりや、汽車をまつ間のすさびに、その驛或は停留所の名所舊蹟を知りたいといふ人のためにこの索引を編んだ。またこの索引は、何驛、何停留所は何鐵道何線であるかといふを見出すためにも非常に役立つであらう。

## 四、汽車電車線名索引

この索引は旅をする人が、自分の現に利用しつゝある、或はこれから利用せんとする線の記載されてある所を早く見出すために附したものである。

## 五、汽車賃金表

巻頭に附したこの賃金表は各線それ自身だけの賃金表で、他線に跨つた連

絡賃金を記してゐない、従て他線に亘つた旅をする者は、各線の表によつて賃金を加算しなければならぬ、たさへば京都から有馬へゆく人は、京都大阪間の賃金の上、更に大阪有馬間の賃金を加算すればよい。尤も場所によつては特定賃金の連絡切符を發賣されてゐるがそれ等特定賃金は右にのべた加算した賃金よりも更に安い賃金であるから、豫め計畫には加算賃金で豫算を立て、置けば大丈夫だ。尙ほ電車の賃金は本文各電軌線の條に記載して置いたまた坊間の案内書には宿泊料だの辨當代車賃などを尤もらしくあげてあるものがあるが、そんなものを信じて輕卒な旅をしてヒドイ目にあつた人が澤山ある。殊にこの頃のやうに物價に標準のない時ではさういふものは却て讀者をあやまらしめる怖があるから故意に記述しなかつた。特に剥きさられさうな所は一寸した注意を書いて置いたのは著者の老婆心である。

## 六、遊覽の栞

これは花さか湯さか温泉さかにわけてその名所の所在地をあげたもので、た

さへばどこか櫻を見にゆきたいと思ふものは櫻の條を見るとき櫻で名ある所は悉くあげてあるから、それによつて隨意選擇すべきである。

七、計畫の案 これは遊覽の案を多少重複の嫌があるかも知れぬが、無目的で、何がなしに何處かへ旅や遊覽をして見たいと思ふ人々のために、そのヒントを與へる目的で卷頭につけて置いた、遊覽の案を併せ見るべきものである。

尚ほ此書は概ね著者の實地踏査した所によつて記したが尚ほ遺漏や誤があるかも知れぬもしそれに氣づかれた讀者は發行所まで御教示が願ひたい。次の版で改訂増補する積りである

目次

五大都市めぐり

大阪市	三
京都市	二〇
神戸市	三六
奈良市	六〇
和歌山市	六〇
線名索引	
東海道線	七三
山陽線	一〇四
兵庫電軌	一〇四
阪神電軌	一〇四
阪神急行電軌	一〇六
能勢電軌	一〇八
阪鶴線	一一一

京阪電軌

京阪電軌	一五八
山陰線	一八三
嵐山電軌	一八八
京津電軌	一九二
關西奈良線	一九五
關西本線	二〇二
大阪鐵道(河南)	二一〇
片町線	二一五
大阪軌道	二四三
南海鐵道	二六九
附加太線	二六九
同上町線	二六九
阪堺線	二六九
高野電鐵	三〇七
關西和歌山線	三三八
吉野鐵道	三六〇

櫻井線  
初瀬軌道  
〔驛名及停留所索引〕

櫻井線	三七二
初瀬軌道	三九三
東海道線	
神戸	七三
三宮	七三
住吉	七三
芦屋	七三
西宮	七三
神崎	七三
大坂	七三
吹田	七三
茨木	七三
高槻	七三
山崎	七三
向日	七三
京都	七三

山陽線

稻荷	八六
山科	八六
大津	八九
石山	九四
草津	九七
野州	九七
近江八幡	九八
安土	一〇〇
彦根	一〇一
神戶	一〇五
兵庫	一〇五
鷹取	一〇六
須磨	一〇八
舞子	一一三
明石	一二四
大久保	一二九

7 所留停及名驛

稻荷	東京	有馬	三田	道場	武尾	生瀨	寶塚	池田	伊丹	神崎	大阪	一の鳥居前
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	一五〇
一六〇	一五八	一五八	一五四	一五四	一五四	一五三	一五三	一五三	一五二	一五二	一五二	一五〇

京阪電線

樟葉	橋本	八幡	淀	宇治	三室	黄蘗	木幡	六地藏	御陵前	觀月橋	中書島	伏見桃山	墨染	師團前	深草
.....	.....	.....	(以下本線)	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
一六六	一七五	一七二	一七二	一六六	一六六	一六五	一六四	一六四	一六四	一六四	一六三	一六二	一六〇	一六〇	一六〇

(以下字治線)

龜岡	嵯峨	花園	二條	京都	山陰線	天滿橋	東野田	野江	守口	萱島	寢屋川	香里	光善寺	枚方	枚方東口	牧野
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
一八七	一八四	一八三	一八三	一八三	.....	一八二	一八二	一八一	一八一	一八一	一八〇	一七九	一七九	一七八	一七八	一七六

追分	四宮	毘沙門道	御陵	蹴上	應天門通	三條大橋	京津電軌	嵐山	東折神社裏	嵯峨野	太子前	蠶の宮	四條	園部
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
一九四	一九四	一九二	一九二	一九二	一九二	一九二	.....	一九〇	一九〇	一八九	一八八	一八八	一八八	一八七

嵐山電軌

所留停及名驛 6

五色山	垂水	東鹽屋	敦盛塚	一の谷	須磨寺	月見山	板宿	西代	長田	兵庫	兵庫	姫路	曾根	室殿	加古川	土山
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
一三三	一三三	一三二	一三二	一三二	一〇八	一〇八	一〇七	一〇六	一〇五	一〇五	.....	一三三	一三三	一三三	一三二	一三〇

兵庫電軌

打出	香櫨園	西の宮	西の宮東口	今津	鳴尾	尼ヶ崎	大物	杭瀬	佃	淀川	大阪	明石	明石驛前	人丸	舞子
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
一三三	一三一	一三一	一三〇	一三〇	一三〇	二二八	二二八	二二八	二二七	二二七	二二七	二二七	二二六	二二四	二二三

阪神電軌

服部	十三	新淀川	北野	大阪	阪神急行電軌	三の宮、神戶	新生田川	岩屋	大石	東明	石屋川	御影	住吉	青木	深江	芦屋
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
一四〇	一三九	一三八	一三八	一三八	.....	一三七	一三七	一三五	一三五	一三四	一三四	一三四	一三三	一三三	一三三	一三三

平野	多田	鼓ヶ瀧	能勢口	能勢電軌	寶塚	清荒神	中山	山本	平井	花屋敷	池田	箕面	櫻井	石橋	螢ヶ池	岡町
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
一五〇	一四九	一四八	一四八	.....	一四六	一四五	一四五	一四五	一四五	一四五	一四四	一四三	一四二	一四二	一四〇	一四〇

所留停及名驛 8

大谷	上野	札の辻	京都	伏見	宇治	新田	長池	玉水	棚倉	上野	木津	奈良	湊町
一九四	一九四	一九四	一九五	一九五	一九五	一九五	一九五	一九七	一九八	二〇〇	二〇一	二〇一	二〇二

天王寺	平野	八尾	柏原	王子	法隆寺	郡山	奈良	木津	加茂	笠置	大河	島ヶ原	上野	柏原	道明寺
二〇二	二〇二	二〇三	二〇四	二〇四	二〇五	二〇六	二〇七	二〇七	二〇八	二〇九	二一三	二二四	二二七	二三〇	二三〇

古市	喜志	富田	瀧谷	長野	片野	片町	徳庵	住の道	野崎	四條	星田	津田	長尾	木津
三三	三四	三六	三七	三四	三五	三五	三五	三五	三六	三六	三九	四二	四二	四二

大阪軌道	上本町	鶴橋	深江	小坂	若江	瓢箪山	枚岡	石切	生日	富雄	西大寺	奈良	天下茶屋	玉出
二四三	二四三	二四三	二四三	二四四	二四五	二五二	二五二	二五七	二六〇	二六〇	二六三	二六八	二七〇	二七二

9 所留停及名驛

住吉公園	大和川	堺	龍神	湊	濱寺公園	葛の葉	大津	岸和田	貝塚	佐野	標井	尾崎	箱作	淡輪	深日	紀の川	和歌山市
二七二	二七五	二七六	二八一	二八一	二八四	二八八	二八九	二九一	二九五	二九六	二九九	三〇一	三〇二	三〇二	三〇三	三〇四	三〇五

加太	南海上町線	東天下茶屋	北島	姫松	手塚山	住吉	住吉公園	阪堺線	北天下茶屋	聖天坂	勝間	塚西	住吉神社前	安立町	我孫子道
三〇六	二七〇	二七一	二七一	二七一	二七一	二七二	二七三	二七〇	二七一	二七一	二七一	二七一	二七二	二七四	二七五

高野電鐵	大和川	神明町	花田口	大小路	龍神	宿院	大濱公園	寺地町	少林寺橋	濱寺駅前	大阪汐見橋	阿部野	住吉東	堺東	百舌八幡	中百舌
二七五	二七七	二七八	二七九	二八一	二八一	二七九	二八一	二八一	二八三	二八四	二七七	二七七	二〇八	二〇八	三〇九	三〇九

關西和歌山線	狹山	瀧谷	長野	千早	紀見峠	橋本	和歌山市	田井の瀬	布施屋	岩出	打田	粉河	名手	妙寺	高野	橋本
三〇	三〇	三一	三一	三一	三五	三五	三三八	三三八	三三八	三三九	三四三	三四三	三四八	三五一	三五一	三五二



隅田	三五一
大和二見	三五二
五條	三五三
北宇智	三五四
吉野口	三五五
壺坂	三五五
御所	三五六
大和新庄	三五七
高田	三五八
下田	三五九
王寺	三五九
吉野口	三六〇
下市	三六〇
吉野	三六一
櫻井線	三六一
奈良	三七二

京終	三七二
帶解	三七二
櫛本	三七三
丹波市	三七四
柳本	三七七
三輪	三七八
櫻井	三八五
畝傍	三八七
高田	三九二
初瀬軌道	三九三
櫻井	三九三
宇陀ヶ辻	三九三
黒崎	三九四
初瀬	三九四

とびぐの遊覽

伊勢まいり	三九九
琵琶湖巡り	四〇七
養老の瀧	四二二
長良川の鶴かひ	四二五
北陸の温泉	四二七
天の橋立及その附近	四二四
大社詣	四三〇
大峰登山十津川附近	四四三
大臺ヶ原登山	四四八
紀州海岸巡り	四五一
淡路島巡り	四八一
瀬戸内海巡り	四八八
別府、耶馬溪、宇佐八幡	四八八
富士登山	五一五
附裾野めぐり	五一五

目的地五十音索引

ア

阿彌陀池	一五
阿彌陀ヶ峯	三五
阿彌陀の窟	二二六
阿彌陀堂墓	二四五
阿字の池	一七〇
阿部野神社	二七一
阿部野神社	三〇七
阿太桃林	三九四
阿漕ヶ浦	四〇〇
阿須賀神社	四七七
阿波の鳴門	四八六
阿伏兎岬	四九九
阿伏兎観音	四九九
秋葉山	六六

秋篠寺	二〇六
秋篠寺	二〇六
粟田口	三〇
粟田神社	三〇
粟田御殿	三〇
粟津ヶ原	九四
粟津大明神	三〇六
粟津温泉	四二二
赤松城趾	四六
赤目四十八瀧	二二九
赤阪城趾	二二九
朝顔神社	六四
朝顔光明寺	一七
朝日山	一七一
朝熊山	四〇五
朝熊神社	四〇五

朝見温泉	五〇七
朝日公園	五〇八
愛宕山	六六
愛宕山	六六
愛宕山	一八六
愛染堂	四四三
芦邊	六六
芦邊茶屋	六六
芦屋遊園地	一三三
芦屋温泉	一三三
芦原温泉	四一九
明智光秀墓	八七
明石城趾	一六
明石町	一七
安土城趾	一〇〇
安詳寺	一九二
安福寺	三三
安閑天皇陵	三三

安倍文殊院	三八五
安寧天皇陵	三九一
安徳天皇陵	四三四
安珍塚	四三八
安徳帝行在趾	四九七
尼ヶ崎市	二二八
尼ヶ崎城趾	二二八
敦盛塚	一一
相生松	一一
青谷温泉	一三六
青谷の梅林	一九五
青海苔浦	五〇三
青の洞門	五二〇
青木ヶ原	五二一
鮎瀧	一五二
鮎瀧	四五三
有馬温泉	一五四

有市温泉	二二四
有田川	四三三
荒田神社	三三三
荒木村重城趾	一五一
荒木又右衛門墓	三三三
縣神社	一七一
我孫子觀音	二七五
我孫子觀音	三〇八
天の川	一七七
天野山金剛寺	三三三
天の香具山	三八七
天の橋立	四二五
嵐山	一九〇
穴太寺	一八七
穴師兵主神社	三七七
哀堂	二〇七
蟻の戸渡	一一二
蟻道大明神	二九六
蟻の戸渡	四四五
霞松原	二七四
開口神社	二七九
飛鳥神社	三九〇
飛鳥大佛	三九〇
飛鳥河邊宮趾	三六一
足羽山公園	四一八
樗谿神社	四三三
雨乞瀧	四六三
藍瀨一枚岩	四六五
淡路陵	四八五
旭橋	五二〇
イ(牛)	
インクライン	三〇
井手の玉川	一九七
伊居多神社	一四四
伊丹町	一五一
伊賀の梅林	一七九
伊勢寺	七六
伊勢の墓	七六
伊太祈曾神社	三三八
伊勢外宮	四〇二
伊勢内宮	四〇三
伊奈波神社	四一六
伊弉諾神社	四八五
伊佐邇波神社	五二三
飯盛山	三三六
飯盛山	三〇三
飯盛寺趾	三〇三
飯豐青皇女御陵	三五七
茨住吉	一七
生玉魂神社	二二
生田神社	四五
生駒山	二三五
生駒山	二五九
生駒隧道	二六〇
一心寺	一四
一の谷	一一一
一の木戸	二二〇
一の橋	三二五
一の橋	三六四
妹背山	六九
妹背山	三四八
妹背山	三六二
稻荷山	八六
稻荷神社	八六
稻田桃林	二三五
稻荷山遊園地	二五九
稻葉山	四一五
稻佐海岸	四四二
今井兼平墓	九四
今熊野觀音	一五九
石山寺	九五

石の寶殿	一三三
石清水神社	一七三
石船巖	二四〇
石の寶殿	二四一
石床神社	一五五
石切劍箭神社	一五七
石上神宮	三七六
岩間寺	九六
岩屋神社	一一八
岩屋港	一一九
岩倉峽	二二八
岩屋越	二二五
岩橋	二二三
岩影佛	二四〇
岩不動	三三九
岩出大宮	三三九
岩屋瀧	三九七
岩井温泉	四三三
岩屋	四八五
岩國附近	五〇三
岩國公園	五〇三
岩國山	四〇三
池田町	一四四
和泉式部の墓	一四八
猪名野神社	一五一
祝谷	二二五
亢恭天皇陵	二二〇
家原寺	二八八
家原城趾	二八八
泉穴師神社	二八九
泉井上神社	二九〇
犬鳴山	二九八
五十瓊敷入彦皇子陵	三〇二
出雲大社	四三六
成亥瀧	三二二
庵崎	三五二
威徳天神社	三六五
樺本町	三七二
膽吹山	四〇九
因幡山	四三四
因島	五〇〇
入相櫻	四八八
印南町	四八八
嚴島神社	五〇一
鶯瀧	五三
鶯山	五三
浮御堂	九二
浮島	一六七
腕塚	一〇七
腕塚	一六六
運動場	一三〇
宇治山	一六六
宇治町	一六六
宇治川	一六七
宇治橋	一六九
宇治神社	一七一
宇治橋斷碑	一七一
宇治山田市	四〇一
宇治橋	四〇三
宇部神社	四三四
宇野	四九七
宇佐八幡	五二〇
梅宮神社	一八九
梅園温泉	五〇七
上野町	二二七
菟道雅郎子の陵	一六六
牛瀧山大威徳寺	二九四
牛瀧	二九四
産土神社	三二六

歌塚 三三三  
畝傍山 三八七  
浦の初島 四九二  
海地獄 五〇八

工(工)

永觀堂 二九  
永源寺 九九  
永平寺 四三八  
圓殊院 六六  
圓福寺 一四〇  
圓福寺 一七五  
戎神社 七五  
延曆寺 八二  
延壽院 二九  
延命寺 三二  
延壽泉 五〇七  
園城寺 九〇

オ(ヲ)

繪島 二九  
鳥帽子岩 二六  
叡福寺 二三五  
厭離庵 一八五  
鹽穴寺 二八三  
榮山寺 三五三  
衣奈八幡宮 四五六

大津市 八九  
大物主神社 二三八  
大池 一六六  
大石良雄邸趾 一九三  
大岩ヶ原 一九六  
大谷 二二五  
大伴黒主の墓 二二六  
大濱公園 二六一  
大鳥神社 二八六  
大臺ヶ原 三六二  
大橋 四三五  
大山 四三五  
大天井 四四三  
大鞍掛 四四三  
大峰山本堂 四四四  
大崎港 四四二  
大島 四六四  
大三島 五〇〇

大崎島 五〇〇  
大堰の瀧 五二〇  
大宮 五三三  
大石寺 五三二  
岡崎公園 二八  
岡公園 六三  
岡の宮 六四  
岡本の梅林 一三三  
岡寺 三八九  
岡山市 四九七  
岡山城趾 四九七  
岡山寺 四九七  
音羽の瀧 三四  
音羽寺 三九三  
音羽の瀧 三九三  
音戸の瀧 五〇一  
臈山 六九  
男山八幡宮 一七三

男嶽 二二五  
男神社 二九  
乙訓寺 八〇  
逢阪山 八八  
逢阪山 一四  
近江八景 八九  
長田神社 一〇五  
尾上神社 二二  
尾の鐘 二二  
尾山村 二二五  
尾崎御坊 三〇一  
尾鷲町 四七九  
尾ノ道港附近 四九九  
尾ノ道市 五〇〇  
王院の馬場 二二六  
御前の湊 一三一  
御室の櫻 一八四  
温泉神社 二五七

温泉寺 一五七  
落葉山 一五七  
黄蘗山萬福寺 一六五  
巨椋池 一六六  
扇の芝 一七〇  
扇邸 四三二  
女郎花塚 一七五  
小倉山 一八五  
小田原寺法雲院 二〇九  
雄峯 二二三  
雄臺 二二四  
應神天皇陵 二二三  
奥の一目千本 三三〇  
帯解寺 三三二  
緒環塚 三三二  
沖の白石 四二二  
沖の島 四二二  
沖の島 四二二  
沖の島 四二二

お鉢廻り 五二七  
親不知 五二八  
川口波止波 一六  
柱宮 二五  
柱離宮 一九〇  
上御靈神社 二六  
上加茂神社 二七  
上醍醐 八七  
上の堂 二二〇  
上の太子 二三五  
上赤坂城趾 二二三  
上市町 三六一  
春日神社 五二  
春日山 五三  
春日野 五四  
片男波 六八

片枝の松 二二一  
片野神社 一七七  
片山津温泉 四二〇  
竈山神社 七〇  
甲山 七五  
兜八幡 一九八  
胃社 二八〇  
鎌足塚 七七  
鎌宮神社 一〇一  
勝尾寺 一四三  
勝尾寺陵 一四四  
勝手明神社 三六六  
勝浦港 四六六  
革堂 二八  
唐崎の松 九一  
堅田 九三  
堅田浮御堂 四〇八  
瓦屋寺 一〇一

金崎の梅林	二二〇
金岡ヶ淵趾	三〇九
金崎神社	四一八
金澤市	四三三
金引の瀧	四二七
鶴林寺	一一二
加古川鮎狩	一一三
加太港	三〇六
加太神社	三〇六
開山堂	一一九
開元寺の瀧	一一九
神戸高商	一三五
神戸海岸	一四三
神戸棧橋	一四三
神戸交通	一四八
神倉谷	三七七
神倉山	四七七
菅野三平の墓	一四一
桓武天皇陵	一六三
交野原	一七七
鵜橋	一七七
蟹満寺	一九八
海修寺	二〇八
海龍王寺	二〇七
海會寺	二八二
笠置山	二〇九
笠置寺	二二〇
笠置石	二二二
笠置温泉	二二二
貝吹岩	二二二
貝塚町	二九五
空鉢峰	二二三
雛屋の辻	二二八
柏原町	二二〇
葛城神社	二二三
葛城山	二二三
雁塚	二四四
鴨高田神社	二四四
鴨ヶ磯	四三三
鏡神社	二五一
雷の森	二五一
樫井古戦場	二六六
河合寺	三三二
河根村	三三六
河上神社	四八四
河口湖	五三〇
學文路	三三六
荻萱堂	三三六
賀名生皇居趾	三五三
隠れ松	三六四
柿本寺	三七三
柿原神宮	三七八
傘松	四三七
蟠螂岩	四四五
寒霞溪	四九〇
紙屋の湯	五〇七
鐵輪温泉	五〇八
龜川温泉	五〇八
岩岱筆虎石碑	五二七
籠坂峠	五二九
北濱	九
北沼取引所	九
北御堂	一〇
北野天神	二三
金閣寺	八五
金堂	五一
金龍寺	七八
金龍山	七八
金龍池	七九

金龜城	一〇二
金胎寺	二二三
金勝寺	一五五
金光寺	二七八
金熊寺	三〇〇
金峰山寺	三六四
金峰神社	三七〇
金華山	四一五
金明水	五一八
京都府廳	二二五
京都帝國大學	二二七
京都動物園	二二八
京都圖書館	二二八
京都博物館	三三五
京都大佛	三三五
京都交通	三三六
京瀧	一五〇
京橋	一六三
銀閣寺	二八
銀明水	五八
祇園新地	三三
祇王寺	一八五
清水寺	三三
清水阪	三三
清盛塚	四七
清荒神	一四五
清瀧	二二九
清姫塚	四五六
木辻遊廓	五一
木島神社	一八八
木村重成の墓	二四五
木本八幡	三〇五
紀三井寺	七〇
紀船守の墓	三〇二
紀伊見峠	三三五
紀の川	三三五
紀州富士	三四八
御苑	二四
貴船神社	八四
貴布彌神社	一九
錦繡谷	一五七
錦溪温泉	三一
錦光園	四三四
錦帶橋	五〇三
欣淨寺	一六一
喜撰嶽	一六
喜光寺	二六四
經塚	一九六
岸の姫松	二七二
岸和田城趾	二九二
岸和田町	二九一
久安寺	一四九
岐阜古城趾	四一五
切戸の文珠	四三四
切目王子神社	四五六
城ノ崎温泉	四三〇
桐山城	四三二
杵築町	四三八
ク	
九條町	一七
九合目	五七
黒谷光明寺	二八
黒江町	七一
黒石	三六
黒木御所趾	三三三
黒谷橋	四一九
光明院普門寺	六五
光明寺	八〇
光善寺	一七九
光堂千手寺	二五七
光瀧寺	三二三

鯨の橋	七六
鞍馬山	八四
鞍馬寺	八四
草津町	九七
首塚	一〇七
首塚	一〇七
廣德寺	一八五
廣隆寺	一九九
關西學院	一八八
吳服神社	一三五
車塚	一四四
車折神社	一七五
樟葉宮趾	一九〇
百濟王神社	一七六
菅相塚	一七七
菅相寺	一八〇
杭全神社	一八〇
葛谷	二〇二
葛谷	二二五

葛の葉神社	二八八
葛温泉	三五五
楠正儀の墓	二二三
楠正行の墓	二三四
楠正成の塔	二五四
楠温泉	五〇六
倉治桃林	二四一
倉治の瀧	二四一
倉橋宮趾	三九五
暗峠	二六六
日下の瀧	二五八
観海閣	七〇
観修寺	八六
観音寺山	一〇〇
観音正寺	一〇一
観月橋	一六三
観音嶽	二六六
観心寺	三一

観音茶屋	三六
観音寺	三六
観音堂	三三七
観音鳥	四〇九
観祭楼	四三二
観海寺温泉	四四二
久米田寺	五〇七
久米田池	一九三
久米寺	一九三
久須志神社	三八八
熊取行宮趾	五八
熊野座神社	二九八
熊野川	四七一
熊野速玉神社	四七二
熊野山	四七六
國王神社	一三三
國王神社	三〇三
國見嶽	三九七
櫛羅瀧	三五六

口の一目千本	三六四
口無瀬戸	四九九
口の林	五二〇
雲井櫻	三六九
串本町	四六四
木の本町	四七八
皇后島	四九九
工藤祐經の墓	五二二
蹴上	二九
建仁寺	三三
建勳神社	八五
建久箱	五二〇
監物頼賢碑	一〇五
源光寺	一〇九
源光寺	一三八
源氏の瀧	二四一

月照寺	一一五
月輪寺	一八七
賢栖寺	一九九
競馬場	一三〇
毛馬開門	一三八
芥子山圓淨寺	一四二
顯證寺	二〇三
顯宗天皇陵	三九九
顯宗天皇宮趾	三九一
桂月峰	二二四
蹴拔塔	三七〇
景行天皇陵	三七八
華嚴瀧	三八七
元與寺の趾	三九〇
元正天皇行宮趾	四一三
見塔寺	四一〇
氣比神社	四一八
兼六公園	四三三

立武洞	四三一
行者岩	四四五
御靈神社	一〇
御香の宮	一六一
御殿山神社	一七六
御廟の橋	三三七
御所町	三五六
御坊町	四三七
御八湖巡り	四七九
高津神社	一一二
高臺寺	三三
高臺岩	一五二
高山寺	一八四
高貴寺	二二六
高野山	三二五
高野山金剛釋寺	三二九

高野大門	三三〇
高野奥の院	三三五
高層觀測所	五八
五條通	三五
五百羅漢	六六
五色山	一一三
五毛天神	一三六
五毛の梅林	一三六
五條町	三三三
五色の濱	四八六
廣嚴寺	四一
廣濟寺	七六
興福寺	五一
興正寺	一七一
興禪寺	四三三
興國寺	四五六
興正寺別院	四九五
權現山	六七

權現山	二一六
權現社	二二四
權現の瀧	二九九
根本中堂	九三
根本大塔	三二一
駒ヶ林大堂	一〇六
駒ヶ谷梅林	二二三
駒ヶ谷犬黒	二二三
駒立石	四九七
子安觀音	一〇六
子安地藏	二五六
子不知	五八
香爐園遊泳場	一三一
昆陽寺	一五一
昆陽ヶ池	一五二
木幡の關跡	一六四
木幡の里	一六四
木幡の陵	一六五

木積觀音堂	二九五
後醍醐天皇	二九二
後醍醐帝行在所	二七五
後醍醐帝行在所跡	二二二
後鳥羽上皇行宮跡	二二七
後村上上皇陵	三三一
後醍醐天皇陵	三六七
後樂園	四九七
護王神社	一八四
郡山城跡	二〇六
金剛山寺	二〇六
金剛輪寺	二二三
金剛山	二二九
金剛堂	三三二
金剛峰寺	三三四
金剛山	三五五

金刀比羅宮	四九二
國分寺跡	二〇八
國分寺	二九一
國府神社	三五九
譽田八幡宮	三二二
孝徳天皇陵	三三六
孝謙天皇陵	二六八
孝子越	三〇四
孝昭天皇陵	三五七
孝安天皇陵	三五七
弘川寺	二三八
弘福寺	三八九
極樂寺	二六六
極樂橋	三二八
紅谷庵	三〇九
粉河町	三四三
粉河寺	三四四
苔清水	三七〇

蟋蟀橋	四一九
小天井	四四三
小鞍掛	四四二
小歌島	五〇〇
古座川	四六五
古座町	四六五
腰網ヶ浦	五〇三
壽温泉	五〇七
紺屋地獄	五〇七
櫻の宮	八
櫻井の里	八〇
櫻新地遊廓	一七八
櫻井町	三八五
櫻山	四二五
座摩神社	一〇
雜喉場	一五

西行庵	三四
西教寺	三九
西光寺	二二八
西遊寺	一七五
西明寺	一八四
西大寺	二〇六
西琳寺	二二二
西行法師墓	二三八
西行堂	二二八
西大寺	二六五
西京寺	二六五
西國塔	三三三
西國寺	五〇〇
卅三間堂	三五
三月堂	五四
三寶院	八七
三の谷	一一一
三田町	一五四

三の堂	二二〇
三巨巖	二二一
三合目	五五六
三合目以上	五五六
榮町通	四四
榮橋遊廓	二八一
猿澤の池	五〇
猿丸太夫の墓	一三三
猿丸太夫の詞	一六六
佐保川	五三
佐和山神社	一〇三
佐和山城跡	一〇三
佐々成政の墓	一九九
佐太神社	一八〇
佐野町	二九六
佐藤繼信の墓	四九七
下り松	六九
鷺の森御坊	六四

沙々貴神社	一〇〇
さつき寺	一〇六
境川	一一二
境港	四三五
五月山	一四四
最明寺瀧	一四五
最勝院	一七一
蹠蹠天満宮	一八〇
蹠蹠山	一八〇
蹠蹠の池	一八〇
嵯峨虚空藏	一九一
酒屋神社	二四二
堺市	二七六
狭山の池	三二〇
眞田ヶ淵	三三五
眞田屋敷	三三六
眞田昌幸の墓	三三六

商品陳列場	九
新町遊廓	一一
新世界	一四
新京極	三三
新高尾	三四
新薬師寺	五八
新和歌の浦	六七
新瀧	一五〇
新舞鶴	四二八
新宮川	四七二
新宮町	四七二
新宮町	四七六
新宮城跡	四七八
新湯	五〇七
新耶馬溪	五二〇
四天王寺	一三
四條通	三三
四明嶽	八二

四條暖神社	一八一
四條暖神社	二二六
四寸岩	三八
四洲園	四八四
島原遊廓	二二
島ヶ谷温泉	一一〇
紫宸殿	二四
紫雲堂	二二六
下御霊神社	二五
下加茂神社	二七
下醍醐	八七
下の堂	二二〇
下赤坂城跡	二三〇
下市町	三六〇
相國寺	二六
眞如堂	二九
眞光寺	四六
眞福寺	二二五

眞珠養殖場……………四〇六  
 若王寺……………二九  
 將軍塚……………三三  
 地主権現……………三三  
 地藏院……………七六  
 陣屋跡……………四七  
 正倉院……………五七  
 松生院……………六四  
 松月庵……………一〇六  
 松華堂の墓……………一七四  
 鹽竈神社……………六六  
 鹽屋遊泳場……………一三三  
 鹽津浦……………四五一  
 十善寺……………七四  
 十三橋……………二二九  
 十禪寺……………一九四  
 十禪律院……………三四六  
 神呪寺……………七六

神應寺……………一七四  
 神應寺……………一八四  
 神童寺……………二〇〇  
 神明神社……………二七七  
 神於寺……………二九三  
 神功皇后 小竹宮趾……………三三七  
 神武天皇陵……………三八七  
 神明浦……………四〇六  
 白河村……………八三  
 白鷺城……………二二四  
 白國の梅林……………二二五  
 白鳥の陵……………二二二  
 白糸の瀧……………二九六  
 白良の濱……………四六二  
 白絲瀧……………五三三  
 修學院離宮……………八三  
 修學院村……………八三

詩仙堂……………八三  
 寂光院……………八四  
 朱雀帝陵……………八七  
 志賀都趾……………九〇  
 止觀院……………九三  
 鹿跳岩……………九六  
 鹿飛谷……………二二五  
 鹿ヶ淵……………二二一  
 淨嚴院……………二〇〇  
 淨福寺……………一五二  
 淨土光明寺……………一八八  
 淨瑠璃寺……………二〇九  
 勝福寺……………二〇七  
 飾磨……………二二五  
 書寫山……………二二五  
 釋迦院……………一四一  
 釋迦堂……………一八五  
 釋迦の割石……………一八

慈恩院……………一四九  
 慈光寺……………二五六  
 慈眼院……………二九七  
 慈尊院……………三三五  
 慈尊院……………三五二  
 檀木町……………一六一  
 舍利堂……………一六五  
 蛇の塔……………一七九  
 信西塚……………一九六  
 信貴山……………二〇四  
 信太の森……………二八八  
 信太山……………二八九  
 重衝首洗池……………二〇八  
 科長神社……………二二五  
 潮の宮温泉……………二二八  
 潮の岬……………四六四  
 獅子窟寺……………二四〇  
 獅子の窟……………二四〇

酬恩庵……………二四二  
 時雨の櫻……………二六〇  
 時雨櫻……………三七〇  
 清水の瀧……………二六二  
 宿院……………二八〇  
 推出……………三三三  
 城山遊園……………三五二  
 城原……………四三二  
 實城寺趾……………三六六  
 賤ヶ嶽……………四一〇  
 柴山湯……………四二二  
 柴石温泉……………五〇八  
 式部櫻……………四二五  
 入の波温泉……………四四九  
 深專寺……………四三三  
 秦徐福の墓……………四七八  
 準成閣……………四九七

祐の井……………二五  
 諏訪の公園……………四六  
 諏訪山温泉……………四六  
 住吉神社……………七四  
 住吉神社……………二七二  
 住吉公園……………二七三  
 住吉神社……………四八四  
 瑞光寺……………七六  
 瑞輪寺……………一四〇  
 瑞ヶ池……………一五二  
 瑞寶寺趾……………一五七  
 瑞光寺……………一六〇  
 瑞龍寺……………四二六  
 隨願寺……………二二五  
 吹田ノ桃林……………七七  
 須磨寺公園……………一〇  
 須磨の關……………一〇  
 須磨の浦……………一一

須佐神社……………四四四  
 須屋浦……………五〇三  
 墨染寺……………一五一  
 墨染寺……………一六〇  
 墨染櫻舊跡……………一六〇  
 杉山不動……………一七四  
 杉谷……………二二五  
 杉ノ浦……………五〇三  
 菅原寺……………二〇六  
 菅原神社……………二二八  
 菅原寺……………二六四  
 菅原神社……………二六四  
 菅原神社……………二七九  
 菅原神社……………二七九  
 推歌嶺……………二二四  
 推古天皇陵……………二二六  
 垂仁天皇陵……………二六八  
 垂仁景行 兩帝の宮趾……………三七七

隅田八幡宮……………三五二  
 崇神天皇陵……………三七八  
 崇峻天皇陵……………三八五  
 綏靖天皇陵……………三九一  
 洲本附近……………四八二  
 洲本神社……………四八四

セ

千日前……………一一  
 千手窟……………二二一  
 千手の瀧……………二二二  
 千疊敷……………二二六  
 千石橋……………三三六  
 千石橋……………三六一  
 千貫松島……………四三三  
 千光寺……………四八四  
 千光寺……………五〇〇  
 清凉殿……………二四

清涼寺……………一〇三  
 清友園……………一〇七  
 清寧天皇陵……………二二三  
 清水寺……………四七九  
 仙洞御所……………一五五  
 仙醉島……………四九九  
 聖護院……………二六八  
 聖天阪……………二七一  
 聖德太子陵……………二二五  
 青蓮院……………三三〇  
 誓願寺……………三三三  
 誓願寺……………二〇七  
 泉誦寺……………一五九  
 泉布觀……………二〇〇  
 泉橋寺……………二〇〇  
 勝持寺……………八一  
 勝軍寺……………二〇三  
 夕侍亭……………八五

關の清水……………八八  
 關屋の櫻……………三六四  
 蟬丸神社……………八八  
 膳所町……………九〇  
 膳所城址……………九〇  
 勢田唐橋……………九〇  
 禪昌寺……………一〇七  
 禪定寺……………一九五  
 禪海寺……………一八四  
 證城神社……………一〇七  
 聲明瀧……………一七  
 昌林寺……………一三〇  
 瀨川古戰場……………一四一  
 瀨戸瀧……………三九七  
 瀨戸の鉛山……………四三二  
 善慶寺……………一四九  
 善法律寺……………一七四  
 善長寺……………一七七

善名陵……………三三六  
 善通寺……………四九二  
 昭憲皇太后御陵……………一六三  
 正法寺……………一七五  
 正與寺……………二六八  
 正曆寺……………三七三  
 常光寺……………二〇三  
 石門……………二二一  
 菖蒲谷……………二二五  
 小楠公の墓……………二二七  
 小豆島……………四八九  
 小赤壁……………五〇三  
 樟蔭女學校……………二四五  
 成務天皇陵……………二六二  
 成就寺……………二七八  
 紹鷗の森……………二七〇  
 洋雲寺……………二八〇  
 少林寺……………二八三

盛松寺……………三〇  
 世尊寺跡……………三六九  
 淨願寺……………四九五  
 淺間神社……………五一六  
 淺間神社奥宮……………五二七  
 精進湖……………五二二

總持寺……………三〇四  
 袖摺松……………七九  
 袖師浦……………四三五  
 僧正谷……………八四  
 崇禪寺……………一三九  
 園部城址……………一八四  
 尊延寺……………二四二  
 添御縣座神社……………二六三  
 外不動堂……………三三九  
 藏王堂……………三六四

大德寺……………八四  
 大極殿……………二八  
 大雅堂……………三三  
 大龍寺……………四六  
 大極殿跡……………五八  
 大廣寺……………一四四  
 大黒寺……………一六四  
 大石塔……………一七四  
 大長寺……………一八二  
 大覺寺……………一八四  
 大念佛寺……………二〇三  
 大信寺……………二〇三  
 大智寺……………二〇七  
 大智寺……………二二三  
 大平穴……………二三五  
 大將軍詞……………二三一  
 大龍寺……………二五八  
 大乘瀧寺……………二六一

大極殿跡……………二六七  
 大安寺……………二八二  
 大同寺……………三〇五  
 大山陵……………三〇九  
 大安寺……………三二二  
 大官寺……………三九一  
 大天橋……………四三四  
 堂島……………五  
 糺の森……………二七  
 蛸薬師……………三三  
 蛸地蔵……………二九二  
 手向山……………五三  
 手向山神社……………五四  
 玉津島神社……………六九  
 玉井寺……………一九七  
 玉の井……………一九七  
 玉手山遊園……………三三一  
 玉田神社……………三〇二

玉津島……………四九九  
 高柳城跡……………七八  
 高觀音……………九〇  
 高砂相生松……………一二三  
 高砂神社……………一二三  
 高座の瀧……………一三三  
 高家の墓……………一三五  
 高尾……………一八四  
 高倉宮……………一九八  
 高屋城跡……………二二二  
 高山寺……………三〇四  
 高鴨神社……………三五四  
 高取町……………三五五  
 高取山城跡……………三五五  
 高田町……………三九八  
 高岡市……………四二三  
 高松附近……………四九五  
 高松城跡……………四九五

ソ

曾根崎新地……………六  
 曾根の松……………一三三  
 曾根天神……………一三三  
 曾我八幡……………五三三  
 曾我兄弟の墓……………五三三  
 造幣局……………八  
 疏水運河……………三〇  
 双林寺……………四  
 雙龍庵……………一五七  
 總持寺……………七七



高松築港……………四九五  
 邂逅の池……………七八  
 寶寺……………七九  
 寶塚……………一四六  
 醍醐寺……………八七  
 醍醐帝陵……………八七  
 立木観音……………九六  
 建部神社……………九六  
 建水分神社……………三二  
 多賀神社……………一〇二  
 多田神社……………一四九  
 多京島……………四一〇  
 多度津……………四九一  
 平成帝碑……………一〇五  
 鷹取山……………一〇六  
 鷹取遊泳場……………一〇六  
 垂水神社……………一四〇  
 武田尾温泉……………一五二

橋小島ヶ崎……………一六七  
 橋諸兄塚……………二九三  
 橋逸勢父子墓……………三〇四  
 橋寺……………三八九  
 田村堂……………二〇二  
 田山稻荷神社……………三〇二  
 田中の井戸趾……………三四三  
 田後の海岸……………四三三  
 田邊町……………四六一  
 田邊城趾……………四六一  
 田の湯……………五〇六  
 當麻寺……………三二六  
 當麻寺……………三五八  
 龍田神社……………二〇四  
 龍田東宮……………二〇四  
 龍田新宮……………二〇四  
 瀧谷不動寺……………二二七  
 瀧櫻社……………三六四

瀧櫻……………三六九  
 薪一休寺……………二四二  
 樽井海岸……………三〇一  
 談輪遊園地……………三〇二  
 談山神社……………三八六  
 丹波市町……………三七四  
 谷汲寺……………四一三  
 玉置山……………四四六  
 道成寺……………四四八  
 檀ノ浦……………四九七  
 竹瓦温泉……………五〇六

築港(大阪)……………一七  
 智恩院……………三〇  
 智源寺……………四二八  
 長樂寺……………三三  
 長命寺……………九八  
 長壽院……………一六  
 長福寺……………一九三  
 長命寺……………二四四  
 長弓寺……………二六二  
 長寶寺……………二〇二  
 長保寺……………四五一  
 近松の墓……………七六  
 勅梅……………一八〇  
 千鳥ヶ淵……………一九〇  
 千早城趾……………二三〇  
 千早道……………二三〇  
 千早城趾……………二三二  
 千里濱……………四六〇

仲哀天皇陵……………三三三  
 乳貫ひ薬師……………二五一  
 乳守遊廓……………二八三  
 茅渟宮趾……………二九七  
 茅原寺……………三五七  
 珍努の池……………二九七  
 兒が瀧……………三三九  
 竹林寺……………三六九  
 竹生島……………四〇八  
 稚兒落し……………四三三  
 地の島……………四三二  
 血の池地獄……………五〇八

月ヶ瀨……………二五  
 月ヶ瀨……………二七  
 網敷天神……………一〇八  
 鼓ヶ瀧……………一五七  
 辻の碑……………一五一  
 通天橋……………一五八  
 通法寺……………二三四  
 壺井八幡……………二三四  
 壺井寺……………二三四  
 壺阪寺……………三六六  
 鶴橋……………二四三  
 都留美神社……………一四三  
 都久夫須磨神社……………四〇九  
 躑躅ヶ岡……………三〇〇  
 津市……………四〇〇  
 津公園……………四〇〇  
 角刺宮趾……………三三七  
 角刺神社……………三三七

敦賀港……………四一七  
 九十九橋……………五八  
 包ヶ浦……………五〇三

テ

天満橋……………七  
 天満橋……………八  
 天橋市場……………八  
 天満天神……………八  
 天王寺公園……………一四  
 天妃山……………六四  
 天王山……………七九  
 天狗杉……………八四  
 天郷梅林……………一九  
 天王社……………一三三  
 天龍寺……………一八五  
 天智天皇陵……………一九二  
 天武天皇詞……………一九七

天井谷……………二二六  
 天下茶屋……………二七〇  
 天下茶屋遊園……………二七一  
 天王の森……………三〇八  
 天理教本部……………三七四  
 天橋神社……………四二六  
 天神公園……………四三五  
 天寧寺……………五〇〇  
 傳光寺……………二二  
 鐵道棧橋……………四三  
 鐵柵嶽……………一一  
 轉害門……………五七  
 出島……………六七  
 算供山……………六九  
 手枕の松……………二一〇  
 手塚山……………二七一  
 鐺射寺……………一五四  
 寺田屋……………一六三

敵塚	三九
ト	
土佐堀川	一六
土佐稻荷	一五
土佐藩士	
十一人の墓	二七八
道頓堀	一一
道明寺天満宮	二二〇
道後温泉	五三
道後公園	五三
東寺	三三
東大寺	五
東照宮	六七
東光山要立寺	一三三
東福寺	一五八
東明寺	二〇六
東原社	三〇八
東泉寺温泉	四四六
等持院	二四
鳥邊山	三五
鳥彌神社	三九四
鳥羽港	四〇六
鳥羽城趾	四〇六
鳥羽造船所	四〇六
鳥羽商船學校	四〇六
鳥取市	四三三
鳥取城趾	四三三
燈籠堂	四七
燈籠堂	三七
切利天七寺	七五
頓宮殿	一七三
梅の尾	一八四
渡月橋	一九〇
藤堂兵七十士の墓	二〇三
富出林町	三六
富田林御堂	二六
富尾川	二六二
唐招提寺	二〇六
唐招提寺	二六四
友ヶ島	三〇六
友ヶ島	三八二
洞辻	四四三
洞川	四四五
飛石	四四五
飛瀑神社	四七〇
十津川	四四五
十津川村	四四六
十津川針金橋	四四六
瀬八町	四七三
鬮鷄神社	四六一
鞆の津	四九八
中の島公園	六
中崎遊園	一八
中山寺	一四五
中の千本	三六九
中津	五〇九
中八幡堂	五二六
難波橋	七
難波宗寺	一八一
難波屋の笠松	二七四
南地五花街	二二
南禪寺	二九
南圓堂	五一
南龍神社	六七
南木神社	三三
南宗寺	二八一
梨木神社	二五
奈良めぐり	四九
奈良縣廳	五

奈良博物館	五四
奈良大佛	五八
奈良交通	五九
奈良の舊郡	二六七
長岡天神	八〇
長岡舊郡趾	八一
長田神社	二四五
長尾の瀧	二五七
長野遊園地	三一
長峰の櫻	三六三
長濱町	四一〇
内裏趾	一一
内宮神苑	四〇三
清ヶ岡	一七六
清の院の趾	一七六
名切地藏尊	二二〇
名手神社	三三八
楠公誕生地	三三一
楠公夫人の碑	二二九
楠公首塚	三一
鳴川千光寺	二五四
鳴川神社	二五五
鳴瀧寺	三〇四
鳴戸海峽	四八六
直川観音堂	三〇五
並松瀧	三九七
七尾港	四三三
成相山	四二六
成相寺	四二七
成種島	四三二
那智山	四六六
那智瀧	四六八
那智二の瀧	四七〇
同三の瀧	四七〇
那智の四十八瀧	四七〇
永石温泉	五〇七
日本銀行支店	七
日輪寺	三六
仁德帝宮趾	一三
仁和寺	一八三
仁賢天皇陵	二二三
二條離宮	二三
二月堂	五四
二の谷	一一
二樂莊	一三四
二尊院	一八五
二の堂	二二〇
二の丸趾	二二二
二色港	四六三
二木島港	四七九
二條温泉	五〇七
西本願寺	二
西大谷	三五
西山御所	八二
西成大橋	一七
西の宮神社	一三一
西観岩	四四
西温泉	五〇六
西の安の河原	五八
西湖	五二
錦の天神	三三
錦の市場	三三
錦織寺	九八
匂の梅	一〇五
如意ヶ瀧	一三六
如意輪寺	三六七
女人堂	一三六
女人堂	三三九
女人高野	三三五

東 觀 岩	二二二
東 温 泉	四四五
東の安の河原	五〇六
百 萬 遍	五二八
百 花 園	二七
百 間 瀧	一三〇
美 術 館	四六三
琵琶塚	二六
琵琶湖	四七
日 前 國 懸 神 宮	八九
日 方 町	七〇
日 吉 神 和	七二
日 根 野	九二
日 根 神 社	二九六
日 和 山	二九七
日 和 山	四〇六
日 井 岬	四三二
日 井 岬	四三七

日 高 川	四五七
日 置 港	四六三
日 置 川	四六二
廣 出 神 社	七五
廣 澤 の 池	一八四
比 叡 山	八二
比 賣 神 社	二九七
比 良 山	九四
彦 根 町	一〇一
彦 根 城	一〇二
彦 山 路	一〇二
鶴 越	五二〇
姫 路 市	一〇六
引 雲 岡	一三四
七 面 社	一六〇
七 面 の 瀧	一六〇
七 寶 瀧 寺	二九八
橋 本 の 渡	一七五

橋 本 遊 廓	一七五
枚 方 遊 園 地	一七八
枚 岡 神 社	二五五
枚 岡 遊 園 地	二五六
毘 沙 門 堂	一九二
人 丸 神 社	二二四
一 目 千 本	二二五
一 目 萬 本 臺	二二五
一 言 主 神 社	三三七
敏 達 天 皇 陵	三三三
冰 室 の 瀧	二六〇
引 目 の 瀧	一七四
引 本 町	四八〇
聖 神 社	二八九
火 走 神 社	二九八
火 の 御 子 の 社	五二七
瓢 瀧	三九七
雲 雀 山 得 生 寺	四五四

楓 田	五〇〇
左 富 士	五三三
文 樂 座	一〇
佛 光 寺	三三
佛 眼 寺	一四〇
福 原 遊 廓	四三
福 壽 院	二二
福 聚 山 慈 眼 寺	二二六
福 德 寺	二九一
福 琳 寺	三三三
福 井 市	四八八
福 良 町	四八六
再 度 山	四六
不 老 橋	六八
不 動 瀧	二七
不 動 の 瀧	二六

又	
布 引 の 瀧	四五
布 引 櫻	三六九
布 引 瀧	三九七
鶴 塚	一八一
額 田 寺	二五八
沼 島	四八五
根 上 り 松	六六
根 來 寺	三三九
念 佛 石	二〇七
能 福 寺	四六
能 因 法 師 墓	七八
能 勢 妙 見	一五〇
能 塚 野 神 社	四〇〇

乃 木 神 社	一六三
野 中 寺	二二三
野 崎 觀 音	二三六
芭 蕉 堂	三四
芭 蕉 の 墓	九〇
芭 蕉 故 郷 塚	二二八
橋 本 町	五
橋 立 公 園	一七一
橋 杭 岩	四三六
般 若 寺	四四五
般 若 窟	五七
花 折 坂	二六一
花 の 窟	八一
花 の 窟	三一九
花 の 窟	四六八
花 知	四七九

走 井	八八
八 幡 町	九八
八 幡 神 社	九八
八 幡 城 址	九八
八 景 亭	九八
八 幡 瀧	一〇二
八 角 院	一三三
八 角 堂	一七五
八 社 明 神	一八九
八 幡 神 社	二二六
八 幡 地 獄	四一〇
八 合 目	五〇七
服 部 天 神	五二七
服 部 神 社	一四〇
土 師 神 社	四三〇
濱 寺 公 園	三三〇
濱 の 宮	二八四
濱 脇 温 泉	四七五
濱 脇 温 泉	五〇六

反 正 天 皇 陵	三〇八
鉢 峯 寺	三二〇
萬 丈 ヶ 嶽	三二〇
泊 瀨 朝 倉 宮 址	三二八
泊 瀨 列 城 宮 址	三九四
初 瀨 町	三九四
長 谷 觀 音	三九四
榛 原 町	三九六
萩 橋	三九六
播 摩 灘	四八四
播 摩 灘	四八四
平 野 町	四八四
平 野 神 社	四八四
平 石 城 址	四八四
東 本 願 寺	四八四
東 大 谷	四八四

不動堂	二四二
不動岩	二四二
不動寺	二五七
不動阪	三三八
不動堂	三三三
不老泉	五〇六
富壽榮の松	七九
富士崎	三七七
船岡山	八五
船岡社	三六四
武庫の離宮	一〇八
武烈天皇陵	三五九
太山寺	二七
深江温泉	一三三
深日海岸	三〇三
藤森神社	一六〇
葛井寺	三三一
古市桃林	三三

双子山	二二五
二上山	二二五
二見ヶ浦	四〇五
補陀洛山施音寺	三四四
補陀落寺	四七五
布留瀧	三七七
夫須美神社	四六六
富士嶽神社	五二〇
富士の人穴	五二
芙蓉閣	五二〇
平安神宮	二八
平等院	一六九
平城天皇陵	二六八
辨天波止場	四三
辨慶學問所	二六
辨財天の祠	四〇九

辨天島	四九九
兵庫大佛	四六
米穀取引所	五
瓢箪山稻荷	二五二
屏風岩	四四五
別府及び其附近	五〇四
別府温泉	五〇六
豊國神社	六
豊國神社	三五
砲兵工廠	九
堀江遊廓	一五
堀田温泉	五〇七
本國寺	二二
本能寺	二六
本福寺	三六
本照寺	七九

本町通	一〇
本與寺	二九
本宮	一五〇
本宮村	四七一
本門寺	五三二
先斗町	三三
北圓堂	五一
報恩寺	六五
望海樓の趾	六九
寶滿寺	一〇五
寶珠寺	一四〇
寶塔寺	一六〇
寶山寺	一六〇
法園寺	二九
法嚴寺	一九四
法隆寺	二〇五
法輪寺	二〇五
法起寺	二〇五

法明寺	二四四
法華寺	二六六
法福寺	三〇一
法泉寺	四九五
鳳凰堂	一七〇
洞ヶ峠	一七五
保津川	一八七
徹谷	二二五
譽田八幡宮	二二一
牡丹洞	二二五
星田妙見	二二九
方違神社	三〇八
噓間丘	三五七
坊主地獄	五〇八
佛坂	五二〇
松島遊廊	一六
松風村雨堂	一〇八

松原天神	一三〇
松尾神社	一八九
松尾寺	二〇六
松の寺	二九一
松坂	二八〇
松坂公園	四〇一
松原神社	四〇一
松江市	四三三
松江城趾	四三五
松山市及びその附近	四三五
圓山公園	五二
摩耶山	三二
摩耶夫人堂	一三六
摩耶の濱	一三三
舞鶴附近	四二八
増位の温泉	二二五

満願寺	一四九
満願寺	四三三
満島	一七一
旗の靈木	一八四
旗尾山施福寺	二六〇
旗尾山施福寺	二九三
埋淵山	三二四
廻地藏	一九九
真弓塚	二六二
真土山	三三二
纏向	三七七
南御堂	一〇
壬生寺	一三
妙心寺	一八三
妙満寺	二六
妙喜庵	七九

妙法寺	一〇七
妙國寺	二七八
妙光寺	二九六
湊川神社	四〇
湊川新開地	四二
湊川公園	四二
三笠山	五三
三井寺	九〇
三上山	九七
三河塚	一〇七
三室月寺	一六六
三銘松	三二
三輪町	三七八
三輪山	三八一
三輪神社	三八一
三輪崎町	四七六
三熊山	四八三
三熊公園	四八三

三津濱港	五二
水門吹上神社	六四
水無瀨宮	七九
水間寺	二九五
水分道	二三一
御上御社	九七
御影町	一三四
御影堂	三三一
御影社	三六一
御床浦	五〇三
箕作山	一〇〇
箕面公園	一四二
箕島	四三三
敏馬濱	一三六
敏馬神社	一三六
美豆桃林	一七二
みかの原	二〇八
見返り千本	二二六
味方塚	二二九
都跡村	二六七
彌勒寺	三〇三
彌山	五〇三
深山	三〇六
宮瀧	三六二
宮津附近	四二七
宮津城趾	四二七
宮津舞鶴間	四二八
宮島	五〇一
耳成山	三八七
無爲庵	四一
向日神社	八一
向島	五〇〇
六田の淀	三六一
村上義光忠烈碑	三六三
室生寺	三九七
室津	五〇四
結松	四九九
メリケン波止場	四三
明治天皇御陵	一六二
明神大瀧	二二四
明王寺	三二七
明星水の瀧	二四〇
明光寺	二四一
明尾寺	二四二
明礬温泉	五〇七
雌臺	二二四
女瀧	二二五
夫妻岩	四〇五
元高津	二二
元町通	四四
元春日	二五五
持尾山林	一〇七
盲杖櫻	一一五
求め塚	一三四
守口御坊	一八一
守實	五二〇
文珠院	二二一
文珠閣	四二四
文字岩	四七九
桃香野村	二二六
桃尾瀧	三七七
杜本神社	二二三
百舌八幡	三〇九
紅葉の瀧	三二二
紅葉庵	三二二
本栖湖	五二一
八阪神社	三三
八尾天満宮	二〇八

柳谷観音	八〇
柳生	二二三
柳井津	五〇四
柳湯	五〇七
山科御坊	一九三
山吹の瀨	一七二
山口重信の墓	二四六
山村御所	三二三
山室山神社	四〇一
山田市	四〇一
山中及附近温泉	四一九
山中温泉	四一九
山代温泉	四一九
山白浦	五〇二
山中湖	五二〇
矢橋の浦	九七
休の天神	一一六
薬園八幡宮	二〇六
薬師寺	二〇六
薬師寺	二六五
薬師寺	二六五
薬師寺	二九〇
薬王寺	四二〇
薬師温泉	五〇六
大和川	二七五
大和神社	三七七
大和三山	三八七
大和アルプス	四四八
屋島山	四九六
屋島寺	四九六
耶馬溪	五〇九
夢の浮橋	一一九
ゆで焼栗の森	一九六
動き岩	二二一
雄略天皇陵	二二三
湯淺町	四三三
湯淺城趾	四三三
湯崎温泉	四六二
湯峯温泉	四七二
由良港	四七五
四ッ橋	一〇
吉田神社	二七
吉田山	二七
吉田の毘沙門堂	一四九
吉野川の鮎狩	三六一
吉野山	三六二
吉野宮	三六四
吉野町	三六四
吉水神社	三六六
吉野水分神社	三七〇
吉方温泉	四三三
吉田	五二〇
芳峯寺	八二
義仲寺	八九
八日市町	九八
八日市飛行場	九九
米谷の梅林	一四六
米子町	四三四
米子城趾	四三四
陽松庵	一四九
淀城趾	一七二
淀屋辰五郎墓	一七四
與ヶ原	二二二
與通大師	三二〇
用明天皇陵	二二五
養老寺	四二二
養老神社	四二二
夜見ヶ濱	四三四
嫁島	四三五
頼朝狩屋櫻	五二三

吉野山	三六二
根來	三四二
嵐山	一九〇
高野山	三五五
箕面	一四二
須磨遊園	一一〇
日吉神社	九二
平野神社	二二
甲山	七五
廣山神社	七五
釋迦院	一四一
長谷寺	三九五
有馬	一五四
造幣局	八

天王寺公園	一四
土佐稻荷	一五
離宮八幡	一七一
渚ヶ岡	一七六
八角堂	一八九
松尾神社	一八九
車折神社	一九〇
郡山城跡	二〇六
岩倉峽	二二八
星田妙見	二四〇
天王の森	三〇八
觀心寺	三一
延命寺	三二
高觀音	九〇
總持寺	七
三輪神社	三八一

多武峯	三八六
津公園	四〇〇
養老神社	四三
伊奈波神社	四六
小歌島	五〇〇
大寶山遊園	五〇〇
岩國公園	五〇三
梅	
岡本梅林	一三三
五毛梅林	一三三
米谷梅林	一四六
金崎梅林	二〇
北野天神	二
伊加賀梅林	一七九
月ヶ瀬	二五
佐太神社	一八〇
道明寺	三〇

駒ヶ谷梅林	二二三
枚岡山	二五五
大鳥神社梅園	二八七
觀心寺	三一
延命寺	二二
青谷梅林	一九五
句の梅	一〇五
天郷梅林	一九
金熊寺	三〇〇
船岡山	八五
養老寺	四二
瑞龍寺	四一六
栗林公園	四九五
後樂園	四九七
小歌島	五〇〇
桃	
美豆桃林	一七二

遊覽の葉

樂天	二
樂々園	二〇二
羅生門	二二
羅漢寺	五〇
來迎寺	四六
來迎寺	九三
來迎寺	一八一
雷神石	二五一
利休茶室	七九
龍譚寺	一〇三
龍安寺	一四三
龍安寺	一八三
龍安寺	一九六
龍王橋	二二六
龍王瀧	二二六
龍尾寺	二九

龍神遊廓	二八一
龍門山	三三八
龍泉寺	三七二
龍燈松	四二五
龍泉寺	四四五
離宮八幡	一七一
臨川寺	一八六
臨江庵	二八三
林昌寺	三〇〇
履仲天皇陵	三〇九
良因寺	三七七
栗林公園	四九五
瑠璃の瀧	一三四
蓮心寺	六五
蓮城寺	二五一

靈山寺	二六三
靈湖泉	五〇六
六角堂	三
六甲山	七三
六甲苦樂園	一三二
六甲登山	一三二
六萬寺	二五三
六時の鐘	三三五
老蘇	一〇一
和田岬	四七
和田岬砲臺跡	四七
和樂園	四七
和田神社	四七
和歌山城	六二
和歌山市	六〇
和歌山縣廳	六三

和歌の浦	六六
和歌松原	六九
和歌山交通	七二
和田寺	一七六
和田城跡	二八八
和田源秀墓	二八八
和倉温泉	四二三
嫩草山	五三
海神社	一三
海神社	三三三
王仁の墓	二四二
王龍寺	二六二
王塚	三三九
鷲尾山與法寺	二五九
渡邊數馬の墓	四三三
湧出石	四四四
割石峠	五二一

牛瀧山……………二九四  
 錦溪温泉……………三二一  
 觀心寺……………三二二  
 延命堂……………三二二  
 光瀧寺……………三三四  
 高尾……………一八四  
 榊尾……………一八四  
 榊尾……………一八四  
 長岡天神……………一八四  
 禪昌寺……………一〇七  
 鳴瀧寺……………三〇四  
 秋葉山……………三〇六  
 光明寺……………八〇  
 東福寺……………一五八  
 眞如堂……………二元  
 犬鳴山……………二九八  
 十善寺……………二七二  
 長樂寺……………三三

清水寺……………三三  
 若王寺……………二九  
 高觀音……………九〇  
 酒屋神社……………二四二  
 永源寺……………九九  
 船岡山……………三五〇  
 多武峯……………三六六  
 長谷寺……………三九五  
 津公園……………四〇〇  
 養老の瀧……………四三三  
 伊奈波神社……………四一六  
 寒霞溪……………四九一  
 大寶山遊園……………五〇〇  
 小赤壁……………五〇三  
 温泉……………  
 芦屋温泉……………一三三  
 六甲苦樂園……………一三三

深江温泉……………一三三  
 青谷温泉……………一三六  
 寶塚温泉……………一四六  
 武田尾温泉……………一五二  
 有馬温泉……………一五四  
 笠置温泉……………二二二  
 有市温泉……………二二四  
 堺の鹽湯……………二八一  
 錦溪温泉……………三一  
 潮の宮温泉……………二三八  
 芦原温泉……………四一八  
 山中温泉……………四一九  
 山代温泉……………四二〇  
 片山津温泉……………四二〇  
 栗津温泉……………四二二  
 和倉温泉……………四二三  
 城ノ崎温泉……………四三三  
 岩井温泉……………四三三

吉方温泉……………四三三  
 東泉寺温泉……………四四六  
 入の波温泉……………四四九  
 菊の平温泉……………四四九  
 湯崎温泉……………四六二  
 湯峰温泉……………四七二  
 別府温泉……………五〇六  
 濱脇温泉……………五〇六  
 觀海寺温泉……………五〇七  
 堀田温泉……………五〇七  
 明礬温泉……………五〇七  
 鐵輪温泉……………五〇八  
 柴石温泉……………五〇八  
 魚川温泉……………五〇八  
 道後温泉……………五二二  
 海水浴……………  
 西の宮濱……………一三一

古市桃林……………二二三  
 稻田桃林……………二三五  
 倉治桃林……………二四一  
 久米田桃林……………二九五  
 吹田桃林……………七七  
 阿太桃林……………三七七  
 小歌島……………五〇〇  
 つゞじとさつき……………  
 最明寺瀧……………一四五  
 朝日山……………一七二  
 保津川……………一七二  
 安福寺……………二二二  
 躑躅岡……………三〇〇  
 長岡天神……………八〇  
 さつき寺……………一〇六  
 十善寺……………二七二  
 林昌寺……………三〇〇

石山寺……………九五  
 津公園……………四〇〇  
 牡丹……………  
 長谷寺……………三九四  
 山本……………一四五  
 長榮寺……………二四四  
 生瀨……………一五三  
 加古川……………二二三  
 宇治川……………一六八  
 木津川……………二二二  
 紀の川……………三三五  
 吉乃川……………三六一  
 長良川……………四一五  
 茸狩……………  
 鮎狩……………

稻荷山……………八六  
 有馬……………一五七  
 蹠山……………一八〇  
 國見ヶ岡……………三三二  
 孝子山……………三〇四  
 天野山……………三三三  
 茨木……………七六  
 高槻……………七六  
 長野……………三二一  
 池田……………一四四  
 箕面……………一四二  
 宇治……………一六六  
 山科……………八六  
 圓満寺……………一四〇  
 箕面……………一四三  
 勝尾寺……………一四三

瑞寶寺趾……………一五七  
 錦繡寺……………一五七  
 鷺瀧……………五三  
 永觀堂……………二九  
 東福寺……………一五八  
 男山八幡……………一七三  
 枚方遊園……………一七八  
 佐太神社……………一八〇  
 小倉山……………一八五  
 松尾神社……………一八九  
 嵐山……………一九〇  
 龍田川……………二〇四  
 岩倉峽……………二一八  
 安福寺……………二二二  
 四條暖神社……………二二六  
 清瀧嶺……………二二九  
 源氏の瀧……………二四一  
 久米寺……………二九三

鮎瀧	一五二
七面瀧	一六〇
引目の瀧	一七四
千手の瀧	二二二
明神大瀧	二二四
不動の瀧	二二六
紅葉の瀧	三二二
白糸の瀧	二九六
犬鳴山瀧	二六八
音羽瀧	三九三
瓢瀧	三九七
並松瀧	三〇七
瀬戸瀧	三九七
岩屋瀧	三九七
長走り瀧	三九七
布引瀧	三九七
中山瀧	三九七
奥山瀧	三九八

擔ひ瀧	三九八
三の瀧	三九八
西の瀧	三九八
流れ瀧	三九八
鎌倉瀧	三九八
金引の瀧	四二七
日高川の五瀧	四三七
百間の瀧	四六三
雨乞の瀧	四六三
那智の瀧	四六八
二の瀧	四七〇
三の瀧	四七〇
花交の瀧	四九八

打出の瀧	一三三
岩屋の瀧	一三五
須磨	一〇八
鷹取	一〇六
舞子	一一三
堺大瀧	二八二
濱寺	二八六
淡輪	三〇二
和歌の浦	三〇六
新和歌の浦	三〇七
岸和田	二九一
明石	二二四
敏馬の瀧	一三六
樽井	三〇一
阿漕ヶ浦	三〇〇
二見ヶ浦	四〇五

菅屋遊園	一三三
箕面公園	一四二
須磨公園	一〇〇
枚方遊園	一六八
玉手山遊園	一一三
諏訪山遊園	四六
稻荷山遊園	二九
枚岡遊園	三五六
天下茶屋遊園	二七一
中の島公園	六
天王寺公園	四
圓山公園	三二
湊川公園	三二
堺大瀧公園	二八一
濱寺公園	二八四
住吉公園	二七三
岡公園	三三
奈良公園	五

上野公園	二八
長野遊園	三二
淡輪遊園	三〇二
岡崎公園	二八
津公園	四〇〇
松坂公園	四〇一
兼六公園	四二二
橋立公園	四二五
錦光園	四三四
栗林公園	四九五
後樂園	四九七
大寶山遊園	五〇〇
岩國公園	五〇三
朝日公園	五〇八
道後公園	五二三
音羽瀧	三四

鷺瀧	五
布引瀧	四五
鼓ヶ瀧	一五七
源氏の瀧	二四一
清瀧	二二九
權現の瀧	二二九
明星水の瀧	二四〇
長尾の瀧	二五七
清水の瀧	二六一
牛瀧	二九四
赤目四十八瀧	二二九
高座の瀧	一三三
八幡瀧	一三三
瑠璃の瀧	一三四
箕面の瀧	一四二
最明寺瀧	一四五
能勢本瀧	一五〇
同新瀧	一五〇



計畫の葉

- 箕面公園より勝尾寺を経て山越に能勢妙見へ
- 中山寺より清荒神||寶塚等を経て武田尾
- 箕面の觀楓||寶塚の温泉||附近
- 住吉より六甲山越||有馬を経て生瀬、寶塚へ
- 西の宮附近||甲山の大師めぐり
- 岡本の探梅||八幡瀧附近||二樂莊
- 摩耶山詣で
- 天王山より柳谷詣で||長岡の天神を経て光明寺へ
- 寶塚より生瀬、有馬温泉へ
- 長尾驛より洞ヶ峠を経て八幡附近
- 宇治||其附近めぐり
- 宇治より喜撰嶽を経て石山寺へ

- 三井寺より石山寺を過ぎ立木の觀音
- 比叡山より坂本||船にて大津三井寺へ
- 愛宕詣り||三尾の觀楓
- 高尾から嵯峨へ
- 嵐山の花見||嵯峨野の名蹟探り
- 嵯峨野の觀月
- 京都から嵐山まで
- 山科附近||醍醐登山
- 保津川下り||京都めぐり
- 鞍馬詣で
- 伏見のお山
- 石山寺より粟津ヶ原、三井寺を経て疏水抜け京都
- 京都の櫻を訪ねて

- 星田の妙見ミ源氏の瀧附近
- 野崎の觀音から小楠公の戰蹟へ
- 秋の永源寺
- 京都の紅葉を訪づねて
- 瓢箪山より鳴川詣ふで生駒山へ
- 枚岡社より石切社、鷲尾山を経て寶山寺
- 西大寺より秋篠寺附近を経て奈良へ
- 法隆寺附近より龍田、信貴山詣で
- 郡山より唐招提寺附近をめぐり西大寺へ
- 八尾より山越に信貴登山
- 道明寺附近より貴志驛附近
- 金剛登山ミ楠公の史蹟めぐり
- 瀧谷、長野附近ミ觀心寺

- 畝傍の附近ミ多武峯
- 長谷寺の牡丹
- 奈良公園のそゞろあるき
- 奈良より鶯瀧の歡喜天ミ三笠の山頂
- 月ヶ瀬の探梅
- 笠置登山
- 其日ガへりの大和めぐり
- 吉野の觀櫻ミ南朝の史蹟
- 高野登山
- 粉川寺から根來の觀櫻
- 和歌の浦の探勝
- 和歌山から孝子越淡輪へ
- 水間詣で牛瀧登山

- 百舌附近より大島社、濱寺公園
- 住吉より堺市見物と大濱の潮湯
- 天下茶屋附近と住吉詣り
- 須磨寺の櫻と海岸の風光
- 一の谷附近と舞子の老松
- 人丸社より明石城及び海岸附近
- 明石より淡路の岩屋と繪島
- 播州めぐり
- 書寫山詣でと姫路市
- 神戸の視察と布引の飛瀑
- 信貴山より山路暗峠を経て生駒山へ
- 古市より二子山越と當麻寺と其附近
- 金熊寺の觀梅と樽井附近

年中行事一覽

毎 月	一 月	二 月	三 月
子の日 水津大黒……大阪	初 寅 信貴毘沙門……二〇四	節 分 吾孫子觀音……二七五	節 分 善慶寺新年祭……一四九
寅の日 信貴毘沙門……二〇四	初 寅 鞍馬詣り……八四	一 日 善慶寺新年祭……一四九	一 日 枚岡神社……二五五
卯の日 住吉神社……二七三	七 日 箕面辨財天福法會……二四三	二 日 枚岡神社……二五五	二 日 四條噺社……二五六
巳の日 箕面辨財天……二四三	十 日 今宮十日戎……大阪	三 日 善慶寺吉祥祭……一四九	三 日 釋迦堂松明祭……一八五
午の日 稻荷……八六	十 日 西宮十日戎……二二	四 日 善慶寺吉祥祭……一四九	四 日 北野神社梅花祭……二三
午の日 田山稻荷……三〇二	十 四 日 天王寺修二會……二三	五 日 善慶寺吉祥祭……一四九	
一日 生駒歡喜天……二三五	十 五 日 枚岡社彌神事……二五五	六 日 彼岸會 四大王寺……二三	
十六日 岩間寺……六六	十 五 日 ヨリ 男山厄除祭……一七三	彼岸會 本願寺……二二	
十七日 柳谷觀音……八〇	十 六 日 天理教祭……三〇四	一 日 ヨリ 二月堂修二會……四	
廿一日 甲山大師巡り……七五	十 七 日 立木觀音……六六	十 四 日 春 日 祭……五三	
廿一日 東寺弘法大師……三三	十 九 日 釋迦院……一四二	十 五 日 釋迦院涅槃會……一四二	
廿一日 市中大師巡り……大阪	廿 四 日 阿部野祭……二七二	十 五 日 阿彌陀池……二七	
廿三日 愛宕神社……一八六	廿 五 日 天滿神社……八	十 六 日 廣田神社……七五	
	初 午 稻荷神社……八六	廿 五 日 北野社梅花祭……二三	

廿五日 蹉跎天滿宮……………一八〇

四 月

一日 大和神社……………三七七  
上ノ卯日 住吉卯ノ日祭……………二七三  
二の午 稻荷神社……………八六  
二日 松尾神社……………一八九  
三日 榎原神宮……………三三七  
三日 梅宮祭……………一八九  
四日 龍田神社……………二〇四  
八日 大原野神社……………八二  
九日 大神主社……………三八一  
九日 稻荷神社……………八六  
十三日 嵯峨虚空藏……………一九二  
十三日 大鳥神社花摘祭……………二八六  
十四日 日吉神社……………九二  
十五日ヨリ 一週間 中山無緣經……………一四

十五日 平安神宮……………二八  
十五日 生田神社……………二八  
十五日 建部神社……………二八  
十七日 和歌浦東照宮……………二八  
十八日 家原文珠……………二八  
廿一日 東寺御影供……………二二  
廿一日ヨリ 三十日 壬生寺狂言……………三

五 月

一日 向日神社……………八  
一日ヨリ 十日 生駒聖天大磐若……………二三五  
同日 野崎觀音無緣經……………二二六  
八日 阿彌陀池誕生會……………二五  
八日 釋迦院同……………一四二  
十三日 灘住吉神社……………二七  
十五日 加茂葵祭……………二七  
廿五日 湊川神社……………四〇

廿八日 善慶寺大法供……………一四

六 月

一日 貴船神社……………八  
五日 縣神社……………一七二  
十四日 住吉田植神事……………二七三  
十五日 東寺大師誕生會……………三  
十八日 粉川寺……………三六

七 月

一日 大江神社……………大阪  
一日 建勳神社……………八  
六日 箕面山辨財天……………一四  
九日 生國魂神社……………三  
十二日 湊川神社……………四〇  
十六日 祇園山鉾宵飾……………三  
十七日 祇園會……………三  
十八日 高津神社……………三

十七日 御靈神社……………一〇  
十八日 豐國神社……………六  
廿一日 浪速神社……………大阪  
廿二日 座摩神社……………二〇  
廿四日 祇園會還幸……………三  
廿五日 天滿天神船渡御……………八  
卅一日 大鳥神社……………二八六  
卅一日 魚夜市……………二八二  
十日ヨリ 十三日迄 住吉北祭……………二七三

八 月

一日 住吉神社南祭……………二七三  
三日 石切劍箭社……………二五七  
四日 北野神社……………三三  
五日 醍醐寺大護摩……………八七  
十日 水間寺千日祭……………二九五  
十五日 泉穴師神社……………二八九

十六日 大文字送火……………京都  
廿四日 蛸地藏……………二九二  
廿五日 吉田毘沙門放生會……………一四

九 月

九日 中山星下大會式……………一四  
十二日 開口神社……………二七九  
十三日 竈山神社……………七〇  
十五日 男山八幡宮……………一七二  
十五日 菅原神社……………二九  
十七日 石上神社……………三三六  
十八日 粉河寺大曼陀羅會……………三四  
十八日 豐國神社……………三五  
廿六日 日前國懸宮……………七〇  
廿七日 吉野神社……………三四  
彼岸會 四天王寺……………三

亥の子 箕面山法會……………一四  
一日 北野神社……………三三  
五日 手向山八幡宮……………五  
十五日 粟田神社……………三〇  
十五日 蹉跎天滿宮……………一八〇  
十八日 長田神社……………一〇五  
廿五日ヨリ 廿八日 難波別院報恩講……………一〇  
廿六日 天理教祭……………三三六

十一月

十七日 談山神社……………三六

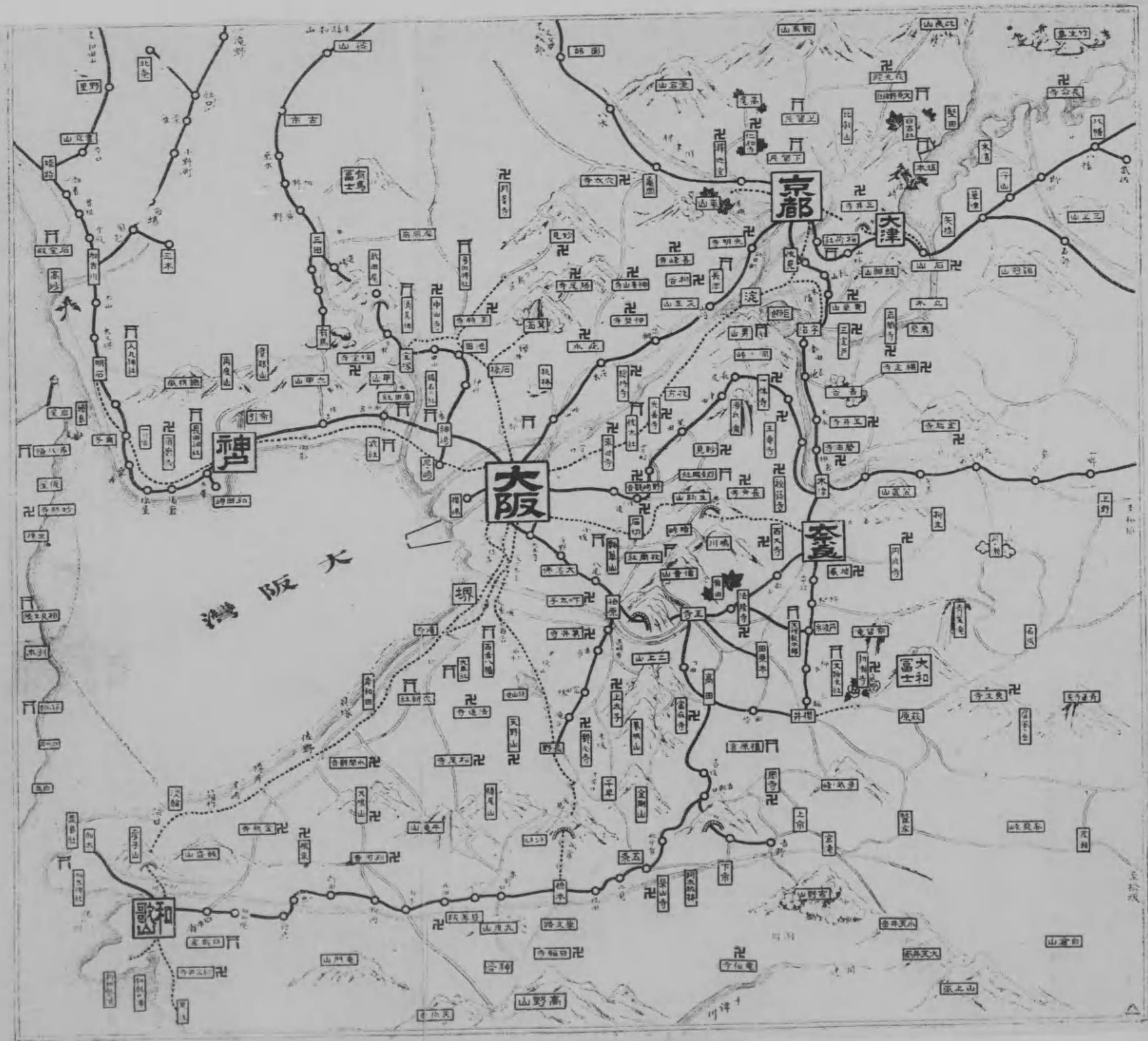
十二月

七日 水無瀬神社……………七九  
十七日 春日若宮祭……………五三





近畿遊覽概圖



近畿五大  
都市中心

# 日がへりの旅路

文學士 市井史 共著  
水島爾保布

—はしがき—

1 きかしては

むかし支那の詩人は『千里の江陵一日にして還る』といつて、一つかき大きな顔を  
 したものだ。千里と言つても支那の一里は六丁だから、日本の里數にするに百六十  
 七里弱、東京大阪間急行列車の十二時間がもう遅すぎる。こいふ世の中では通用しな  
 い。そこに文明の恩恵があるに同時に、いらいらした、餘裕のない世の中の面影が  
 あらはれてゐる。忙しい身体を持つた人々が、疲れた頭や血走つた眼を休ませるた  
 めには、一時間や三十分の僅な餘裕でも、泥棒猫が秋刀魚をさらへるやうな早業で



盗み出さなければならぬ程のせち辛い世の中に、「箱根八里は馬でも越すが」でもあるまい。たまさかの祭日休日の一日を利用して、青い草赤い花の自然を楽しみ、香気な名所見物にいらくした世の中を忘れるよすがにもこの書を編んだ。『日かへりの旅路』と言つても、大阪から出来ても、京都からは出来ぬさか、奈良からならば三日か、るさかいふやうな所があらう、それはその土地土地に應じて旅や遊覽を計畫する人に一任せねばならぬ。唯その計畫に便利なやうに巻頭に名所案内地圖を、四季折々の趣向にあらまし分類して索引を附して置いた。(委しくは凡例参照) 本文はたゞ讀むだけの趣味の爲めや、不圖した通りすがり、汽車を待つ間のすさびにも役だつやうに、各汽車電車の驛々を中心にした名所舊蹟の案内に説明に止めた。旅を計畫する人は是非索引を参照しなくてはならない。

## 近畿五大都市

### 大阪市

むかし大阪の名物をよみ侍りける狂歌さいふにこんなものを數へたてた。

「舟に橋、お城、草履に、酒、かぶら菜、問屋、揚屋に、石や、植木屋」

これは今から百年も前の文化文政の頃の名物だが、今日でも「舟に橋お城」は依然として名物である。「酒」のい、のも定評ありだが、これは本場の灘の郷が近所にあるおかげで、大阪の自慢にはならぬ。「問屋」は即ち商業繁昌の象徴、これこそ實に日本の大名物で、人口百七十餘萬、濛々たる煤煙と紅塵の都、大小成金の巢窟だがある。「揚屋」に至つてはその昔我國近世文化の中心として、近松や西鶴で名高い元

祿文學の發祥した所で、『江戸の女郎に長崎の衣裳を着せて、大阪の揚屋で遊びたい』  
 勝ち御託を歌にまで作った奴があつた。蓋し建物、設備、待遇の點に於て、到底他の企及すべからざるものがあつたわけだが、世の中が氣短になつたので、手つ取り早く、花代のつけかけや、仕出し屋の上前をはねる方へ片づけにかゝるこいふ話だ。従つて今日の揚屋は、昔の墓場にお仕置場で有名な飛田あたりへ投げ出してバラツクの様な家なみの外へ、鐵筋コンクリートで監獄のやうな塀を圍つても、まだ新聞の攻撃の標的になつて、知事さんが閉口するこいふ持てあまし物だ。

さてその外の名物で、『かぶら菜』は今に『天王寺蕪』こいふ名が一部の記憶に残つてゐるばかり、蕪を作つて安い値で賣らうより、借家でもたて、店子をいぢめる方が儲かるから自然消滅。『草履』石や『植木屋』は議論の限りにあらずこ申すべし。

かういふ所の視察でもしやうこならば、こても一日や二日乃至一週間歩いて見た

所で、十分な觀察の出來やうもないが、ほんの一日がけで名所や景氣の見物でもこいふのなら、大略左の所位で大体の輪廓を窺ふこゝが出来るだらう。

【梅田驛】 大阪市の立關口、汽車から上る石造だが割合に貧弱な建物が煤だらけになつて茫然としてゐるのに、見ず知らずの他國人は一寸驚かされる。これでも建つた時は一かき堂々たるつもりだつたのが、市の方では停車場は没交渉に勝手な發展をして行くので、さうく追つけなくなつた、今日では改築問題でやつさもつさをやつてゐる。

【太融寺】 梅田驛より東八丁(市電阪神急行電車前下車東七丁)眞言宗で弘仁年中弘法大師の創建、後に左大臣源融が七堂伽藍を建立したので太融寺こ名づけられた。こ云ふ。境内の隅に藤の棚があつて藤浪亭こいふ昔から湯豆腐で有名な料亭がある。

【堂島】 梅田の南五丁の處で、有名な【米穀取引所】がある、時節柄問題の米の値が

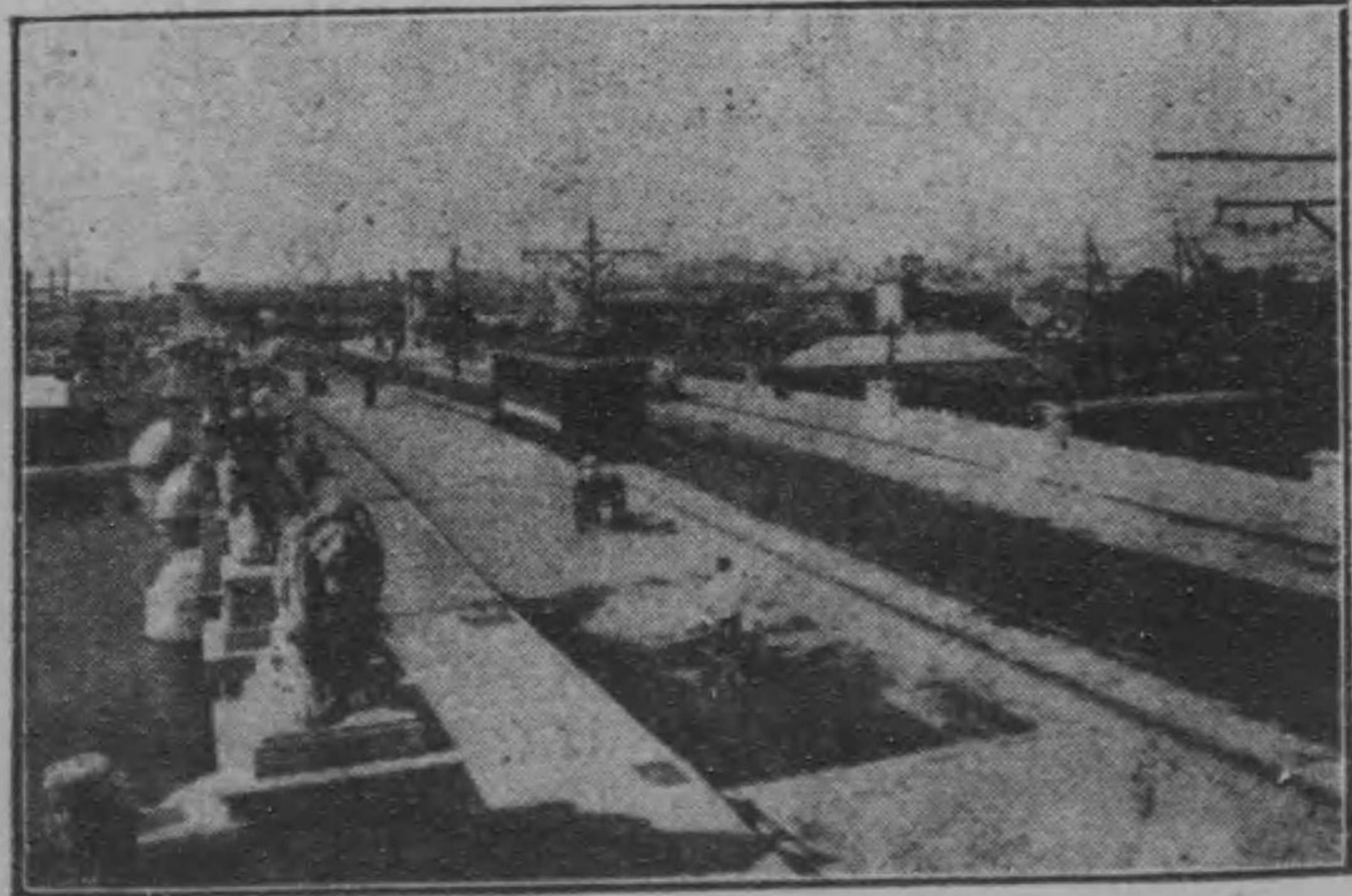
せり上る景氣を見て行くも一興であらう。取引所から北三丁に、近松の淨瑠璃で名高い【會根崎新地】がある。紙治の淨瑠璃で有名な蜷川は會根崎と堂島の間を流れてゐた泥溝のやうな川だったが、明治四十二年の大火から埋められて跡もない。

【中の島公園】淀川の本流が大阪市に入つて天神橋の下流で二つに分れて、北は【堂島川】南は【土佐堀川】になつてゐる、その間にはさまれた地を中の島云ふ。中の島の東端が即ち公園になつてゐるのである。(市電大江橋下車)公園云つても、もこは營養の悪い樹木が埃まみれになつて、ヒヨロ／＼つゝ立つてゐるだけだったので、いつの間にか園内は大きな建物ですつかり占領せられてしまつた、【大阪府圖書館】【豊國神社】【大阪ホテル】有名な岩本某の百萬圓で出来た【中央公會堂】など大阪でも有数な大建築物が櫓を並べてゐる、それに【大阪市廳舎】も目下建築中である、近年東端の大川を埋めたと、公園を擴張した結果、西洋のガーデン式に整

つた、極めて瀟洒な風致を備へるやうになつた、公園の西端、道一つ隔て、【日本銀行大阪支店】がある、堂島川を隔て、對岸に聳つてゐる赤煉瓦の塔のある建物は【裁判所】である。

【難波橋】中の島公園の中央に架せられた鐵骨石材の橋で、その兩端には花崗石で刻した四個波の大獅子の像がある。二百餘の電燈をこりつけ、その規模、意匠、裝飾に於て日本一の稱がある。

上流(東)に見ゆるのが【天神橋】で鐵の長い橋こいふ點で大阪名所になつてゐたが橋が鐵であらうが鉛であらうが、今時の人間はもう驚かな



い。然し美しい大川に長々横はつてゐる橋の景趣は、たしかに水の都の大阪なら  
では見られぬ名所である。天神橋の上流に見ゆる同じやうな鐵橋は「天満橋」であ  
る。天神橋の北詰から東、天満橋までの間が「天満市場」である。青物市場で有名な  
所だ、魚類の市場も中にある。

【天満天神】 天神橋の北数丁の所にある。(市電南森町下車)毎年七月二十五日の祭  
禮は大坂隨一の大祭として知られてゐる。

【造幣局】 天満橋の東北にある。(市電空町二丁目下車東二丁)構内の櫻は有名な  
もので、毎年満開の時期に通りぬけを許される外、局内には人をいれない。造幣局  
の附近に「泉布觀」がある。

【櫻の宮】 造幣局から淀川を隔てた對岸にある。その東南網島に「大長寺」がある。  
何れも京阪電軌野田橋の條参照。

【北濱】 天神橋の下流、大川南岸一帯の地をい

ふ。ここに「株式取引所」がある。(市電北濱二

丁目下車)取引所の南二丁、市電堺筋線高麗橋

二丁目の角に「三越呉服店」の杉大な建物がある大

【大阪城】 難攻不落のた、へられた豊公豪華の

遺蹟であるここは世人の周知する所、今は纔に阪

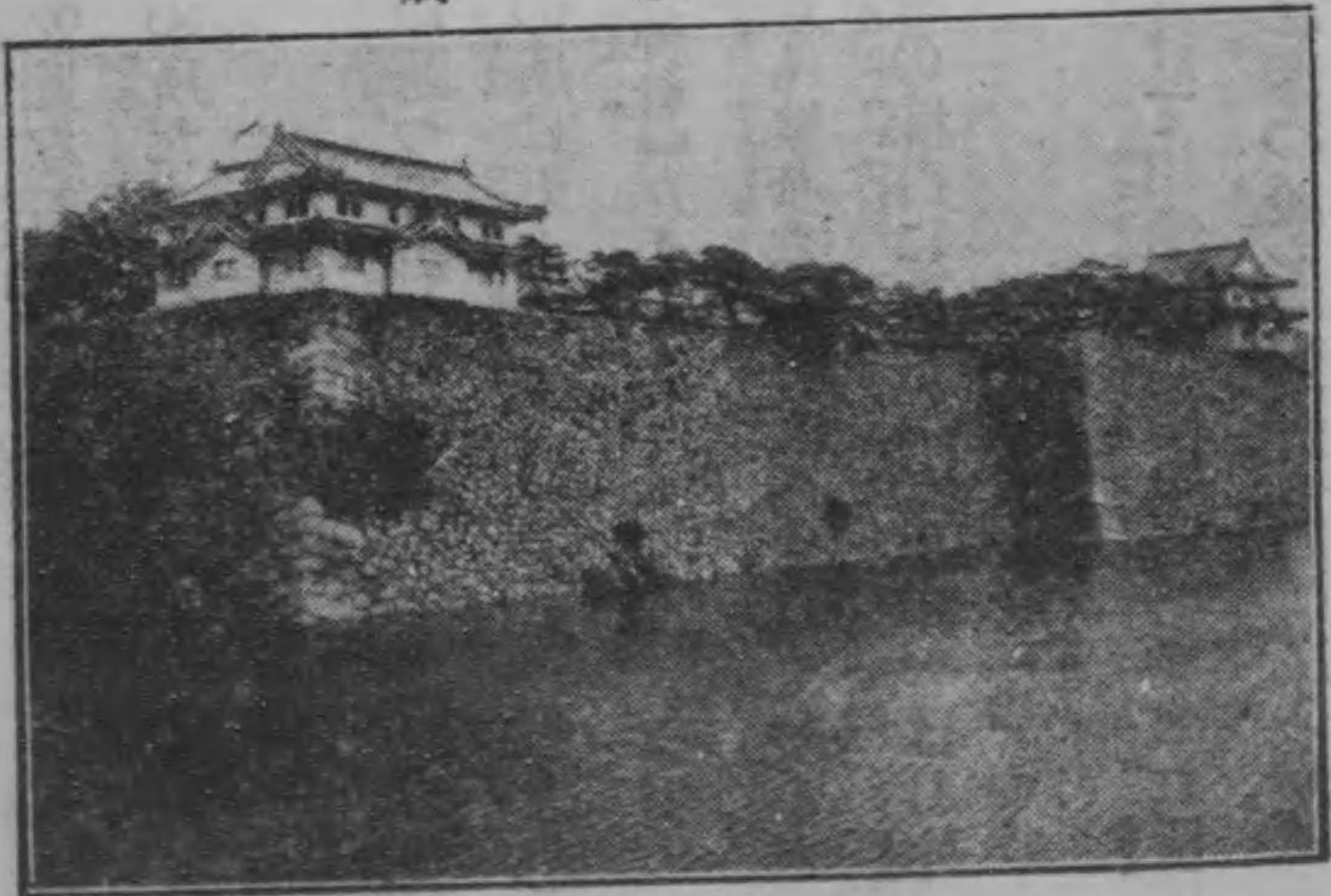
本丸の一部が残つて居るだけだが、その昔の規

模は十分窺ふことが出来る。城内は第四師團司

令部になつてゐる。(市電谷町二丁目下車東二

丁目)附近に「大阪砲兵工廠」がある。

【商品陳列館】 東横堀本町橋の東詰にある(市



電本町橋下車)も博物館と言つたのを改築した宏壯な石造の大建築である。大阪の商品を視察するためには是非見て置かねばならぬ所だ。この附近の本町通は昔から木綿問屋で名高い所である。

【兩御堂】(市電本町四丁目下車)備後町から本町に跨つて西本願寺の別院(津村別院)がある。俗に【北御堂】といふ。ここから南三丁の所に東本願寺の別院(難波別院)がある。これを【南御堂】といふ南御堂の後に【座摩神社】がある。

【平野町】北御堂の北三丁、大阪市北部に於ける最も繁華な街に數へられてゐる。(市電京町橋下車)附近に【御靈神社】がある。この社の境内にある【文樂座】は日本唯一の操芝居として有名である。

【四ツ橋】長堀川と西横堀川の交叉點に橋を四つかけて川岸の通路を連絡させた所だ。別に何の不思議もないが小西來山の、「涼しさに四つ橋を四つ渡りけり」の句こ

共に昔から大阪の名所になつてゐた。今ではも一つ電車の橋がふへて五つ橋になつた。四ツ橋の北に元祿時代から有名な【新町遊廓】がある。(市電新町通一丁目下車)【心齋橋】四ツ橋の東、長堀川にかつた橋で、もこは鐵製の釣橋といふので珍らしがられたものだが、子供もふりむかない世の中になつたので總石造の立派なものに架けかへた。橋は兎に角、此橋の通り筋は大阪繁昌の中心地で、大阪人の物質慾を視察するためには是非こも見て置く必要がある。

【道頓堀】道頓堀の名は芝居と共に、昔から天下に鳴り響いてゐるから、今更説明がましいここもいるまい。(市電日本橋下車)今は熱鬧の中心地として大阪から見落すこの出來ない地である。道頓堀の南の【千日前】はついで御維新前まで草茫々の處であつたが、今日では身動きもならぬ繁昌雜閑の代表的場所になつた。【樂天地】といふ大娛樂場がある。附近の島の内、宗右衛門町、阪町、九郎右衛門町、櫓町、難



地 天 樂 前 日 千

波新地は、所謂【南地五花街】と稱して、現今大阪第一の狭斜の巷である。

【生國魂神社】 延喜式内の舊社で、市第一の官幣大社である。(市電下寺町下車) 高臺なので眺望がいゝ。もこはこゝに澤山な櫻の樹があつて、生國魂の夜櫻といつて名物になつてゐたが今はない。

【高津神社】 生國魂の北三丁、仁徳帝を祀つた府社である。その東方に【元高津神社】がある(市電上本町六丁目下車)元高津の北に【傳光寺】がある梅川忠兵衛の墓といふのがある。實説の

忠兵衛は首を衛られ、梅川は尼になつて伏見で死んだ、こんな所へ二人の墓をこさへるなごはいらぬお世話の蒲焼さ。傳光寺の北に【仁徳帝宮趾】といふのがある、これも學者の説による四王天

【四天王寺】 聖徳太子の建立し給ふ所で佛法最初の地である事は知らぬ者はあるまい。(市電天王寺西門前下車) 但し太子が初めて建てられしたのは東生郡玉造岸といふのだが、推古天皇の元年に今の所に移されたのである。堂塔は其後何度も焼けた、今の堂は徳川四代將軍家綱の再



建した所である。太子堂の入口にある猫門の猫は左甚五郎の作だといふ、宗旨は天台宗である。近年聖徳太子千三百年御遠忌紀念に、高さ二丈六尺重量四萬二千貫といふ世界一の大釣鐘を鑄て境内にかけてある。但しまだ一度も鳴つた事がない。天王寺の附近に「一心寺」がある、文治元年圓光大師の開基に係る浄土宗の寺で有名なものである。

【天王寺公園】 天王寺の西数丁第五回博覽會の敷地をすつかり公園にしたので、廣々設備に於て、大阪唯一の公園らしい公園である、園内に【市立動物園】【公會堂】【武徳殿】などがある。公園の西隣は市の一大娯樂場なる【新世界ルナパーク】である、愚なパークだなきこ一時悪口も言はれたが、そんな事を言つた奴に限つて日曜あたりに妻君の鼻聲で、「ねの貴郎、行きますせうよ」か何かで、ぞろぞろ家庭の圓滿振を發揮するから泰平なものさ。高さ二百五十尺の通天閣といふ高塔があつて、大

阪中が一目に見ゆる。

公園の東北に大阪陣の時に徳川家康の陣所になつて有名な【茶臼山】があつたが、今は住友家の邸内になつてゐる。

【阿彌陀池】ほんごうの名は和光寺といつて、北堀江下通四丁目にある。本堂の北にある所謂阿彌陀池から怪しき光がさすので、本田善光といふ男が池の中を探して見る。阿彌陀の像が上つた、それを信濃へ負つて歸つて堂を建てたのが善光寺であるといふのだ。川柳に「善光も初手は河童と思つて居」いふのがある。和光寺の東二丁の處に【堀江遊廓】がある、(市電北堀江通下車)和光寺の西三丁に【土佐稻荷】がある境内の櫻が名高い。

【雜喉場】 京町堀と江戸堀の西端にある魚市場である。二百五十年程前までは、鷺島と云つて蘆だの薄だのが生ねてゐたさうだ、現今魚市の盛大なるこ關西一と稱

せられてゐる。雑喉場の西に【大阪府廳】がある。明治七年に建つた西洋館で、今でも可成堂々としてゐるから當時世人が驚嘆したのも無理はない。「江の子島の政府」云つて大阪名所になつてゐるが、今では安い米を賣る世話をしてくれるので有り難がられる位のものだ。木津川を距てた向ひ側は【川口舊居留地】で其西に【川口波止場】がある。

【松島】 江の子島の西、木津川と尻無川の分流する邊り一帯の稱である。松島町、花園町、高砂町、緑町、十返町、月見町、雪見町など、所謂【松

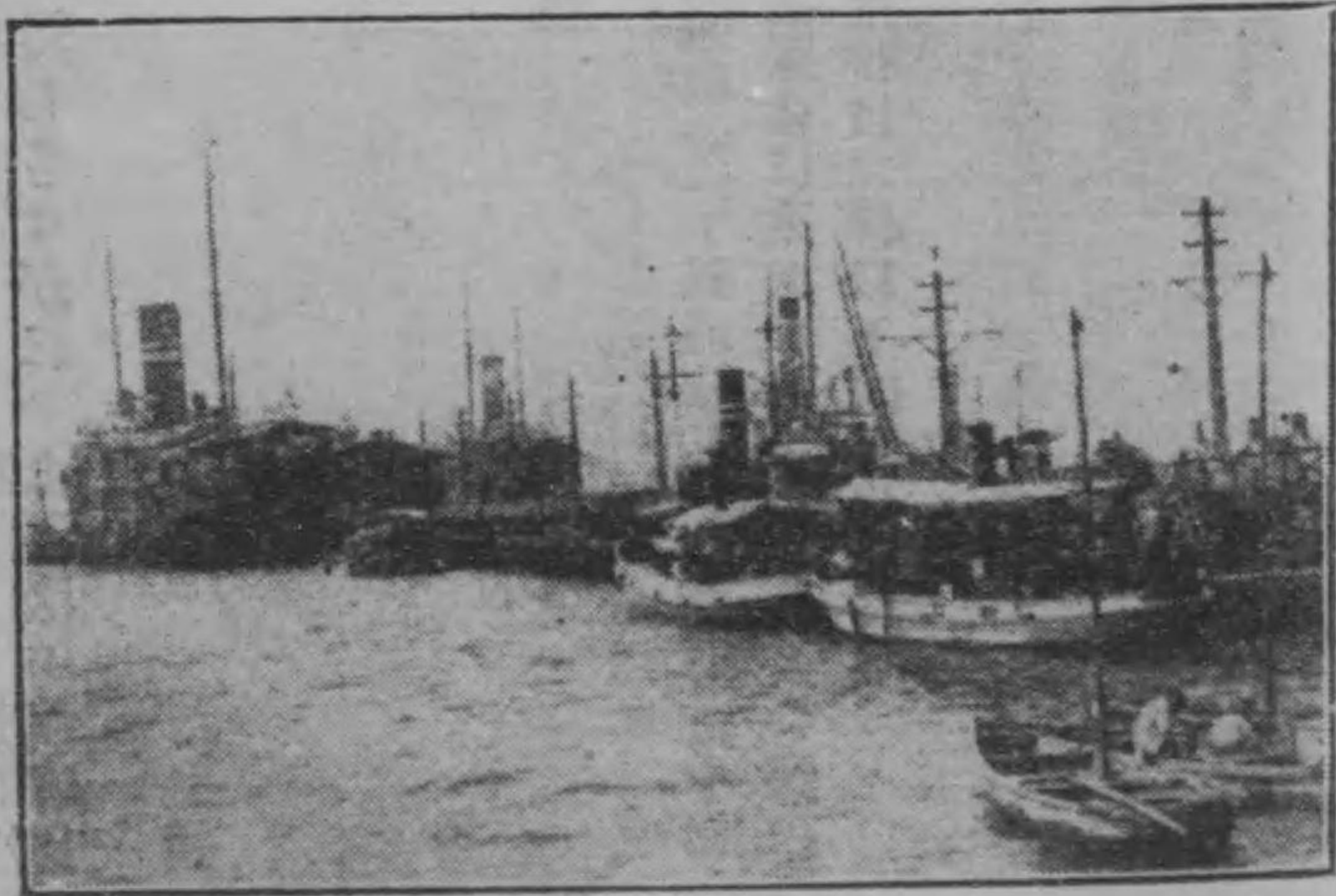
口 川 治 安



島遊廓】で、この邊近來の發展は實に素晴らしいものだ（市電千代崎橋下車）松島から西、【九條通】にかけて今日では第二の千日前といはれる位非常な熱鬧の巷になつてゐる。【茨住吉神社】の附近は二三十年前までは、よく烏撃に人が出掛けたものだが今は大阪西部熱鬧の中心地だ、神社は寛永元年九條島開發當時の創建である。

【築港】 安治川口から木津川口までの大阪灣を明治三十年から十年の歲月に一千萬圓の工費を費してやつと完成したものだ、二百五十間の

橋 棧 港 築





大棧橋は船が着くよりも魚釣で有名なのは情ない、然しさすがに、水深は一萬噸以上の大船を棧橋に横づけに出来るまでにしてある。

大阪土産——岩おこし、蒲鉾、昆布等。

市内の交通

大阪市營電鐵、(賃金)全線均一、片道五錢、往復九錢、(回数券)十五回分五十五錢、三十回分一圓五錢、(貸切車料金)團體乗車の外貸切せず、普通團體は乗車定員に對し一人六錢の割合中學程度男女學校生徒は四錢以上六錢以下、小學生徒は二錢以上四錢以下。  
阪神電軌、市内梅田より神戸に至る。  
京阪電軌、市内天滿橋より京都に至る。  
大阪軌道、市内上本町六丁目より奈良に至る。  
阪神急行電軌、市内梅田より箕面及寶塚に至る。  
高野電軌、市内汐見橋より紀州橋本に至る。

南海電鐵、市内難波より和歌山市に至る。  
同上町線、市内天王寺西門前より住吉に至る。  
同阪堺線、市内惠美須町より堺大濱及濱寺並に平野郷に至る。  
鐵道院本線、市内梅田驛より東は京都東京方面、西は神戸下ノ關方面に至る。  
同阪鶴線、梅田驛より舞鶴方面に至る。  
同西成線、梅田驛より安治川口櫻島驛に至る。  
同城東線、梅田驛より天王寺驛に至る。  
同片町線、市内片町驛より大和木津方面に至る。  
同關西本線、市内湊町驛より奈良を経て伊勢方面及名古屋に至る。

# 京都市

同じくこれも文化文政の頃、京の名物をよみ侍りける狂歌には  
『水、水菜、女、染物、みすや針、お寺、豆腐に、鰻、松茸』

こある。所で、その謂ゆる當時の名物なるものが、依然として皆今日の名物なので百五十年前も今日も少しも變つてゐない所に京の京たる所以がある、すべてが保守的で、因襲的であると同時に、物靜かな、落ちついた品のい、大家の大奥さいつたやうな感じで満たされてゐる。すべての生活はぎこちない油繪の代りに狩野某の古い落款が問題になり、つかみざしの大花瓶よりも投入れのすんごの時代が氣にかゝる、ピアノの代りに古い摺箱の襖のかけから琴の音が洩れて、香水の匂ひよりも、『何々の香爐』から蘭麝が香らうといふ相違だ。名所舊蹟といへば桓武天皇以來御維新まで、千年の帝都として京都市の全體それ自身が既に名所舊蹟である。その山紫水明は海外までも聞わたる、細かな見物は殆ど限りはないが、これも一日が

けの所謂「京めぐり」のいふ主旨で、極めて大体の説明だけに止めて置く。

|| 京都市郊外の名所で少し離れた所は東海道線京都驛の部、山陰線、京阪電軌、京津電軌、嵐山電軌等参照 ||

【兩本願寺】名物の歌にも『お寺』とあけられてあるだけに、京でお寺と云へば些か食傷の氣味がするが、それでも兩本願寺だけは見のがすわけにはゆくまい。所謂京の『お上りさん』なるもの、大半が本願寺詣りの団体なので、櫻の花の咲く候京都の地をふんだ者は、實際京都の本願寺か本願寺の京都か一寸判断に苦しむ程の大勢力を認めないわけにはゆくまい。

【東本願寺】は七條驛から北二丁の處に巍然として聳つてゐる、【西本願寺】は東本願寺の西數丁の所にある、何れも堂宇の宏大、建築の雄偉壯麗なる他に比すべきものもない大伽藍である。殊に西本願寺は、豊公の舊桃山城の建物を移したものが

多くそれ等は何れも特別保護建造物になつてゐる。西本願寺の北一丁の所に「本國寺」がある。

【東寺】(市電七條大宮下車南七丁)眞言宗の總本山である。有名な所謂「東寺の塔」は境内の東南隅にある。高さ三十六間の五層樓で、徳川三代將軍家光が造營したのだが、日本一の高塔として知られてゐる。昔の平安城の南總大門で、鬼の傳説で有名な「羅生門」こいふのはこの東寺の西約三丁の所にあつたこいふのだが今は跡かきもない。

【島原遊廓】(市電島原口下車西三丁)元祿時代には大阪の新町と共に天下の遊冶郎をあこがれしめたもので、江戸の吉原はすべての設備から街並から街の名前まですつかり島原を模して作られたものだ。本元の島原は其後追々衰微して今では昔の佛もなくなつたが、毎年春の太夫の道中はまだ世に知られてゐる。

【壬生寺】(市電四條大宮下車西五丁)眞言律宗、一條天皇の正暦二年創建の古い寺だ。有名な壬生狂言は、この寺中興の祖圓覺上人の始めた大念佛會で毎年四月二十一日から十日間催される。

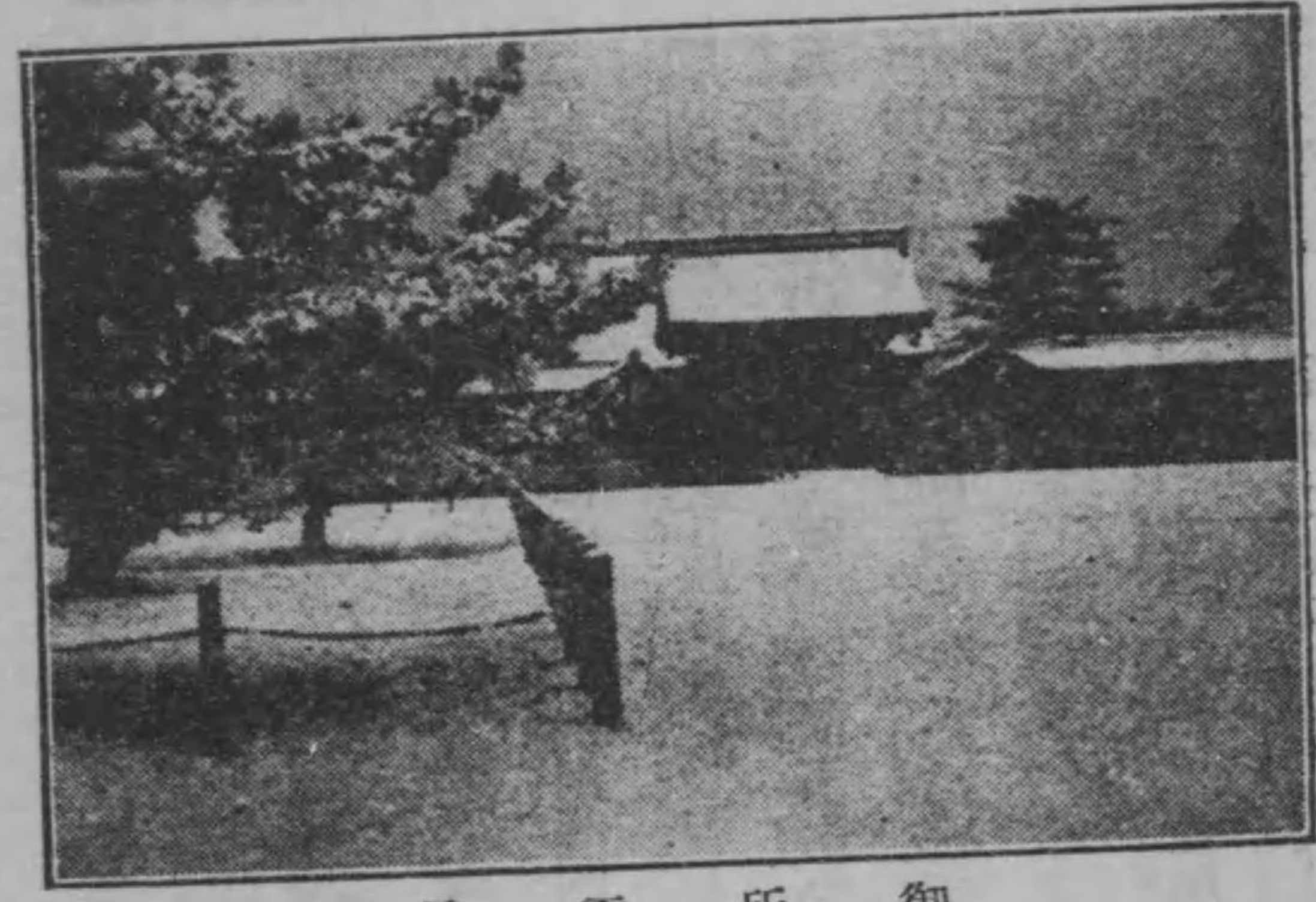
【二條離宮】(市電堀川二條下車)もこは織田信長の居城で、光秀の亂に焼けたのを徳川氏が再築し、慶喜公がこゝに謹慎して遂に大政を奉還したこいふ歴史の紀念物である。今は離宮になつてゐるこゝは人のよく知る所である。離宮の南に「神泉苑」がある、桓武天皇以來歴朝御遊覽の林苑で、今はその一小部分が残存してゐるに過ぎない。

【北野天満宮】(市電北野終點下車西北二丁)菅原道眞を祀つた有名な神社である、村上天皇の天曆元年創建、日本で一番古い天満宮だ。境内に梅の樹が多いので梅時分には非常に賑ふ。北野神社の西北、小北山村に「牛野神社」がある。その西北方、

衣笠村に【金閣寺】がある。東北方、紫野には【大徳寺】がある。何れも東海道線京都驛金閣寺及大徳寺の條参照。

【御苑】（市電堺町御門下車）丸太町から北へ今出川に亘り、寺町から東へ烏丸に接する舊皇居の一廊である。もこは公卿の邸宅なごが中になつたのを、維新後すつかり取拂はれて現在の御苑みなされたもので、中央に【舊皇居】がある【紫宸殿】【清涼殿】なご昔ながらに保存されてある但し現在の建物は安政三年に造營されたもので

寺 閣 金



御所 雪 景  
ある。尚ほ御苑内皇居の附近には、【仙洞御所】  
【桂宮】等の舊蹟、明治大帝の御産湯の井戸なる  
【祐の井】なごがある。また御苑の外西四丁に  
【京都府廳】がある、御苑の東横、元三條家の邸  
趾に三條實萬を祀つた【梨木神社】がある、北方  
今出川通に【同志社大學】がある。  
【下御靈神社】（市電寺町丸太町下車）御苑の東  
南隅、寺町丸太町の南にある。伊豫内親王、藤  
原吉子等罪なくして憤死した者の怨魂を鎮める  
ためにその靈を祀つたもので、鞍馬口の【上御  
靈神社】に對して下御靈といふ。社の南に接し

て西國三十八番の札所【革堂】がある。

【本能寺】（市電二條寺町下車南二丁）下御靈社から寺町通りを南三丁のところにあり。織田信長が殺された所で有名だ、日蓮宗本能寺派の本山になつてゐる。その南に日蓮宗妙満寺派の本山【妙満寺】がある。それより更に南するに京都市繁華の中心たる【新京極】に出る。別項【四條通】の條参照。

【相國寺】（市電今出川學校前下車北三丁）同志社の北方、五辻通烏丸の東にある。足利義満の創建、所謂臨濟五山の一である。再三の火災で今は法堂が残つてゐるばかりだが境内は頗る風致に富んでゐる。足利義政の墓や、後水尾帝御齒黒塚などが域内にある。

【上御靈神社】相國寺の北、鞍馬口の南にある。早良親王、井上親王、橘逸勢其他の怨靈を鎮めた社で、前記下御靈社に對して上御靈社といふのだ。

【下加茂神社】（市電出町終點下車東北七丁）京都市の北部愛宕郡下鴨村にある。桓武帝以來山城國の土産神として曆朝の崇敬厚い神社で、官幣大社になつてゐる。

この邊一帶の地は、樹木蒼鬱として夏でも寒い位である。有名な【糺の森】がある。杜鵑の名所だつたが近年帝國大學や其他附近の學校に遊學する學生達が無暗に巢を構へる結果、村は發展して立派な町になり杜鵑よりホーカイ節の方がはづむやうになつた、毎年五月十五日の葵祭は有名なものである。下加茂神社から北三十丁の所に【上加茂神社】がある、櫻の樹が多いので春は美しい。

【京都帝國大學】（市電丸太町熊野神社下車北八丁）吉田町にある。この附近は學校街で、西隣に【高等工藝學校】、【繪畫専門學校】、筋向ひに【第三高等學校】がある。大學の後は道一つ距て、愛宕郡田中村になつてゐるが、こゝに【百萬遍】といふ淨土宗の有名な寺がある。大學の東方は【吉田山】で【吉田神社】がある。更に東十丁淨土寺

町に足利義政の經營した【銀閣寺】がある、その茶の湯の間は茶室四疊半の始めをなしたものだ。

【聖護院】(市電丸太町熊野神社下車東二丁)帝國大學の南七丁、聖護院町にある、智證大師の開基といふ古い寺院である、歴代法親王が住職したまふたので名高い、附近に京都名物聖護院の八つ橋の本舗がある。

【岡崎公園】(市電慶流橋下車北一丁)岡崎町にある。桓武大皇を祀つた官幣大社【平安神宮】【武徳殿】【美術館】【動物園】【市立圖書館】【商品陳列館】など何れも公園の内外にある。この中で特に見て置くべきものは、平安神宮の祠前にある【大極殿】で、これは明治二十八年、古の大極殿を縮模して造營されたもので、碧瓦彩欄極めて美しい。

【黒谷光明寺】 岡崎公園の東北三丁にある、浄土宗鎮西派の本山として有名である

堂の前に熊谷直實鎧懸の松といふのがある。黒谷を北へ出るに【真如堂】がある、天臺宗で境内の楓が多いので秋は非常にいゝ。

【南禪寺】(市電南禪寺前下車東二丁)蹴上の北、南禪寺町にある、臨濟宗の總本山である、石川五右衛門が住んだといふ山門は中門の東北にあつて、天下就門といふのである。寺の建物の中で特に注目すべきは大方丈である、これは天正年間豊臣秀吉が造營し奉つた皇居清涼殿の建物なので、慶長十六年徳川家康が新に皇居を造營し奉つた時後陽成天皇から南禪寺に下賜されたものである。

【永観堂】 南禪寺の北で如意嶽の麓にある、浄土宗西山派の寺で、境内の楓は有名である。【若王寺】は永観堂の北にある、堂宇は今も廢滅に歸してゐるが、此邊は永観堂と共に楓の名所で、秋になるに杖を引くものが多い。

【蹴上】(市電三條蹴上終點下車)南禪寺の南の地である、逢阪山に穴をあけて琵琶

湖の水を京都へ引いた「疎水運河」の流れが暗い隧道の闇からこの世の明るみへ出た所である。この下流に「インクライン」がある、南禅寺の前から船を山越に琵琶湖の水へ運搬する装置である、「船山」にのほる「こいへば、昔は「船頭多くして」句がついてゐたものだが、有り難いもので今ちや船頭さんはくはへ煙管か何かで、ひこりで山へ登つてゆく。

【粟田口】 蹴上の西で、白河橋の邊をいふ地名である。昔の東海道は即ちこゝを通つたもので、西へ下がるこ三條大橋へ出る。粟田焼といふ陶器が出る。附近に「粟田神社」がある。粟田神社の西に「青蓮院」がある、俗に「粟田御殿」を稱し、天臺宗で、法親王が住持せられたので名高い。

【智恩院】 (市電慶流橋下車南三丁) 青蓮院の南にある、浄土宗鎮西派の總本山として誰知らぬ者もあるまい。有名なのは廻廊の鶯張ミ、から傘である、鶯張の方は



園 公 山 圓

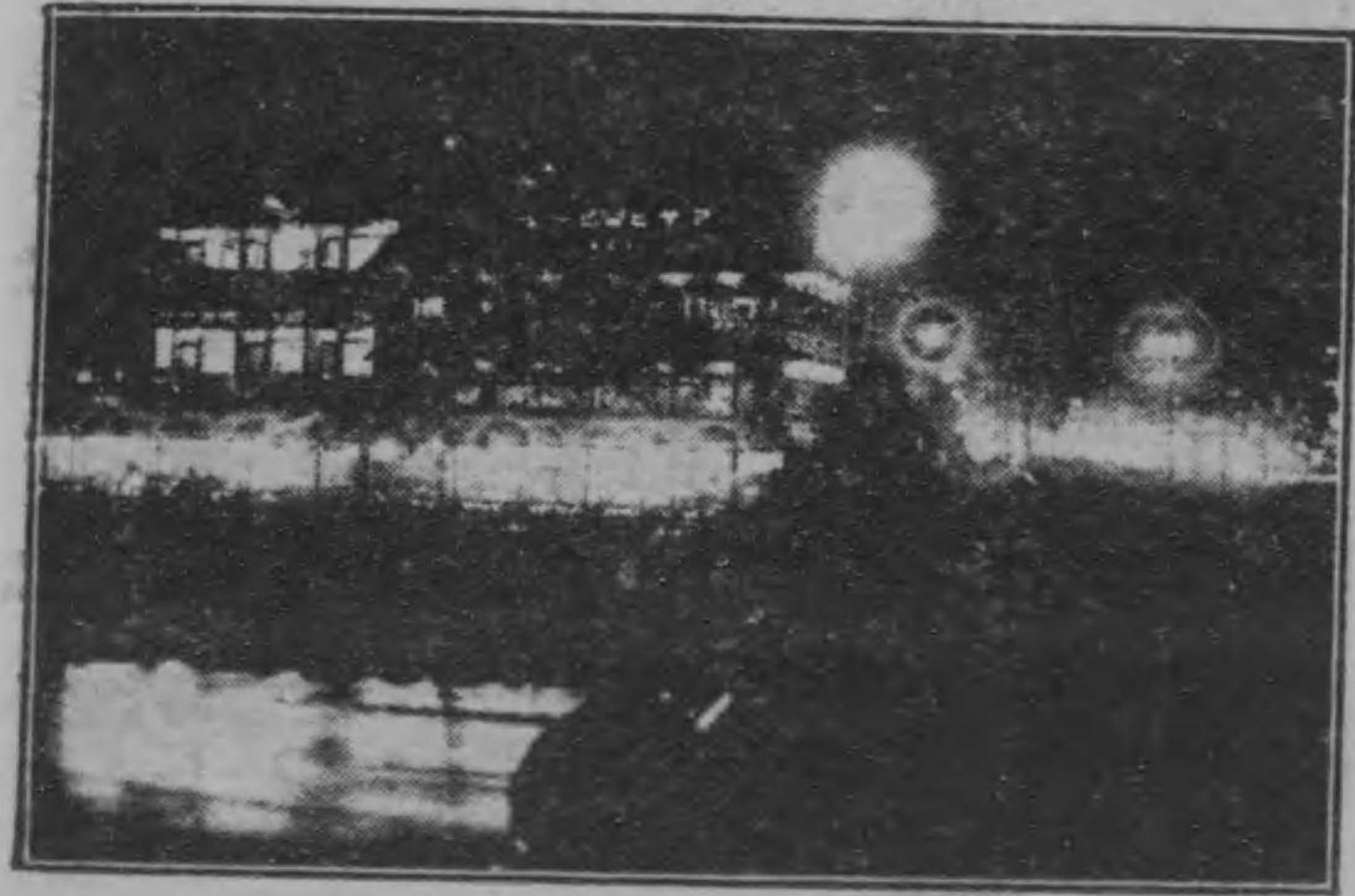
建築の時に大工が拙くて歩きたびに板ミ板ミが軌むのだらうし、傘は屋根屋が修繕の時に忘れて行つたものだらうといふこゝが、ごつちも左甚五郎のせいになつてゐる。

【圓山公園】 (市電祇園石段下車東二丁) 智恩院の西南が圓山である。この邊を眞葛ヶ原ともいふ。雪見の名所で「春は花いざ見にこんせ東山」の唄にある、「色香あらそふ夜櫻」は公園内の西にある枝垂櫻のこゝで、近年枯か、つたのを手入をしたので息を吹き返して來た、「祇園豆腐の二軒茶屋」は今の中村樓になつてゐる、「濡れて

紅葉の長樂寺は圓山の南にある、唄に因んで時雨の紅葉こいふのがある。圓山の頂上に「將軍塚」がある。枝垂櫻の西に「八阪神社」がある。所謂「祇園さん」のことで、毎年七月の祇園祭は天下に名だたるものだ。神社表門の東に「東大谷」がある、東本願寺の廟所である。

【四條通】 祇園の石段下から西に通つてゐる大通である。京都市内で最も繁華な街で、有名な「祇園新地遊廓」は祇園社の石段から西に接した一廓である。夕涼みで名高い【四條大橋】はその西にある。橋の東詰に、昔の四條の芝居、今の南

四條大橋の夏夜景



座がある。大橋の西詰が【先斗町】の遊廓である。更に西数丁ゆくこ、【新京極】がある、四條通から三條通に亘つた南北の通りで、大阪の千日前心齋橋筋を一緒にしたやうな所だ。京都市繁昌の中心地になつてゐる。新京極の中央、錦小路の東端に【錦天神】がある。その西に京都隨一の青物小賣市場【錦市場】がある。錦天神の北に【誓願寺】【蛸薬師】がある。

【六角堂】 (市電烏丸三條下車)六角通烏丸の東にある、本尊は淡路の岩屋から上つた一寸八分の黄金の如意輪観音だこいふ。堂が六角形に建築されてあるので有名である。

【佛光寺】 (市電烏丸佛光寺下車東一丁)四條の南数丁、佛光寺通にある。眞宗佛光寺派の本山で開山は親鸞上人、壯麗な大伽藍である。

【建仁寺】 (市電四條繩手下車南二丁)四條の南にある、相國寺と共に禪宗臨濟派の





五山の一で境内が非常に広い。

【高臺寺】 (市電安井北門下車東三丁) 圓山の南

にある。「高臺寺の時雨」云つて時雨の時分は

清い、所だが櫻の樹も多い、就中萩は昔から有名

なものである。西行が住んだといふ【雙林寺】は

高臺寺の北にあつて【西行庵】【西行櫻】などの遺

蹟がある。【芭蕉堂】池大雅の住んで居た【大雅

堂】なご何れもこの附近にある。

【清水寺】 (市電廣道松原下車東五丁) 高臺寺か

ら南へ出て清水阪を上りつめた所にある。有名

な「清水の舞臺」の下は、【新高尾】の稱のある所

で楓が非常に多い、その側に【音羽の瀧】がある、本堂の北に【地主権現】の社がある、

この邊は櫻がい、。【清水阪】には清水焼の陶器店が櫓を並べてゐる。これから西南

に出るに【烏邊山】又は【烏邊野】云つて王朝時代から有名な火葬場があつて【西大

谷】へ出る、西大谷は西本願寺の廟所で、これから西が【五條通】になつてゐる。

【大佛殿方廣寺】 (市電廣道馬町下車西二丁) 五條通と七條通の間で、大和大路馬町

の南にある、豊臣秀吉の建てたもので秀頼が再建した木造の大佛がある。鐘樓の鐘

は慶長十九年秀頼が鑄造したもので、此鐘に刻した「國家安康」といふ銘句から徳川

家康に物議を起さしめた有名な鐘である。方廣寺の南に秀吉を祀つた【豊國神社】が

ある。秀吉の骨を埋めた【阿彌陀ヶ峰】が後に聳ゐてゐる。豊國神社の東南に【京都

帝室博物館】がある。

【三十三間堂】 (市電七條大橋東詰下車東南二丁) 博物館の西南で塙小路大和大路の

東にある、淨瑠璃の『三十三間堂棟木の由來』で有名であるが、昔はこゝで通し矢こいつて射術の競技をやつたので名がある。今に柱なぎに矢の痕が残つてある。今の本堂は後深草帝の建長三年の造營で特別保護建造物になつてゐる、本尊は千手観音である。

【泉涌寺】【東福寺】 何れも三十三間堂の南方にある、京阪電軌、東福寺の條参照。  
京都土産——八つ橋、千枚漬、京人形、陶器(清水焼、粟田焼)みすや針、櫛等。

市内の交通

京都市營電車、〔賃金〕均一、片道五錢、往復九錢、但し伏見線のみ區制、一區三錢、二區五錢、三區七錢、〔回数券〕十回券四十五錢、廿五回券一圓、五十回券一圓九十五錢、伏見回数券廿五區券五十三錢、五十區券一圓。

京津電軌、市内三條大橋より大津札の辻に至る。  
嵐山電軌、市内四條大宮より嵐山に至る。  
京阪電軌、市内三條大橋より大阪に至る。  
鐵道院本線、市内七條驛より東は名古屋東京方面西は大阪下の關方面に至る。  
山陰線、七條驛より龜岡、福知山方面に至る。  
關西奈良線、七條驛より奈良方面に至る。

神戸市

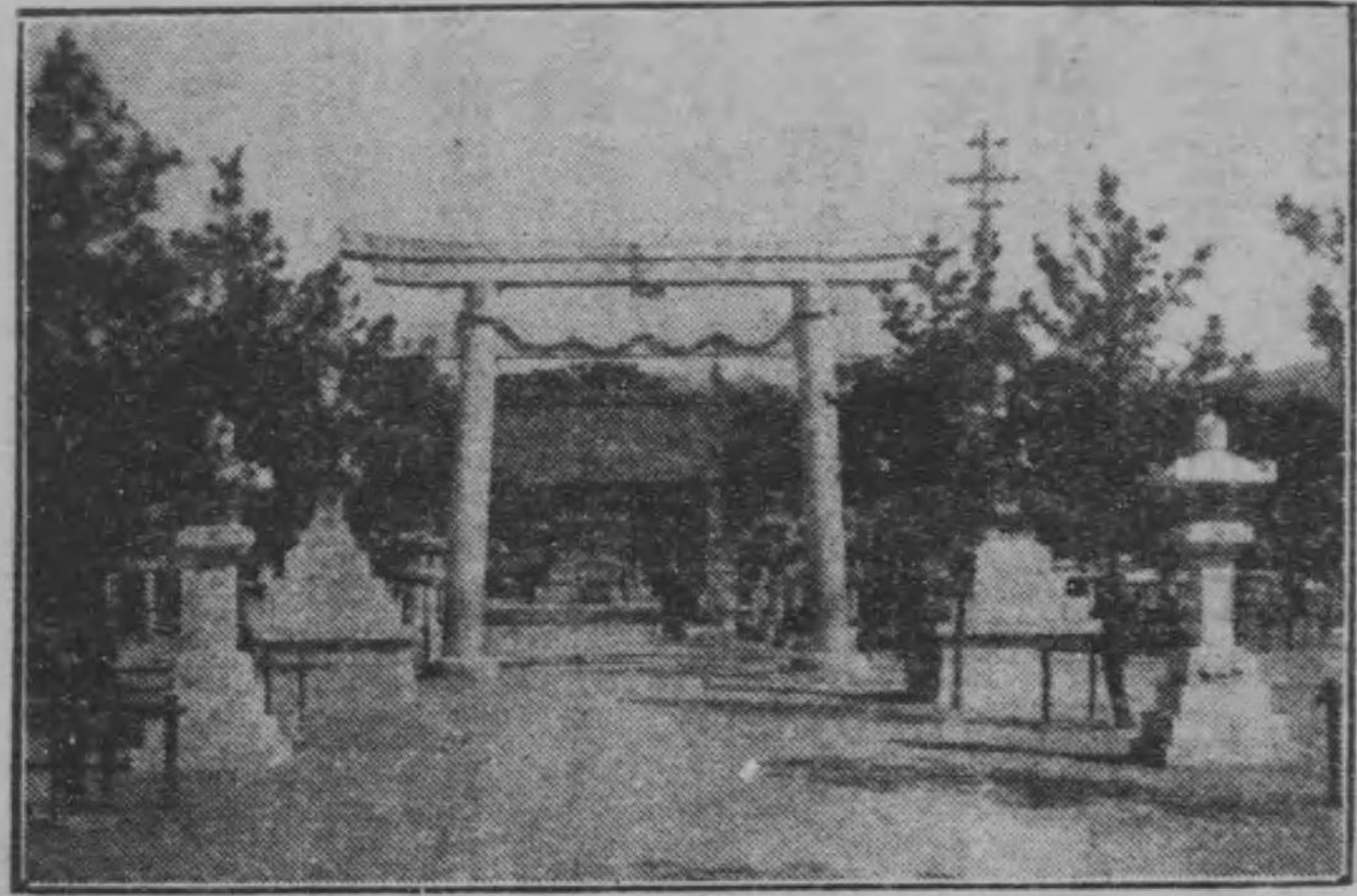
京都の物靜かな美しい落ちついた大奥から神戸の市へ一足踏みこまうものなら、一體この人間は何だらうと思はせられる。けたたましい汽車の笛、腹の底から波うたせるやうな船の汽笛、頭の中へ釘を打ち込まれるやうな造船所のハンマーの音、地這りのやうに轟いてゆく自動車や荷馬車の響き、喧囂な混雑の渦巻の中を、塵埃な煤煙にまみれた眞黒な労働者、足を宙に急いでゆく商人、グデンに酔つ拂つた船員、けばくしく塗り立てた妙な女なごが落ちつきもなく往來してゐる。商店の裝飾窓を見るがいゝ、千家さか遠州さか乃至何々好みさいつたやうな瀟洒な賣品の多い京都さは、似ても似つかぬ赤や青や黄や緑や、鋭いあくさしい、強烈な色彩がわれ一に往來の眼をひかうとしてゐる。そこに神戸市の神戸市たる所以があるのである。何しろ明治の前までは有名な「嗚呼忠臣楠氏之墓」が松林の中に淋しく立つてゐて、湊川の堤防の上からは、きれいな白砂の波打ぎは

さ、茅葺の漁村がチラ／＼見ゆるばかりであつたさは、今の神戸を見る者にしてさうして思へやう。尤も兵庫は古くから船着場として世に知られてゐたけれども、それが今の神戸港のやうにならうなごさは、誰も思ひ設けなかつたであらう。平清盛さいふ男はさすがにエライさ今更らしく感心する程のさでもないが、少くも七百年も前に兵庫に着目して、所謂「福原の都」を經營した勇氣は感心せずばなるまい。近年神戸築港の大工事を起すさになつたので、阪谷男爵であつたか、むつかしい起工文を大きな礎石に彫つけて海底に沈めたが、既に早く清盛の昔、築港工事の始めさもいふべき海面の埋立をやつた、その時には礎石の代りに人柱を沈めたさいふ話が遺つてゐる。

さて神戸さいふ土地は、大きさに於て京都に次ぎ、繁昌に於て大阪さ肩を並べる程の大都會でありながら、前にも言つた通り歴史が極めて新しいだけに、名所舊蹟

こなるこ甚だ貧弱であるのはやむを得ぬ所であらう。住民は諸國からの寄集まり、黄金のために爾の額に汗する出稼人である、黄金萬能で、唯物主義で、強烈な刺戟を低級な享樂の要求で神戸市の隅から隅までが埋められてる所以もこゝにある、同時にそこに潑刺たる生氣、華やかな青春の氣分で満ちくゝてゐるのをつくづく感ぜしめられるであらう。因にいふが今次歐洲戰亂の影響をうけた所謂成金の多い點に於て、神戸は日本第一と稱せられて居る同時に物價の高い點に於ても亦日本一である、次に市内の重なる見物場所を記さう。

【湊川神社】(市電楠公前下車)神戸で天下に知られてゐる唯一の名所舊蹟は湊川神社であらう、神戸驛から北二丁、多聞通二丁目にある、有名な水戸光圀の建てた「嗚呼忠臣楠氏之墓」は表門を入つた右側にある、神社の北方松林の中に「楠公自刃の舊跡」こいふのがあゝる、楠公の一族郎黨が自刃したこいふ無爲庵の跡である、詳しく



は次の【廣巖寺】の條参照。

【廣巖寺】(市電荒田町二丁目下車東二丁)湊川神社の西北五丁、楠町四丁目にある俗に楠寺こいふ。この境内にある【無爲庵】は即ち正成が自刃したこいふのだが、當時の無爲庵は火をかけて焼き、廣巖寺の七字もその時悉く焼けた寺記にある、それに、焼けてから廣巖寺の開山楚俊禪師が、正成の遺骸を函に入れて、庵から百弓ばかり隔てた所へ埋めた、これが今の湊川神社のある所だこいふから、庵の位置も昔こ今は大分變つてゐるわけだ、従つて湊川神

社境内の北隅にある松林がもこの無爲庵の趾とすれば、眞の舊跡はその方にあるわけである。所でそれがまた甚だ怪しい、正成は果して無爲庵で死んだかさうか眞實の所はわからないので、一説には百姓家へかけこんで腹を切つたさもいふ、それも確證はないが無爲庵の方も甚だ便りない。第一、遺骸を葬つたさいふ廣巖寺開山の楚俊禪師は、鎌倉建長寺の雲澤庵の開祖で、正成の死んだ建武三年には既に鎌倉の方にあるた、しかもその年の九月に七十五で死んでゐるのだから世話はない。廣巖寺には種々な正成の遺物だの何だのを澤山藏してゐるが、史學上からいふさ三文の價値もないさうだ、學者さいふものはひねくれたものさ。

【湊川新開地】(市電新開地下車)湊川神社の西にある、元の湊川の川底を埋めたてた地で、大阪の千日前、京都の新京極を更に雑駁にしたやうな所で、現在神戸市繁華の中心になつてゐる。新開地を北へ上るさ【湊川公園】がある、新開地の東が

【福原遊廓】になつてゐる。

【海岸通】(市電榮町三丁目下車)神戸港の繁盛を視察するには海岸通を歩いて見るに限る【鐵道棧橋】【辨天波止場】【第三波止場】【メリケン波止場】なごの棧橋が長々さ海に突出してゐる、第三波止場さメリケン波止場は船客の乗降用棧岸橋で、古い文句だが入船千艘出船千艘の繁昌をまざんさ見るさこが出来る。海岸通りには郵船會社、ピーオー汽船會社、加奈陀太平洋鐵道會社なご内外大小の汽船會社が林立してゐる。海岸通の東のはてが【元居留地】である、大阪の



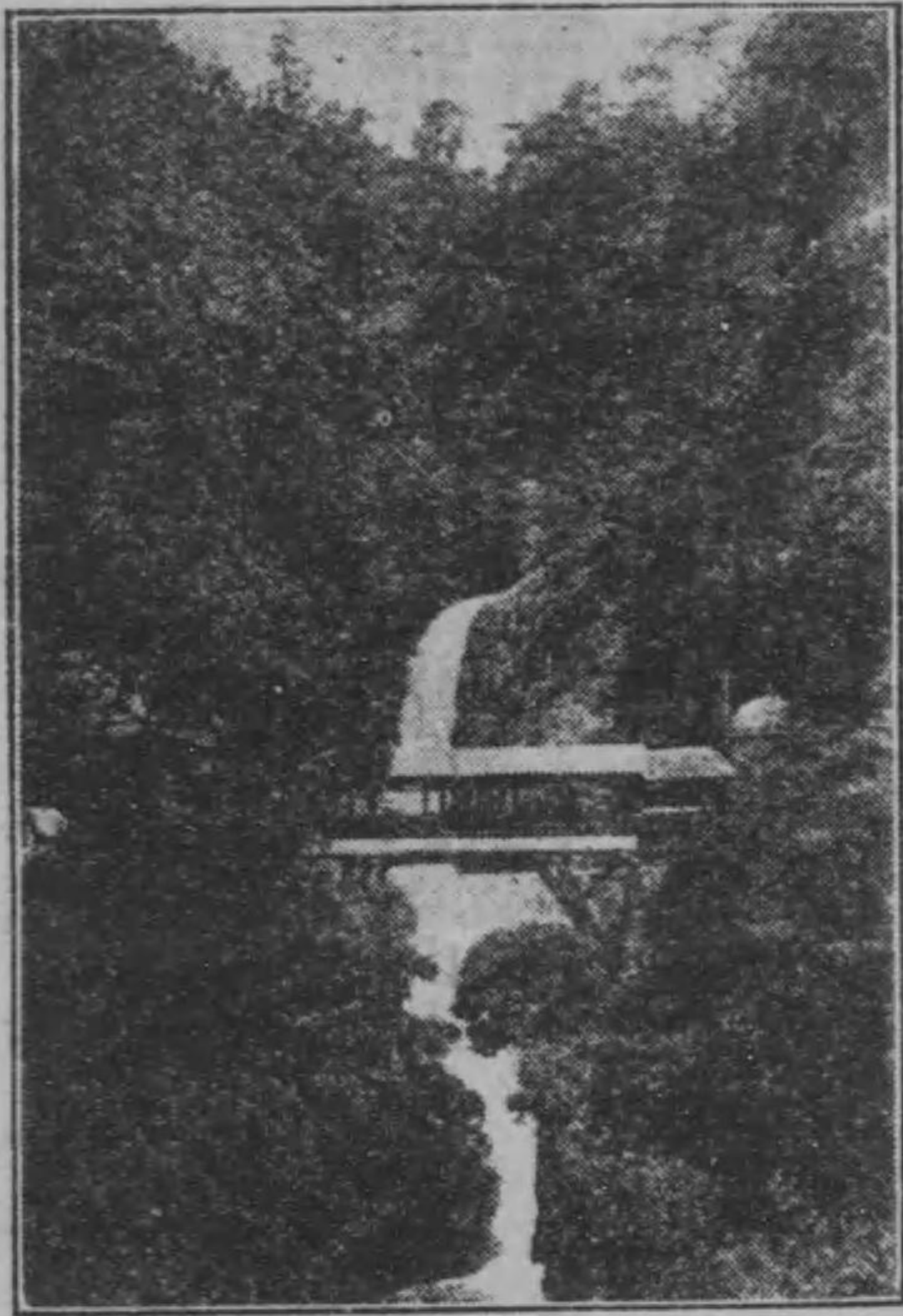
元居留地なき、は雲泥の差のある立派な整つた街並で、一寸外國へ行つたやうな氣持になる所だ。大阪の落語家なきは神戸へ行くのを「洋行」と稱へてゐる、居留地の東に「遊園地」がある、もこ生田川の堤防のあつた所を埋めたもので、美しい芝生や並木が非常に外國人むきに出来てゐる。

【築港棧橋】 海岸通り京町橋を南へ渡るこ築港棧橋に出る、規模の尠大なるここ東洋第一と言はれる丈けあつて其四つの突堤には優に一萬噸以上の巨船を二十艘も横付けに出来やう云ふ頗る大きなものだ。

【元町通】 海岸通から北の筋が榮町通その北が元町通になつてゐる。榮町通りは三井銀行だの正金銀行だのその他立派な洋風の建物をもつた銀行會社が揃比してゐるので神戸でも一番立派な街だ。元町の方は大阪の心齋橋筋といつたやうな繁華な商店の並んだ街で、心齋橋筋よりも路が廣くて、路面をアスファルトやコン

クリートでかためた立派な通りだ、神戸名物の瓦煎餅の本舗がある。

【生田神社】 (市電生田前下車北三丁) 三宮驛から五丁東、下山手通一丁目にある。祭神は天照大御神の皇妹稚日女尊



で神功皇后が勸請し給ふたこいふ神社の後に生田の森がある。此邊一帶の地は源平合戦の時及び兵庫合戦の激戦地として有名である、神社の境内に神功皇后釣竿の竹、梶原景季簾の梅、梶原の井、敦盛萩なきがある、怪しげなものさ。

【布引瀧】 (市電布引下車北三丁) 生田神社から十五丁東北へ上つた所にある。公園

になつてゐる。雄瀧雌瀧に分れ、水の落ちる様が白布をかけたやうであるといふ所から『布引』なる名が起つた。雄瀧の方が見事だ。

【諏訪山遊園地】(市電榮町二丁目下車北七丁)布引から十四五丁西にある。神戸第一の公園で眺望が頗るいい、【諏訪明神の祠】【諏訪山温泉】がある。諏訪山の後は【再度山】と云つて海拔千五百餘尺、山上に【大龍寺】といふ眞言宗の寺がある、【赤松則實城趾】がその前にある。

【來迎寺】(市電島上町下車北一丁)兵庫島上町にある。島上町は福原遷都の時清盛が埋たてた所謂築島で、來迎寺を一名【築島寺】といふ。この埋立の時人柱に上つた侍者松王の冥福のために此寺を建てたといふ。

【兵庫の大佛】(市電大佛前下車東二丁)兵庫逆瀬川町【能福寺】の境内にある。身のたけ二丈八尺、臺石一丈、銅像である、附近に【眞光寺】といふ寺がある、こゝにも

銅像の大露佛が蓮池の畔に建つてある。眞光寺の如來と云つて能福寺の大佛と共に有名である。

【清盛塚】能福寺の西南にある十三層。高さ廿六尺の輪塔で、清盛の遺骨を埋めたといふ。その向ひに【琵琶塚】がある、琵琶の妙手として聞けた平經正の墳である。

【和田岬】眞光寺から西南十丁、神戸港の西南端に突出してゐる岬である。

神戸驛から和田岬行の自動車を通つてゐる。清盛のやつた築港工事の突堤がそれである。非常に景色のいい所、維新の初勝海舟が神戸港を軍港にしたときに築いた【砲臺趾】清盛が萬燈會をやつたといふ【燈籠堂】足利尊氏の【陣屋趾】なごがある。夏期の遊び場所に【和樂園】なごいふのがある。和田の岬の北部、和田宮通に【和田神社】がある。

神戸土産——瓦煎餅、牛肉、豚肉等。

市内の交通

神戸市營電軌、〔賃金〕均一、片道五錢、往復九錢、〔回数券〕二十五回券壹圓  
阪神電軌、神戸市内より大阪に至る。  
兵庫電軌、兵庫驛前より明石に至る。  
鐵道院本線、市内神戸驛より西は姫路下の關方面、東は大阪東京方面に至る。  
同和田岬線、神戸驛より和田岬に至る。

奈良市

神戸市の次に奈良市を書くのは、極端から極端へ脱線するやうなものだ。『青丹よし寧樂山を越へ』なご、古い歌の文句をひくだけ

でも既に浮世離れがしてゐるやうだ。元明天皇から七代七十餘年の帝都として、所謂「奈良朝時代」の爛熳たる文化の淵藪として、奈良一帯の土地が歴史の上に重要な關係を持つ事になつてから、既にもう千年からの歲月が流れた。古いこと云へば、あの美しい山に森に埋もれて、靜かに、平和に横はつてゐる奈良市の長閑なた、すまひそれ自身、たしかに時間と空間のすべてから超越してゐるやうに見ゆる。但現在、奈良市を見て千年前の古都の佛を窺はうなごと思ふ者があるならば、それは大きな間違ひである。今の奈良の街のある所は古の所謂「平城宮」のあつた時代には野原の眞ん中で、その時分の都は今日では田圃の中になつてしまつてゐる。他所では鐵砲を持つて追つかけまはす鹿が、何十何百もなく群がつてゐて、旅客の袂を



馴れくしく引つ張るのにだまされて、太古のやうな奈良市の生活を思ふてはならない、ついこの程も、時節柄の物價騰貴で鹿の餌が足りないために、鹿が町家や百姓家の臺所や田畑を荒すといふ苦情が出て、殺すの殺さぬの紛擾を起したなごは時勢の閃きが見ゆる、いくら明神様のお使しめでも、鹿を殺して磔詰になつた昔の御法度なごは、當世流行のあの、それ、「デモクラシー」ぢやないのさ。  
奈良から名所舊蹟を選出してゐては限がないから、これもほんの見ねばならぬ所だけを左に擧げて置かう。

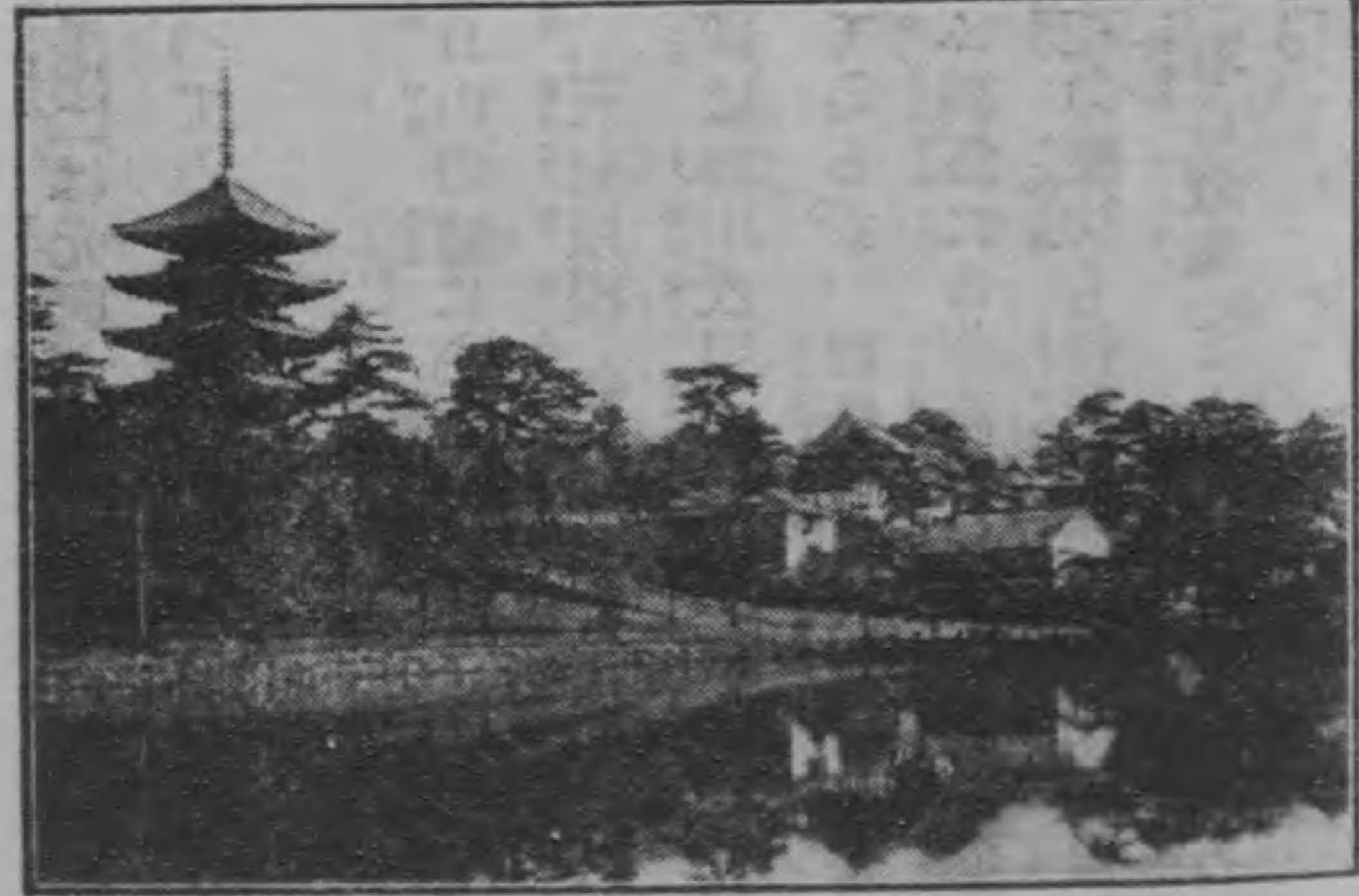
【猿澤池】 奈良驛から東へ三條通を十丁程上つて行く右側にある。周圍百八十六間、柳の樹がのぞいてゐて頗るい、景色だ。むかし奈良の宮女で采女といふのが帝の寵が衰へたのを悲しんで此池に投身したといふ傳説があつて池の西に采女社、東に衣掛柳なごがある。「吾妹子がねくたれ髪を猿澤の、池の玉藻に見るぞ悲しき」

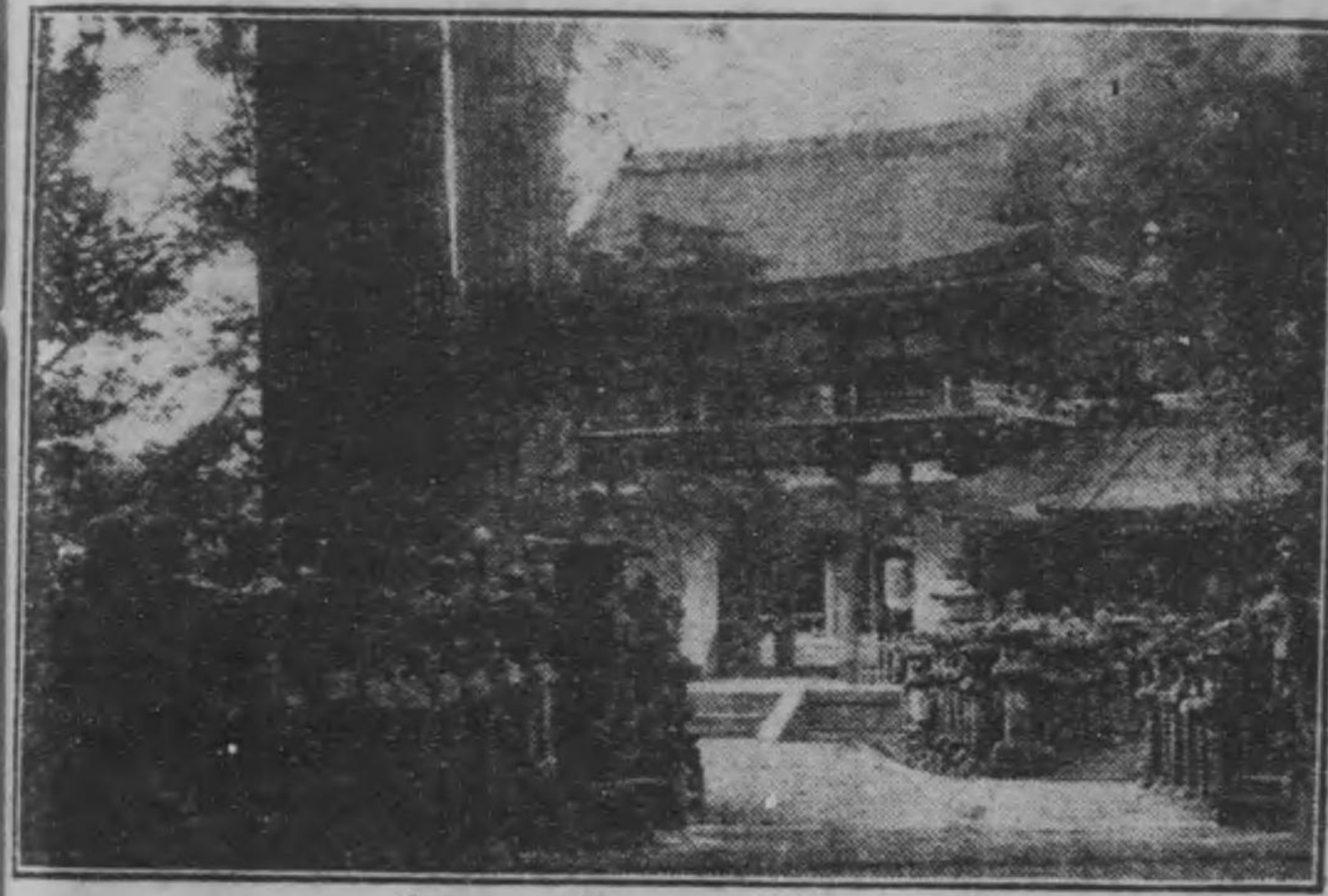
いふ有名な歌がある。池の西側を右へ廻る【木辻遊廓】である、木辻を北へ出る【橋本町】云つて奈良最繁華の街がある。

【興福寺】 猿澤池の北にある。和銅三年藤原不比等が建てた藤原氏の氏寺で、非常に宏壯なものであつたが今は大部分廢滅してゐる、それで

【金堂】【南圓堂】【北圓堂】【五重塔】【三重塔】など、創建當初のものではないが、何れも古い建築が存してゐる。中にも北圓堂は寛治六年の再建で、現存建物中最も古いものである。有名な伊勢大輔の「古の奈良の都の八重櫻」云々よ

猿澤池の澤





んだこいふ「八重櫻」は元興福寺内で、今は師範学校の門内になつてゐる。附近に「奈良縣廳」がある。

春 【春日神社】 春日山の麓にある。祭神は武甕槌命、経津主命、天兒屋根命で、官幣大社になつてゐる。社殿は徳川氏以來二十一年毎に改造する事になつてゐるが、建築の様式は有名な門「春日作り」といふ純然たる藤原時代の様式を襲用するので、現在の建物も特別保護建造物になつてゐる。世に「春日燈籠」として知られてゐる。この社の燈籠は實に夥しいもので、三千から

あるこいふ、節分の夜は悉く點火するので偉觀を呈する。奈良市の殆ど至る所に群かつてゐる鹿は春日の神鹿として昔から非常に尊重され、之を殺したものは磔詰なさいふ死刑に處せられた事は人のよく知る所であらう。春日神社の上方に「春日山」が聳いてゐる。阿部仲麿の歌で有名な「三笠山」はその後にある。

【鶯瀧】 春日神社から奥へ三十丁、天を覆ふて繁り重なつてゐる杉の暗い道を辿つて行く瀧に達する、途で山猿の聲が聞ゆるやうな幽邃な所だ、あまり人が行かない。この瀧の水が流れて奈良市の北方から佐保山の南麓を流れてゐる「佐保川」になつてゐる。「春日山峰より出る月影は、佐保の川瀬の氷なりけり」といふ古歌がある。

【嫩草山】 【鶯山】 【手向山】 【こいふ】 全山一面の倭草で、靜かな草の色が、遙な高い所から溶いて流したやうに緩い斜面を作つて裾廣く廣がつてゐる形は非常

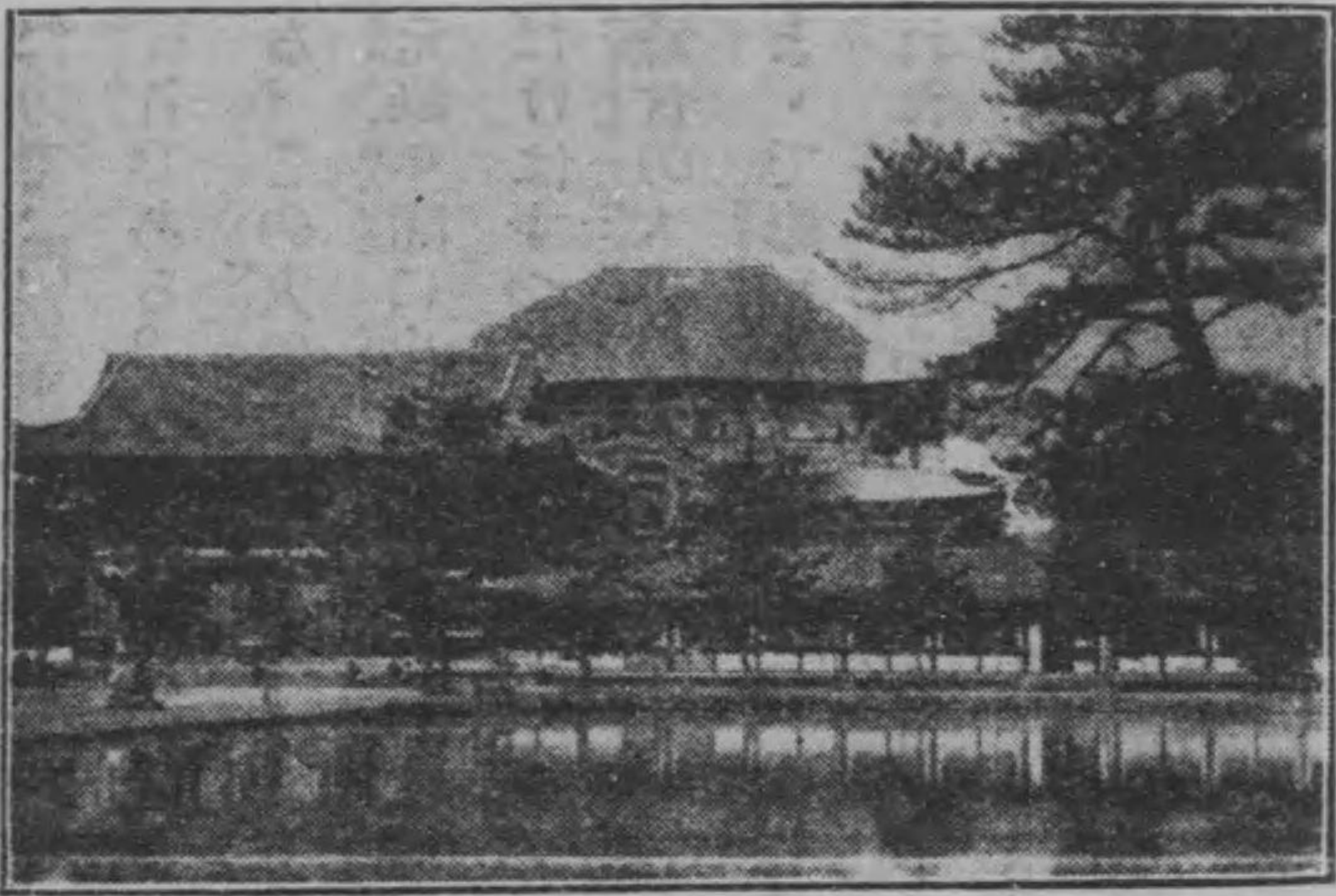
に美しい。麓に【手向山神社】がある。菅公の『この度はぬさも取りあへず手向山』云々の歌はこゝを詠んだのである。

【春日野】春日神社の一の鳥居から三笠山嫩草山の麓にかけてこの邊一帯を總稱して春日野といふ。春秋にも非常に美しい所で【奈良帝室博物館】【奈良物産陳列所】など皆此中にある。

【三月堂】手向山神社を北へ廻つた所にある。天平五年良辨僧正の創建したものが其儘残つてゐるので、奈良最古の建築物である。従つて本尊の不空絹索觀音其他の佛像皆當代の優物で考古學者美術家の垂涎措かざるものである。三月堂の北に【二月堂】がある。これは寛文年間の再興である。毎年二月の水取式は近畿では有名な行事で参詣者が多い。堂の前に良辨杉といふ大きな杉が立つてゐる。二月堂の開祖良辨僧正が子供の時分に天狗にさらはれて來て、この杉にひつかつたといふのだ。

まるで凧さ、それで坊主になつたなごは悪い洒落だ。

【東大寺】三月堂の西にある。聖武天皇の天平年中、行基、菩提、良辨の三僧正勅命によつて創建したもので、古は非常に宏大な者であつたの佛だが、度々の火災で堂宇の重なるものは殆ど廢滅し、現今僅かに大佛殿、南大門、鐘樓、轉害門、正殿、倉院其他二三の小さな堂宇がちりぐりに残つてゐるに過ぎぬ。前記二月堂なごも東大寺の一部であつたのである。この中で先づ注目すべきは【南大門】であらう、これは東大寺の總門であつ



たので、門の兩側にある仁王、金剛力士(西)は運慶、密迹力士(東)は湛慶の作として有名である。有名な奈良の大佛を安置した【大佛殿】は即ち東大寺の金堂なのである。この大佛殿は天平十九年に起工した最初のもは度々の兵火に焼け、現在のは元祿年間に出來たものだ。大佛像も頭が何度も焼け落ちて鑄直したものである。頭だけはすつこ後世のものである。學者や美術家に言はせるに、まづい面ださうだ、鎌倉の大佛様の方が顔としてはいゝ、こいふ、然し胴体から下、蓮座のあたりは古いま、で彫刻も立派である。因にこの大佛像を鑄た當時使つた材料として歴史に記された所によるに、熱銅七十三萬九千五百六十斤、白蠟一萬三千六百斤、水銀五萬八千六百兩、鍊金一萬四百三十兩がある。像の大きさは、高さ五丈三尺六寸、其中で顔の長さ一丈六寸、顔の幅九尺五寸、掌の長さ五尺六寸、中指の長さ五尺、脛の長さ二丈三尺八寸五分、胸の廣さ一丈三尺、腹の廣さ二丈八尺である。大佛殿の

東に【鐘樓】がある、天平勝寶四年鑄造したこいふ有名な巨鐘がかゝつてある。この鐘を俗に『奈良次郎』と稱するので、川柳に、『大きながぶらりしてゐる奈良次郎』こいふのがある。大佛殿の北に【正倉院】がある。今は皇室の所有になつてゐる。聖武天皇七々の忌辰にその御冥福のために孝謙天皇から東大寺へ御寄進になつた聖武帝の御遺寶を、そつくりその中に納めたので、千有餘年の間焼もせず今日まで残つてゐるのである。御寶物の數は三千餘點からあつて、當代の美術工藝の發達を知つるために貴重なる參考材料として非常に尊重せられてゐる。正倉院の西に【轉害門】がある、東大寺の西門で、俗に景清門といふ、悪七兵衛景清が頼朝をつけねらつて此門に潜伏してゐたこいふ傳説のある門だ。

【般若寺】 正倉院から北數丁の處にある。孝徳天皇の御宇に創建されたものだが、寛文年間再建した金堂の外二三が残つてゐるだけである。この寺には僧空海の書い

た寺號の額があつて國寶になつてゐる。

【新薬師寺】奈良市の東南部で高畑町にある。僧行基の建てたもので、大佛殿造營の餘材をもつて建てたさいふ。創建當初のものがその儘今日まで残つてゐるので、本尊薬師如来以下諸佛像皆國寶になつてゐる。

【大極殿趾】奈良市の西北都跡村字佐紀にある。都跡村さいふ名にも知らる、如く奈良平城宮はこの邊にあつたので、今は田圃の真ん中になつてゐる。大阪軌道西大寺の條参照。

奈良土産——奈良晒、奈良漬、奈良團扇、奈良木偶、鹿細工、霰酒、筆、墨等。

市内の交通

市内、人力車自動車の便あり、人車は奈良市巡覽普通五十錢内外。

大阪軌道、奈良より大阪に至る。

鐵道院關西本線、市内奈良驛より東は伊勢、名古屋方面西は大阪に至る。

同關西奈良線、奈良驛より京都に至る。

同櫻井線、奈良驛より櫻井を経て王寺に至る。

和歌山市

和歌山市が南海第一の都となつたのは謂ゆる徳川御三家の中の一親藩の城下であつたためである事は誰も認める所であらう。

一体御三家なるものは、單に徳川宗家の血脈傳統の豫備だけに置かれたわけではない。それには種々な政治上の意義もあつたので、萬一の場合に、將軍家の分身、支店、乃至出張所として、要所々々にあつて諸侯の結束を作る核子となるべき役割をもつてゐた。従て親藩の配置には随分苦心せられたものだ。紀伊家も亦西國の押へこして重要な使命をもつてゐた。それをあべこべに利用したのは由井正雪といふ男だ。紀州侯の判を偽造して浪人を鳩合し、小石川の焔硝藏に火を放つて爆發するのを合圖に、葵の紋をつけた提灯を照らして紀伊殿登城に觸れ込んで城内へ乗り込み將軍を弑さうといふ計畫を立てたものだ。これがために頼宣が非常な迷惑をした事が歴史に載つてゐるが、紀伊家なればこそ幕府でも疑はなかつたが、これが他の外

様大名でもあらうものなら家を潰すいゝ口實だつたらう。その後八代將軍吉宗は紀州家から宗家をつぎ、爾後その血統が續いたが、十三代家定の後また統斷へ、その繼嗣問題で水戸系の一橋慶喜を立てやうとする黨と、紀伊家の慶福を立てやうとする南紀黨が猛烈な争ひをやつた。慶喜は尊王攘夷の水戸齊昭の子であるために時の大老井伊直弼は南紀黨に肩をもつて慶福を推し立てた。これが十四代家茂である後家茂が死んで遂に慶喜が立ち大政奉還王政復古といふ筋道になつた、こんな風で紀伊家と徳川宗家は全然二にして一たるの關係で終始して來た。従つてかの長州征伐の時も紀伊家を征長總督に任じやうとしたが、あまり純然たる幕府黨なので、朝廷に對しても都合が悪い上に薩摩や其他の外様大名に對しても憚るのでやめさせた位である。慶喜將軍が京都で大政を奉還したといふ報が江戸に達した時、紀伊中納言言茂承は徳川の一門譜代諸藩の重役等を赤阪自邸に召し誓言をさせた、その趣意書

は頗る振つたもので

「嗚呼歳寒くして松柏の後凋を知る、誰か幕府君臣の大義を明かにし、寧ろ忘恩の王臣たらむより、全義の陪臣となり云々」  
なごこ脱線してゐる。尤も舊式な封建思想から見ればその心情は多少同情に値する。

何だか話が非常に枝葉に走つたが、和歌山市から徳川家を差引いたらその發達の歴史が零になるので特に記した。次に市内の重なる名所舊蹟をあける、有名な【和歌浦】【紀三井寺】等は和歌山市の郊外ではあるが便宜上その附近の名所と共に和歌山市の部に入れて記すこととした。市内電車(和歌山水電經營)がそこまで通つてゐる。

【和歌山城跡】 驛より十丁、市の中央で虎伏山の上にある。竹垣城こもいふ、天正

年間羽柴秀長の將桑山重勝の築いたもので、その後徳川頼宣の居城になつたのである、今はその一部を公園に開放してある。上からの展望も頗るいゝが、滴るやうな翠松の木がくれに巍然として聳わてゐる城の白壁を下から望んだ景は實際繪のやうな趣がある。和歌山市を訪ふものは先づ必ずこゝを見るべきである。【物産陳列所】が園内にある。公園の北に【和歌山市役所】【和歌山縣廳】がある。東に【地方裁判所】【議事堂】等の建物がある。

和歌山城主閣



【岡公園】 城跡の南に接して更に高く聳わてゐる

る丘で、上からの展望は城趾よりも更に一段勝れてゐる。昔はこゝへ上るに城内がすつかり見ゆるので庶民の登攀を許さなかつた。今は市の公園になつてゐる。山上に西南征清征露の記念碑が建つてゐる。又山上には辨財天の祠があるのでこの山を【天妃山】ともいふ、附近に【師範學校】がある公園の西南麓片岡町に【岡の宮】  
【松生院】なごがある。岡の宮といふのは古聖武天皇の離宮のあつた所だといふ。  
【鷺の森御坊】和歌山驛より東約五丁和歌山城の北にある西本願寺の別院である。永祿六年顯如上人の創建、境内一萬三千九百餘坪の大伽藍である。御坊の北に【朝棕神社】(一名鷺の森神社)がある。

【本町】鷺の森御坊の東にある南北の通りで、和歌山市中最も繁華な所である、就中本町の京橋詰よりふらくり町にかけて殷賑の中心地と稱せられてゐる。

【水門吹上神社】和歌山驛の南方數丁、小野町二丁目にある水門神社と吹上神社の

二座を一社内に祀つたもので水門は蛭子、吹上は大己貴命を祀たものである。毎年十日戎には非常に賑ふ。古事記に出てゐる雄水門といふのは此邊のことだといふ。

【光明院普門寺】有田屋町にあり、上の觀音ともいふ、境内に連理の松といふ有名な巨松がある、高さ十丈、株廻り四間、枝東西二十四間南北十五間といふ大樹で、

もこ南龍公(頼宣)居館の庭前にあつたものだといふ。  
【蓮心寺】吹上寺町の南角にある。本堂は徳川頼宣の造營で境内庭園の風景の勝れてゐるので有名な日蓮宗の寺である。

【報恩寺】同町の西南にある、これも日蓮宗の寺で、徳川氏の菩提所として藩主から寺領を貰つてゐた由緒ある大刹である。同所に【圓如寺】がある。報恩寺附屬の寺で、紀伊侯の第四代頼職の母眞如院の住んでゐた邸宅をそのまま、移して寺にしたので、非常に立派なものだ。



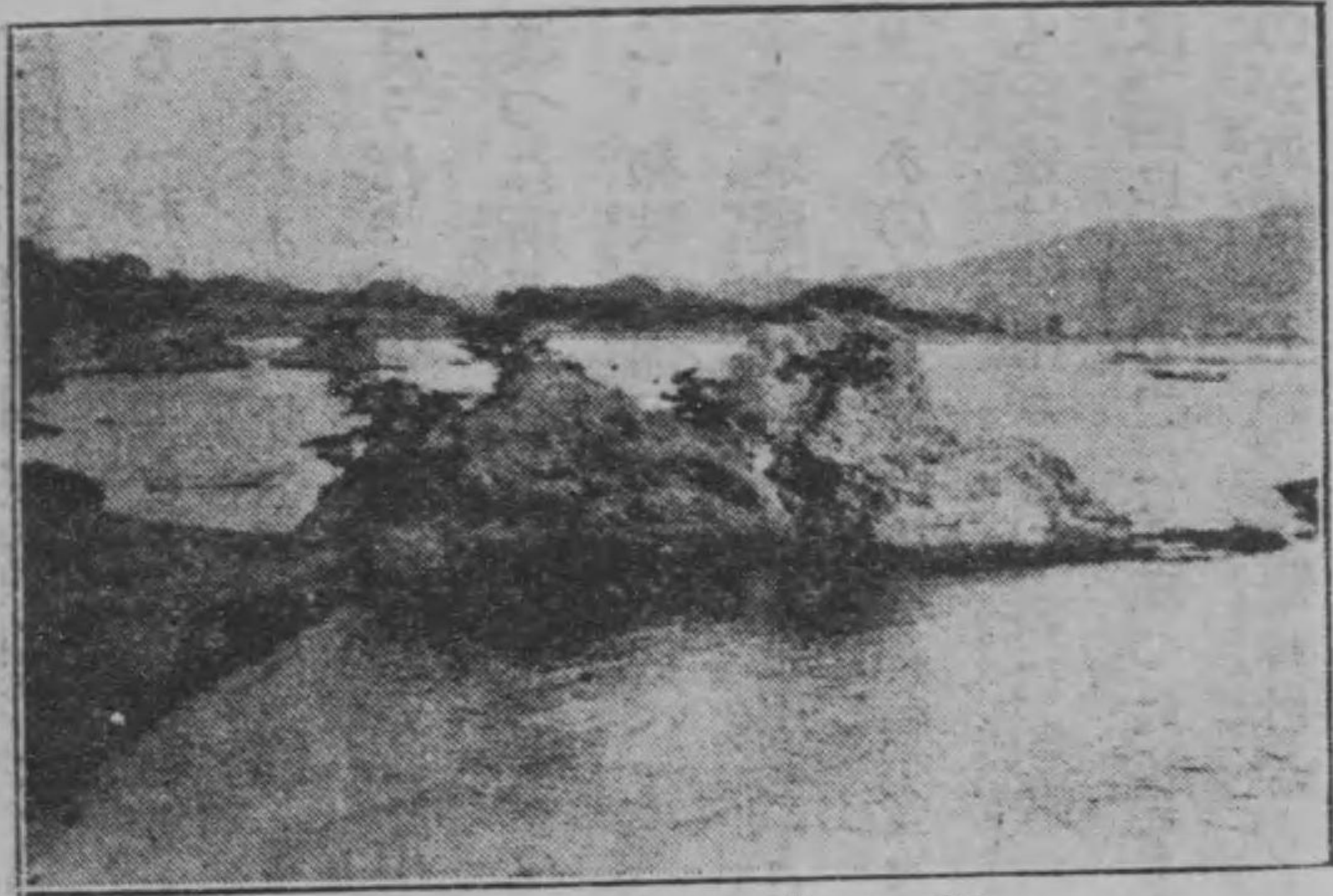
— 和歌山市郊外 —

【根上り松】電車高松停留所附近、和歌山街道に添うて長く續いた松林の中にある。蜻の足のやうに根を露はした老松で、頗る奇觀を呈してゐる、以前には澤山あつたが今では二三株しか残つてゐない。此松林の東【愛宕山】の山麓に【圓珠院瑞光寺】がある、山上の風景が頗る佳い。

【秋葉山】紅葉の名所である、電車秋葉停留所の南にある。その山麓に【五百羅漢】がある。

【和歌浦】和歌村と紀三井寺の間一帯の江灣を和歌浦といふのである。電車は和歌浦口、和歌

塔寶多及閣海觀山背妹浦の歌和



磯神天浦の歌和新

浦、紀三井寺の三停留所があるが、和歌浦口から下りて紀三井寺まで名勝を見ながら歩く方がいゝ。街の前面右に見ゆるのが【權現山】で【東照宮】がある。元和六年の建造で徳川家康を祀る壯麗な神社である。毎年五月十六、十七の兩日の祭禮を和歌祭と云つて有名な大祭である。東照宮の東山麓に【南龍神社】がある徳川頼宣を祀つた神社だ。東照宮の西に菅公を祀つた【天満宮】がある。ここから右の方に見ゆる村を【出島】といふ。魚市場がある。右の方の山に沿ふて廻る【新和歌浦】へ出る、これは近頃出來

た所であるが、非常に雄大な景趣を備へてゐる。これから左へ行こ【片男波】へ出る、『和歌の浦潮みちくればかたをなみ芦邊をさして田鶴なきわたる』こいふ有名な古歌がある。此歌の【芦邊】こいふのは今では和歌村の北の入口一帯の地にあたるさうだ。片男波から道を左に取つてゆくと【不老橋】こいふ石造の眼鏡橋に出る。渡つた所が【塩竈神社】である。人のよく知つてゐる三十三間堂の淨瑠璃の木遣歌に、和歌の浦の名所を數へて『一に權現二に玉津島、三に下り松四に塩竈よ』こあるので塩竈神社を名所だと思つて見るに、實に人を馬鹿にしたつまらないものだ。一説にあの木遣歌は塩竈神社のこころではない製鹽の事を云つたものだこいふ。如何にも此邊は鹽田が多い、殊に和歌村の東にある三葛は製鹽に名のある所だ。中にはあれは『四に塩濱よ』だこ知つた顔をする者もある。何れにしても塩竈神社に關係のないのが眞實らしい。塩竈神社から右へ行くに芦邊屋の前へ出る、芦邊屋はもこ【芦邊

茶屋】こ云つて、昔紀伊侯が此地へ來遊された時茶を献じたこいふ由緒があつて萱の暖簾をたれた茶店であつたのが、和洋折衷の御旅館兼御料理に進化したわけだこの附近には他にもいろいろな料理屋や茶店が客の懐をアテにしてゐる。芦邊屋の後ろに【奠供山】一名【朧山】がある、こゝが聖武稱徳兩帝の行宮、【望海樓の舊跡】だこ傳へられてゐる。山上に藩儒仁井田好古の『奠供山記』を刻した碑があるエレベーターで山を上下する設備が出来てゐる。此山の麓に、例の木遣歌にもある【玉津島神社】がある。先に記した天満宮の邊から玉津島の邊までを【和歌松原】こ云つたのださうだ。木遣歌にある【下り松】こいふのは東照宮の鳥居の前にある古松のこころだこいふが、芦邊屋の前の【妹背山】こいふ小島の丘にも下り松がある。紀州のやうな風波の荒い海岸では岸の状態や風の工合によつて下り松が出来やうし根上り松も出来やう、歌にあるからこて一本だけをそれこきめてしまふ必要もなか

らう。妹背山の上に【多寶塔】がある。本尊の釋迦阿難加葉の三尊は加藤清正が朝鮮から持つて歸つたさいふ。本尊の軀内に賴宣侯の母養珠院の遺骨を納めてあるさうだ。妹背山の東に【觀海閣】がある、遙に海を隔て、【紀三井寺】が見ゆる。紀三井寺は眞言宗の名刹で、西國巡禮二番の札所として有名である。和歌浦の風光は紀三井寺から見るのが一、やうだ。境内には櫻の樹が多いので春は最もい、。

【竈山神社】 紀三井寺の東北方、三田村字和田にある。神武天皇長髓彦を討ちたまふ時皇兄五瀬命流矢に當つて此地で薨じ給ふたさいふ。即ち命を奉祀した社である。官幣大社になつてゐる。今の社殿の東に二重玉垣を施された所が御陵墓である。

【日前國懸兩神宮】 竈山神社から北約二里、宮村字秋月にある官幣大社である。日前宮も國懸宮の二座並び鎮座されてゐる。日前宮の方は神鏡、國懸宮の方は天日矛を御靈代にしたもので、この二種の神寶は三種の神器に添へられた第二の神器で、神武天皇御平統の後、天道根命に仰せてこの國に祀らしめ給ふたこゝは日本書紀にも見わたるゝもこは本郡毛見郷に祀られたものを垂仁天皇の御時今の處に遷座され、伊勢神宮に次で歴代の御尊崇厚かつた社である。神域一萬八千餘坪老樹鬱蒼として森嚴極りなく、また前苑には櫻が多いのこ四邊の眺望が頗るい、ので參拜者が多い。神宮の位置は龍神街道に添ふてゆくこ和歌山市からは僅かに一里内外である、和歌山市の人ならばこの神宮から竈山神社を経て和歌浦に出る一周の旅を計畫するならば一日の行樂に最も適してゐる。

【黒江】 【黒江町】 この地は昔から黒江塗といふ漆器の産出があるので有名である。重に日用の漆器を製出するのでこの産額は實に本邦第一この稱がある、近來は海外までも輸出するやうになつた。

【日方町】 和歌山水力電軌の終點である。黒江町の南に連つてゐる町

で、黒江と同じく漆器を多く出す。特に名産と稱せられるものは傘である。  
和歌山土産——ネル、木綿、小鯛酢漬、すゝめずし、鬢付油、香油、密柑、漆器、傘、羊羹等。

市内の交通

和歌山水力電鐵、和歌山市驛前より和歌山市を経て黒江に至る。(賃金)起點より京橋まで二錢扇の芝まで四錢、堀止まで六錢、秋葉山まで九錢、和歌浦まで十二錢、紀三井寺まで十五錢、布引まで十七錢、濱の宮まで十九錢、黒江まで二十二錢、日方口まで二十四錢、以上の中公園前、和歌浦、紀三井寺各停留所のみ途中下車隨意。  
南海電鐵、市内和歌山市驛より大阪に至る。  
加太鐵道、和歌山口驛より加太に至る。  
鐵道院和歌山線、和歌山市驛より王寺に至る。

東海道線

— 神戸より彦根まで八十八哩三鎖 —

神戸驛

五大都市神戸市の部参照。

三の宮驛

【布引瀧】 【諏訪山公園】 へ行くにはこの驛で下車する方が便利だ、詳しくは神戸市の部参照。

住吉驛

【六甲山】 北に連綿として覆ふが如くそばだつてゐる一脈の山脈を六甲山脈といふ。高い所は海拔三千尺全体が花崗石で出来てゐるので、樹木は少いけれども山の中は千仞の谷や、削り取つたやうな絶壁、剣のやうな奇怪な巖がすく／＼こ立つてゐて非常に雄大な景趣を備へてゐる。【有馬温泉】 へ通ずる【六甲越】

いふ道がある。西の宮に住吉の兩方面から上れるが住吉の方が近い(約三里)路は峻しいが山中の景色は甚だよろしい、夏の登山に最も適してゐる。六甲越の途中、六甲村字高羽に【十善寺】(驛より西北二十五丁)がある、紅葉のいゝ所である、庭前の皐月花も亦名がある。

橋暮日園樂苦甲六



【住吉神社】驛の西隣にある神功皇后を祀つた社である。社殿の後に神功皇后釣竿の竹こいふのがある、神戸の生田神社にも同じやうなものがある、つまらないものさ。

【摩耶山】驛より北へ約一里半、海拔二千三百尺の高山で【切利天上寺】がある、詳しくは阪神電車大石の條参照。

【岡本梅林】驛の北十五丁の處にある有名な梅林である。これも阪神電車青木停留所の條参照。

蘆屋驛

附近に【蘆屋温泉】【蘆屋遊園地】がある 阪神電車蘆屋の條参照。

西の宮驛

【西の宮町】戎神社に酒で昔から有名であるが、阪神電車が開けてから更に非常な發展をした、戎神社は即ち【西の宮神社】の事で驛から十三丁西にある、阪神電車西の宮の條参照。

【廣田神社】驛から北へ十五丁の處にある、官幣大社で天照皇大神を祀る。幽邃な神苑がある。春から初夏にかけて櫻と躑躅で美しい。

【甲山】廣田神社から更に北へゆく、圓い兜に似た形をした山が甲山である、山

腹に【神呪寺】がある。眞言宗の寺で毎月二十一日は「お大師巡り」で近郷近在から夥しい参詣人がある。春は櫻、秋は紅葉で美しい所だ。(驛より約一里、麓まで人力車が通る、車賃約三十銭位)

神崎驛

【近松門左衛門墓】驛の北約十町、川邊郡久々知村【廣濟寺】の中にある。門左衛門の墓は大阪の谷町法妙寺にもある。ごつちがごつちだかわからないが、廣濟寺と近松の因縁は、廣濟寺の中興の祖といふ日昌上人が近松と非常に親密にしてゐたといふのにある。

大阪驛

五大都市大阪市の部参照。

吹田驛

【麥酒會社】が驛の傍にある、朝日ビールを醸造してゐる有名な會社だ。

【瑞光寺】

驛から東三十丁、西成郡大道村北大道にある臨濟宗の寺である、境内に

【鯨の橋】といふのがある、寶曆年間に紀州熊野から寄附した鯨の骨で作つた橋で所

所朽つて來た所を石で修繕したものだから駄目になつたが、それでもたしかに一見の價値がある、明治四十三年今上陛下東宮の御時代に行啓になつた。

【吹田桃林】驛の西三十丁、河田山といふ丘の上にある。五萬からの桃の木がある

ので花時分は頗る見事だ。

茨木驛

【總持寺】驛から北二十丁、三島村字總持寺にある。眞言宗の寺で西

國二十二番の札所として有名である。

【鎌足塚】驛の西北三十丁、將軍山の中腹にある。藤原鎌足の遺骸を最初こゝに埋

めたのを、後に大和多武の峰に改葬したのだといふ。傍に鎌足及其子淡海不比等等を祀つた【大職官神社】がある。

【勝尾寺】驛から約三里、西國二十三番の札所で有名である。阪神急行電車箕面の

條参照。

高槻驛

【高槻町】驛の南三丁、舊永井氏の居城であつた【高槻城趾】が中央にある。城内に式内の古社【野見神社】がある、附近に第四師團工兵第四大隊の兵營が置かれてある。

【地藏院】驛の北五丁、清水村にある。行基僧正の開基で、弘法大師留錫の地といふので信仰する者が多い。

【伊勢寺】驛より約十丁北、磐手村古鳥部にある、有名な歌人伊勢姫が草庵を結んでゐたといふ所で、本堂の西に【伊勢の墓】がある、伊勢寺の東約四丁の所にこれも有名な歌人【能因法師の墓】がある。

【金龍寺】驛から東北約一里、磐手村字成合にある、延暦年間參議阿部是雄の創建に係る天臺宗の名刹で、後ろの【金龍寺山】は松茸が出るので秋は登山するものが多い。金龍寺の本堂の西南に【邂逅の池】といふのがある、昔金の龍がこの池から

昇天したといふので【金龍池】ともいふ、餘計の事をしたものだ。

春風に今は氷もたまきかの池のおもてにさざ波ぞうつ 藤原家隆

【本照寺】驛より約一里、富田村にある、眞宗の寺で堂の前にある【富壽榮の松】といふのが名高い。高さ四十尺、根廻り十五尺、枝東西百五十三尺、南北百尺といふ巨松である。

山崎驛

【天王山】豊臣秀吉と明智光秀が戦つた時の激戦地として有名である。汽車の窓から北に見ゆる丘陵がそれで、驛から約八丁ある、天王山の半腹に【寶寺】がある、行基の開いた寺といふ。麓に【妙喜庵】がある、境内に【千利休茶室】【袖摺の松】なごがある。

【水無瀬宮】驛の南十丁、島本村廣瀬にある、後鳥羽、土御門、順徳の三帝を祀る所で、後水尾帝が屢行幸になつたといふ茶室がある。

【櫻井驛】水無瀬宮の西約十三丁、島本村字櫻井にある。楠公父子訣別で有名な所で、子別れの松を稱する枯木が遺つてゐるが、歴史家の説による。櫻井驛の楠公訣別は當こももない大嘘ださうだ。

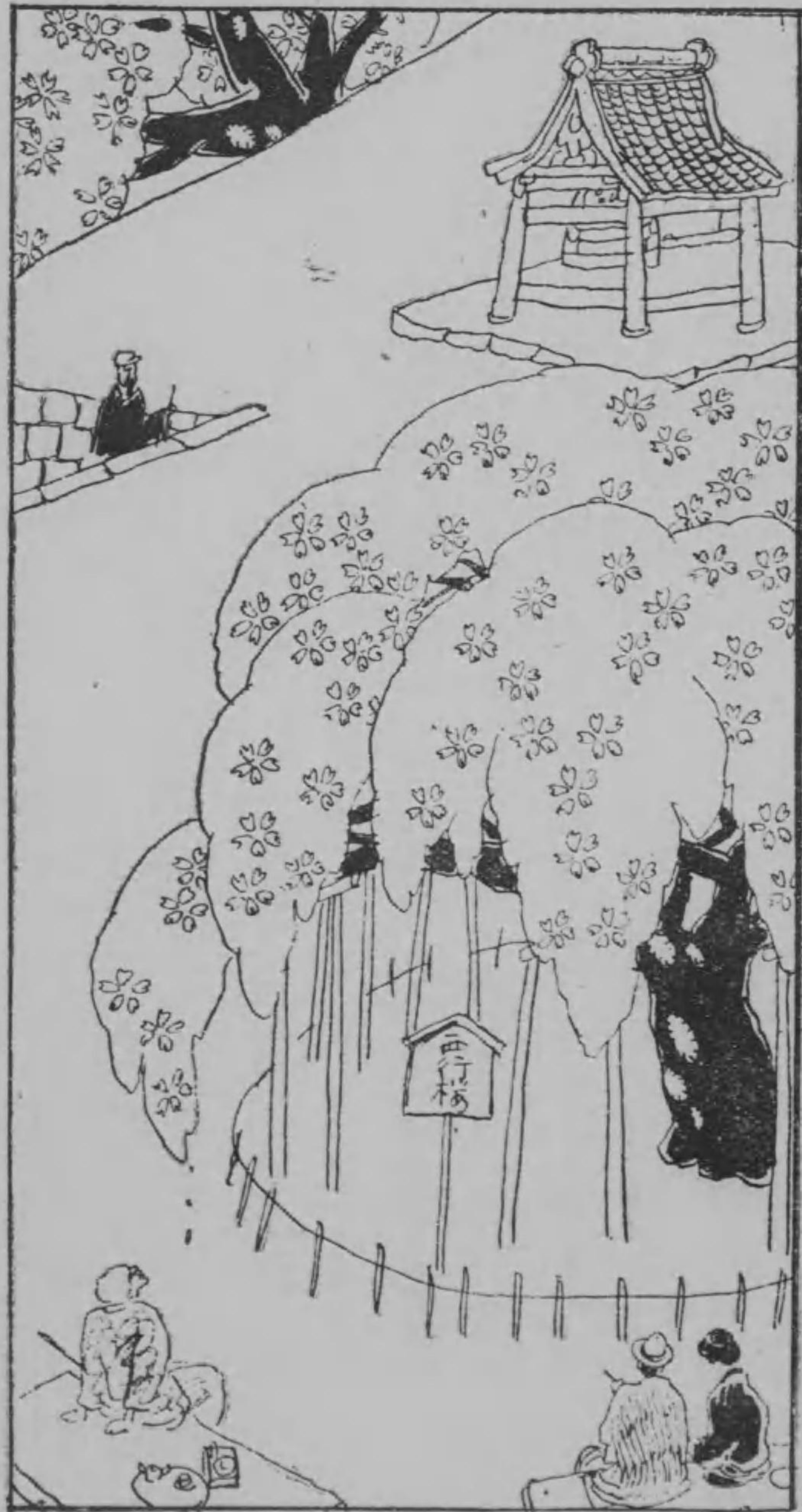
【長岡天満宮】驛より東一里、梅の名所として有名である。躑躅、楓も多いので初夏秋季にもいい遊び場所である。

【柳谷観音】驛の西北三十丁、海印寺村浄土谷にある。眼を疾む者が參籠するので有名である。

【男山八幡宮】山崎驛から下りて南、淀川の渡を越へると男山八幡へ出られる。京阪電軌八幡の條參照。

【向日町驛】光明寺 驛より西南約一里、乙訓村字粟生にある。浄土宗西山派の總本山で、紅葉の名所として有名である。光明寺の東二十丁に【乙訓寺】がある。

花の寺西行櫻





### 花の寺西行櫻

向日町から一里半少許、官幣中社大原野神社の一の鳥居をくゞり石段前を尙北するこゝ二三丁で苔蒸した藁葺の山門に行き當る。そこから豫定の如く石徑が斜めに本堂の前へと通じてゐる。寺は白鳳中年役の行者の草創で西行法師の佐藤憲清が髻を拂つて隠遁した最初の處ださうな。庭前の老櫻は西行手植のもの、二代目ださういふ。「花見にさむれつゝ人の來るのみぞ、あたら櫻のさかにはありける」さういふ歌はこの櫻を詠じたものださうだ。名に稱する丈あつて、庭外庭内凡て櫻である。

聖徳太子の御創立弘法大師中興さういふ由緒のある寺で、境内に弘法大師手植の菩提樹さういふのがある。國寶の毘沙門天がある。

【長岡天満宮】 京都から來るものは向日町驛で下りてもよろしい、山崎驛で下りるのこは少し遠いだけで馬車が通つてゐる。

【向日神社】 驛より十五丁、向日町字勝山にある神武帝を祀つた社である。此神社の馬場の櫻は名高い。字鶏冠井には桓武天皇が奈良より始めて都を移されたさういふ

【長岡舊都の趾】がある。

【大原野神社】 驛の東約一里十二丁、大原野村にある官幣大社である、仁明天皇が奈良の春日明神をこゝに勧請して平安城の守護に定め給ふたさういふ。頗る壯嚴な神社である。大原野神社の西に【勝持寺】がある、境内の櫻は有名なもので、此寺を俗に【花の寺】さういふ。

【芳峰寺】大原野村小塩の山腹にある（驛より一里半）法親王の入室があつたので  
 【西山御所】こも稱せられた、西國二十番の札所になつてゐる。櫻や楓が多いので  
 春秋杖を引くものが多い、紅葉時分は殊に佳い。  
 わきてなほもみちの色や深からむ、みやこの西の秋の山里、  
 慈道法親王

京都驛 市部は五大都市京都市の條参照。

【比叡山】京都市の東北に巍然として聳てゐるのがそれである。海拔二千七百尺  
 山上の【延曆寺】は桓武帝の勅を奉じて傳教大師の建立する所、天臺宗の總本山と  
 して古來名だゝる靈場である、（大津市の條参照）。頂上の峰を【四明ヶ嶽】こいふ  
 山城近江の山野一眸の裡に收まり壯快いはむかたなし、なぎ、敢て鹿爪らしくいふ  
 までもなく、昔平將門はこの上から宮城を望んで逆心を起したさうだ。こんな男  
 は論外だが、少くも脚下にあつまつた山河を睥睨して滿腔の氣を吐くなぎは天下の



比叡山四明ヶ嶽リ琵琶湖ヲ望ム

快事であらう、夏季は登山者が非常に多い。  
 京都から比叡登山の道は三つある。一は【白河  
 村】から上る道で里程は遠いが登るのに樂であ  
 る。今一つは修學院村からする道で、これは道  
 が最も峻しい。【修學院村】には【修學院離宮】  
 がある、櫻で有名な所だ。楓もいゝ。またこの  
 南の方に石川丈山の隠遁した【詩仙堂】がある  
 他の登山道は八瀬村からする道である。八瀬の  
 一里奥に大原村がある、紺の着物に三巾前垂、  
 白の手甲脚絆がけで、頭に荷物をのせて行商に  
 出る所謂「八瀬や大原」の女は有名なものである

大原村には「大原御幸」で有名な「寂光院」がある。

めせやめせ夕けのつま木はやくめせ、かへるさ遠し大原の里 香川景樹

【鞍馬山】 京都の北三里、牛若丸が天狗に剣術を教はつたこいふので有名だ。淨瑠璃ではその天狗實は鬼一法眼某で、六韜三略が盗み出したさに牛若が天狗の娘みな鶴姫ミドレあふここになつてゐるから使ひないものだ。此山の杉は有名なもので晝猶ほ暗きまでに繁茂してゐる。山の中腹に「松尾山鞍馬寺」がある、天臺宗の寺で、毎年一月初寅の日は鞍馬詣りで賑ふ、鞍馬寺の西北に「僧正谷」だの【天狗杉】だの天狗に關係した傳説の名所がある。僧正谷を西へ下るに【貴船神社】がある、鞍馬山は杉の外に櫻も多いので春も頗る美しい、登山は京都市の北端鞍馬口から西へ、市原村野中村等を経て道がある。

【大徳寺】 一休禪師が居たこいふので有名な寺である。京都市の北郊、東紫竹大門

大原



# 大原

京の出町から北へ川に沿つて行く。路は南宗畫を見るやうな閒逸と清雅との風趣でもつて次々へこ繰り展べられて行く。約三里ばかりして三千院、更に細徑のうねり五六丁ばかりで寂先院に續く。ごつちも森閑としてしかも清らかな山寺だ。

ほごへては月もうかはむ大原やおぼろの清水すむ名ばかりに  
良暹法師  
と歌にも詠まれた臚の清水さいふのは人家の石垣の下躑躅の根かたに形ばかり  
残つて、小さな鮒が餌はれてゐるなどは一寸面白い。

にある、後醍醐天皇の御本願によつて大燈國師が開基したさいふ禪宗臨濟派の本山で、一休禪師はその中興の祖である。境内が非常に幽邃だ。織田信長、千利久小堀遠州、蒲生氏郷、細川忠興、片桐且元、小早川隆景等の墓がある、中にも織田信長のは、秀吉が明智光秀を亡ぼしてからこゝで信長の法事をやつて、柴田勝家と焼香争ひの悶着を起したさいふ有名話が遺つてゐる。

【建勳神社】大徳寺の南にある、明治八年の創建、織田信長を祀つた社で、うしろの【船岡山】は梅の名所として有名である。

【金閣寺】葛野郡衣笠村にある、(北野天満宮の西北方)足利義滿の住んだ處で、三階建である。最上層の樓閣を究竟頂と云つて内部の四邊を金箔で押しつめてあつたので金閣寺の稱が起つたわけだが、今は金箔も大部剥けてしまつてゐる。「萩の違柵南天の寺柱」で名高い茶室「夕侍亭」がある。金閣寺の東南、小北山村に官幣大

社【平野神社】がある。境内に櫻、燕子花、花菖蒲、萩等が多いので名がある、殊に櫻は有名なもので平野の夜櫻と云つて非常に賑ふ、北野神社から近い。

【愛宕山】 山陰線線嵯峨驛参照。

【稻荷神社】 驛の前にある。

お賽銭の上り高日本一といふから大したものだ。狐を祀つた社なご、思ふご大間違ひで、倉稻魂命（伊勢の外宮の豊受大神と同じ神様である）を祀つた立派な官幣大社で、稻荷と狐の關係に就てはいろいろの説があるが、ごつちへ轉んでも損さへゆかなければ天下泰平だ。神社の附近には稻荷驛の外に京阪電軌稻荷停留所があり、京都市電も通つてゐるから便宜の線を選ばうこごが出来る。

山科驛

【勸修寺】 驛から西六丁にある。

四年創建せられた眞言宗の名刹で代々法親王がましましたので有名である。醍醐天皇の母后の御本願により延喜

【醍醐寺】 驛から東南約二十丁、

【醍醐山】 に

ある、これも延喜年間創建の眞言宗の巨刹で、山の上下にわかれて伽藍がある。山の上のを【上の醍醐】麓のを【下の醍醐】といふ、下醍醐にある【三寶院】といふのは慶長三年豊太閤が有名な「醍醐の花見」を催して一世の豪華、殊に彼にまつては最後の豪華を盡した所である。彼はこの花見の後二月また、ぬ間に病に罹つて遂に死んだ。三寶院の北に【朱雀天皇陵】【醍醐天皇陵】がある。また西十丁、北小栗栖の田圃の中に、【明智光秀の墓】がある、光秀がこゝで百

上醍醐御影堂及如意輪堂



姓の竹槍にかゝつて死んだ、川柳に「光秀を素人細工にさし殺し」こいふのがある

【山科御坊】大石良雄邸跡 何れも驛より約二十丁、京津電軌毘沙門道停留所参照

大谷驛

【逢阪山】驛の側にある。有名な逢阪の關はこの山中にあつた。この

山を貫通したのが大谷隧道である、峠に【關の清水】がある。

【蟬丸神社】驛の上、隧道の東口に二社ある。前のを上、の蟬丸後のを下、の蟬丸こ

いふ、『これやこのゆくもかへるもわかれても』の歌で名高い蟬丸を祀つた社である

蟬丸こいふ人は醍醐天皇の皇子で（一説に宇多天皇の皇子）琵琶の名手であり和歌に

巧であつたさばかり知られてゐるが詳しい傳は今に傳はらない。盲目であつたこも

いふが一説には嘘だこもいふ。

【走井】大谷茶店の軒にある。むかしの道中に旅人が渴を潤したので名が高い、

一種の甘味がある美しい水だこいふ。この地の名物に【走井餅】がある。

大津驛

【琵琶湖】驛より約三丁、一に鳩の海こいふ。人皇七代孝靈天皇の五

年にこの地俄に陥没して湖になりこれと同時に駿河國に富士山が出来たこいふ。

東西五里、南北十六里、周圍七十三里、本邦第一の湖水である。この湖の風景は、

所謂【近江八景】にして世に知られてゐる外、竹生島附近の名勝また天下に鳴るこ

ころである、竹生島附近の詳しくは『琵琶湖巡り』の條参照。この湖水の産物で、鮎

に皇に諸子魚は名高い。鮎すし、諸子魚の鮎煮など附近の名物になつてゐる。

【大津市】京都へは山越したが三里足らず、昔は東海道五十三次の最終驛で有名で

あつた。今でも琵琶湖沿岸諸地方への交通の衝路になつてゐるので非常に繁昌して

ゐる。滋賀縣廳の所在地である。京津電軌が札の辻から京都三條に通じてゐる、濱

大津から馬場、膳所を経て石山行の【天津電軌】がある。

【義仲寺】驛より約三丁、大津市馬場にある。木曾義仲が栗津ヶ原の合戦に討死し

てこゝに葬つたといふ。その墓がある。墓の後に【芭蕉翁の墓】といふのがある。『木曾殿に脊中合せの寒さかな』と刻した碑がたつてゐる。

【三井寺】 大津市字神出にある。【園城寺】といふのが眞實だが境内に天智天武持統の三帝の御産湯の井があるので御井寺といつたのが三井寺になつたのだこもいふ。天臺宗寺門派の本山で、西國十四番の札所である。この寺は昔比叡山の延暦寺に共に盛んに僧兵を養つて争鬪を事したので史上に名高い。三井寺の隣地に【高観音】がある、境内の眺望に富み、櫻や楓が多いので杖を引くものが多い。

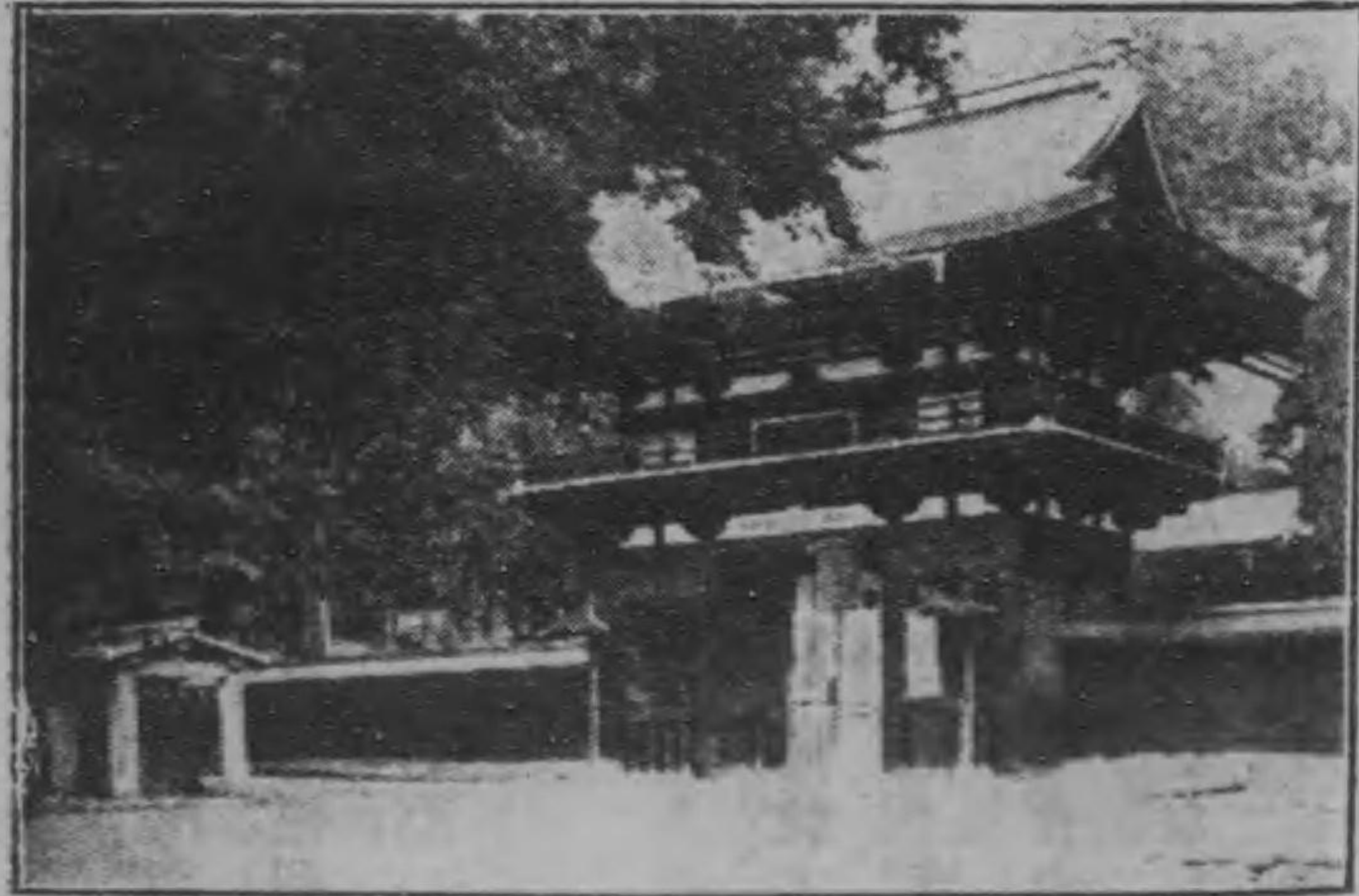
【膳所町】 驛より東約十丁、徳川家康の築いた【膳所城址】がある、城は湖に臨んで築かれてあるのでその水に映じた景趣は名高いものであつたが、今は監獄が出來たのでだめになつてしまつた。町の東方が【粟津ヶ原】である。(石山驛の條参照) 【志賀都趾】 大津市の西北一里半、滋賀村錦織にある。天智天皇の皇居のあつた所で

萬葉集にも古都の荒廢を弔つた山邊赤人の有名な長歌がある。

さゝなみや志賀の都はあれにしを、むかしながらの山さくらかな。 平忠度。

【唐崎の松】 驛より北方約二里、下阪本村の南にある。唐崎神社の境内に湖水に臨んで長々こびらがつた古松で、南北二十間、東西二十七間、數百本の柱を以て枝を支へてある。もこは天智天皇の御手植であつたといふのが、枯てしまつたので、天正年間豊臣秀吉が栽かへしめたものであるといふ。夜になるに露がボタ／＼落ちるの

官幣大社 日吉神社



を「唐崎の夜雨」といつて近江八景の一に數へてゐる。

【日吉神社】 下阪本村にある。大山昨命以下七座の神を祀つた官幣大社で、比叡山の登山口になつてゐる。叡山登りにはこゝから上つて京都へ下りるのが最も便利だ、毎年四月十四日に執行せられる山王祭は非常に勇壯を極めたもので頗る名高いものである、境内に櫻と楓が多いのでまた有名である。

【比叡山延暦寺】 比叡の名は京都の方で名高いが實は其所有權の大半は近江にある延暦寺は滋賀縣の管轄でしかも阪本村に屬してゐるのだ。この寺は延暦七年傳教大師が創建して比江山寺と號したのが始まりで嵯峨天皇から延暦寺の號を賜つた。盛んに僧兵を養ふて、何か氣に入らぬ事があるこゝ、大勢で例の山王の神輿をかつき出し傲訴を稱して京都へ暴れこんだものだ。さすがの白河法皇も「朕が意の如くならざるものは鴨川の水に山法師」まで嘆ぜられた程威張り返つた。南北朝の時に後

日吉神社





## 坂本日吉神社の紅葉

琵琶湖岸の名所には坂本の日吉神社の三橋と石山寺との二つを数へられる。石山は堂宇と岩石と樹木とのこの三者が相俟つて他所にない壯麗さを示してゐる。殊に暮靄瀨田川を罩め長橋と行人と等しく長影と沫せられる頃の風致は静穩と華麗とを兼ねた無比の眺めである。坂本山王の三橋は小規模ではあるが頗る瀟洒を極めてゐる。小品的で縮圖的でいかにも要領がいゝ。こゝから叡山に向ふへ越へて山路の秋色を尋ねながら八瀨へ下り大原の紅葉へさゝろさすのも、秋の日の行樂としてさのみ氣急はしないことではない。

醍醐天皇この山に難を避けられた。この寺が力を入れたこなるこいかな武力でも如何にもするこことが出来なかつた。遂に元龜元年に至つて織田信長こいふ横紙破りがあらはれて山に火を放つて一山を焦土にした。その後豊臣秀吉、徳川家光の力で漸次再興して今日に至つたのである。東塔、無動寺、横川、西塔の四區に別れて堂塔がある、東塔に屬してゐる【根本中堂】は當山草創の時に建立した【止觀院】の事で、今の建物は寛永十九年の再建、全山第一の大伽藍である。尙ほ阪本村には天臺宗盛門派の本山【西教寺】同村比叡ヶ辻には【來迎寺】の二名刹がある。來迎寺は元龜の兵火を免れたので古色蒼然たるものだ。

【堅田の浮御堂】 阪本から北東約二里、堅田町、満月寺の境内にある。陸から十四五間湖水の中へ突き出して建てられた堂で、遠くから見ると水の上に浮いてゐるやうに見ゆる。恵心僧都の草創で一千体の阿彌陀如來が安置してある。【堅田の落雁】

が八景の一になつてゐる。

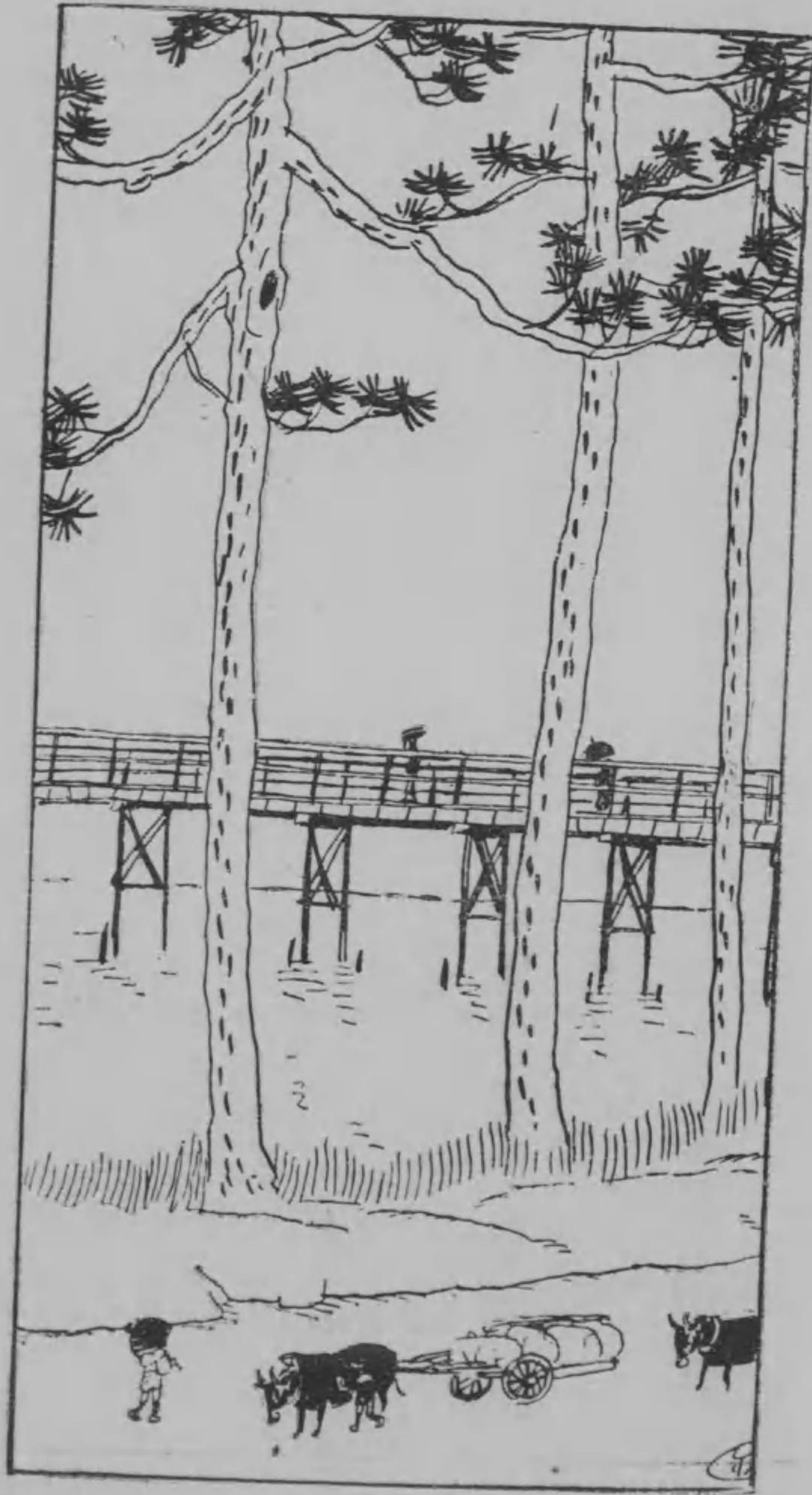
【比良山】 大津驛から北方に見ゆる、大きな最も高い山がそれで、二千八百八十尺江州第一の高山である。雪が多いので名高い。秋の末から櫻の花のさく頃まで雪を被つてゐるので、遠くから見ると非常に美しい。「比良の暮雪」と云つて八景の一である。

石山驛

【勢田の唐橋】 驛より南九丁、瀬田川に架かつた橋である。川中に小島があつて、橋は大橋小橋の二つに別れてゐる。大橋は九十六間、小橋は二十三間欄干に擬寶珠がついてゐて非常に古雅な趣をそへてゐる。「勢田の夕照」が八景の一になつてゐる。

【粟津ヶ原】 膳所町の南部から石山驛の附近にかけて木曾義仲の合戦で有名な粟津ヶ原である。驛の西に【今井兼平の墓】がある。また「粟津の晴嵐」が八景の一にな

粟津



つてゐる。

【石山寺】 驛より南二十丁、西國十三番の靈場である。天平勝寶年中良辨僧正の開基、眺望のいゝので昔から有名である、殊に「石山の秋月」は八景の一に數へられる。實際この寺から、翠巒相迫る對岸の山頂に浮み出た月が、瀬田川に光を投げた光景を見るものは、思はず三歎せずには居られぬだらう。夢のやうに煙つた瀬田の長橋を通して、その奥に果も知らず金波銀波を碎いてゐる琵琶湖の情景は到底筆舌のよく盡し得るころではない。石山寺には「紫の間」といふのがあつて、紫式部がこゝで月を見ながら源氏物語を書いたといふ話が人口に膾炙してゐるが、これは眞赤な嘘である。従つて寺には紫式部の遺物と稱するいろ／＼な物を藏してゐるが皆偽物だ。石山から五里餘で宇治に出られる、道の風景がいゝので遊ぶものが多い。

粟津

唐崎もいゝ、堅田もいゝ。石山もいゝ。矢橋もいゝ。……八景その一つとして選んだに不服はないが、特に粟津は、音に晴嵐に於て勝れたのみでなく、細雨簫條たる日、駘蕩たる臙夜など、殊更にいゝ氣分を調へる。結構が美しいのでもなく、又眺望が麗らかなのでもない。懐古的情緒のそれは全く關係もなしに簡素なそして一種の寂寥味を帯びた處に特殊な趣をもつてゐる。

17 18 19 20  
21 22 23  
は 5  
は 5  
は 5

【立木観音】 石山寺より瀬田川に沿ふて一里餘遡つた所にある。弘法大師が四十  
二歳の時に、厄除のためにこの山の立木を伐つて彫刻したといふ観音を安置したも  
ので、俗に厄除観音といつて参詣者が非常に多い。

【鹿跳岩】 瀬田川の下流で、滋賀郡栗太郡の間にある。兩岸の崖相迫つて幅二十八  
間程になつてゐる所で、兀突たる巖と巖と相對する所、狭い所は六間位しかないの  
で鹿跳の名が出来たわけだ。夏は涼しいので遊ぶものが多い。

【岩間寺】 鹿跳より更に半里南、養老年間の創建で西國十二番の札所である、境内  
が極めて幽邃閑雅である。

【建部神社】 驛の東十五丁、日本武尊外二神を祀つた官幣大社である。源頼朝  
平家の爲めに伊豆に流される途中こゝに参拜して武運の長久を祈つた。彼が志を得  
て征夷大將軍となり西上する時、またこの社に詣で、勢多郷三百戸を神領に寄進

したといふ由緒深い社である。

【草津驛】 驛の西南方にある。昔は東海交通の要衝で、竹根鞭と姥

餅の名物で名高い。この驛から貴生川方面に至る近江線が分岐してゐる。

【矢橋浦】 驛より東約一里。湖岸一帯の稱である。「矢橋の歸帆」といふのが八景の一  
になつてゐる。昔の東海道の道中は天津からこゝへ湖上一里を船で渡つて草津へ出  
たもので、この道は随分繁昌したものだ、今は寂れきつたのに不思議はなからう。

【三上山】 驛の東南約二十丁の所にある。その形が圓錐形をなしてゐ

るので近江富士の稱がある。また俵藤太が蜈蚣を退治したといふ有名な傳説から蜈  
蚣山ともいふ。山腹に妙見堂がある、こゝは頗る眺望に富んだ所で菜種の花時分は  
殊にいゝ。山麓の三上村に「御上神社」がある、養老年間の創建で樓門が特別保護  
建造物になつてゐる。

【錦織寺】 驛の北一里、中里村木部にある、眞宗木邊派の本山で、天安二年慈覺大師の創建。もこは天臺宗であつたのを嘉禎年中眞宗になつた、錦織寺の名は四條天皇より賜つたといふ。

【近江八幡驛】 この驛の附近新八幡から八日市方面へ行く湖南鐵道が通じてゐる。

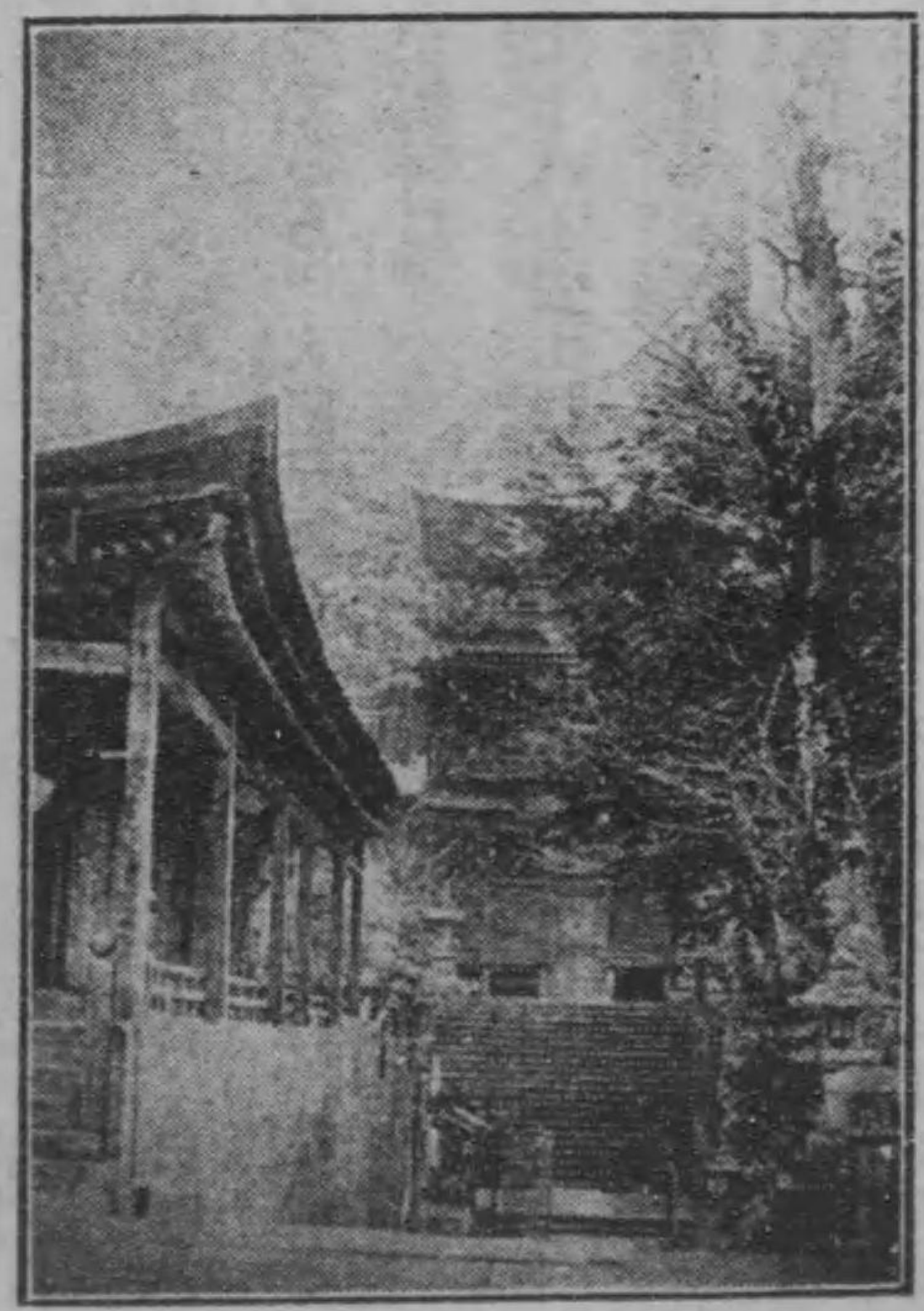
【八幡町】 驛より西北十八丁、天正十四年豊臣秀次がこの町の北方八幡山に城を築いてから發達した町で、疊表、帆木綿、蚊帳等を産出するので長濱と共に重要な町になつてゐる。町に【八幡神社】がある、八幡山には【城趾】がある。

【長命寺】 八幡町より北方約一里半、奥島にある。聖德太子の開基、弘法大師が再興したといふ名刹で西國三十一番の札所である。この上から湖水を見下ろした風景は非常に美しいので名高い、八幡からは陸路よりも舟で渡る方が便利だ。

【八日市町】 驛の東南約二里半にある、里數は次の安土町からする方が近いが、新

八幡驛から湖南鐵道に乗るに八日市口驛まで三十分で達する。この町は昔は毎月八の日に諸方から商人が寄つて来て市を開いたもので、八日市の名はそれから起つた、今は神崎郡の首邑になつてゐる  
交通運輸の便は湖南鐵道の外に  
貴生川、彦根に通ずる近江鐵道  
もこの地を通じてゐるので今に  
毎月二、五、八の日に諸國の商人  
がよつて来て市を開く。遊廓等  
もある。町の東南方中野村には  
【八日市飛行場】がある。

【永源寺】 八日市の東約三里、愛知川の上流高野村にある。康安元年寂室禪師の開



基、臨濟派の本山にして古來有名である。殊にこの山の楓は非常に見事なもので、潺緩たる愛知川にのぞんだ翠巒の間に燃るやうな眞紅の色を染め出した景趣は形容すべし詞もない、永源寺は觀楓の名所にしても古から名高い。この地へ行くには八日市から自動車、人力車、馬車等が通つてゐる。大阪京都方面から觀光には、八幡から湖南鐵道によつて八日市へ出る方が便利だ。

安土驛

【安土城址】驛より東北十八丁安土村にある。天正四年織田信長が築いた城で、七層の天守閣を設けた。我國築城術の一新紀元を劃したもので、城に天守閣を設けた初である。明智光秀の亂に落城してから、今日では跡が残つてゐるに過ぎない。この山の上からの眺望は實に湖東第一この稱がある、附近に【沙々貴神社】【淨嚴院】等がある。

【觀音寺山】【箕作山】觀音寺山は驛の東方二十丁、箕作山はその南方に聳つた山

で、共に佐々木氏の城を築いた所である。永祿年間佐々木承禎織田信長と戦つて城は陥つた。兩山とも當時の激戦地で、戦史の上では觀音寺山の合戦といつて名高い觀音寺山の上腹に【觀音正寺】がある、西國三十二番の札所である。箕作山には【瓦屋寺】がある、また、この兩山の間には【老蘇】で歌に名高い【老蘇の森】のあつた所であるこの附近は紅葉のい、所で秋は一日の清遊に適する。附近に【鎌宮神社】がある。近年境内に隣接して公園を設け櫻の樹を多く植たので春も頗る美しい。この附近へ行くには八幡から湖南鐵道によつて武佐驛で下車する方が便利だ。武佐からは東へ約一里である。

彦根驛

彦根町

【彦根町】井伊侯三十五萬石の舊城下である。慶長五年關ヶ原の一戦は徳川家康の勝利に歸し、その論功行賞に家康が最も股肱と恃んでゐた井伊直政に近江一圓を與へた。これは近江といふ國は京大阪に近く、また畿内から東北方面の

咽喉であるから、當時まだ大阪城に據つてゐた豊臣家の動靜を察して萬一に備へる策略として、特に最も信用する直政に與へたわけだ。さうして彦根に城を築かしたのが、豊臣以來の驍將、加藤、福島、淺野その他の大々名に命じて彦根築城の手傳ひを命じ、封祿の高に應じて工事課役を仰せつけたものだ。自分の家臣の城を築くに、何の關係もない、謂はゞ家康の同僚同様な豊臣恩顧の大々名に手傳ひをさせるなごは随分亂暴な話だが、そこが家康の家康たる所で、いろ／＼な意味の皮肉な政策がそこに潜んでゐた、さすがの驍將連も時々大勢には抗すべくもなく、唯々こして命令を奉ぜざるを得なかつた。かくして出来上つた「彦根城」又の名「金龜城」は、今に嚴然と市街の上に聳ゐてゐる。城の北麓に「樂々園」がある、井伊侯の別業で數奇を極めた建築は世に名高い。隣接して「八景亭」がある、同じく別業の邸園で湖水の水を引いて近江八景を縮模した泉石の布置は天下に鳴る所だ、今は旅館

兼料理屋になつてゐる、

彦根驛から八日市を経て貴生川に至る近江鐵道が通じてゐる。

【佐和山城趾】彦根の東方にある丘である。もこは石田三成の城で、井伊直政が最初居城し、その子直勝の時に彦根城が出来て移り住んだ。山の麓に【佐和山神社】  
【清凉寺】  
【龍潭寺】がある。

【多賀神社】彦根町の東南一里、犬上郡多賀村にある、伊弉諾伊弉冉の二尊を祀つた官幣大社である。昔から壽命の神様といふので名高かつた。豊臣秀吉は北政所の爲めに延命の願がけをした願狀が今に存つてある。徳川氏の代になつても寺領三百五十石、外に井伊侯から百五十石を寄附せられてゐた。今に「お多賀詣り」の名付けて遠近の參詣者が非常に多い。參詣には彦根驛から近江鐵道により高宮驛で乗りかへ多賀驛で下車、神社は驛から八丁である。

# 山陽線 附兵庫電軌

|| 山陽線神戸より姫路まで三十四哩一鎖 ||

|| 兵庫電軌、兵庫驛前より明石まで十哩九鎖 ||

|| 兵庫電軌（営業時間）午前五時より午後十二時まで絶へず運轉す、（賃金）全線六區、一區各四錢（外に通行税一錢）區界停留所、（兵庫より）西代、須磨、鹽屋、垂水山田、明石、但し兵庫明石間片道十九錢往復卅一錢（通行税共） ||

山陽線兵庫明石間の線は兵庫電軌と全く並行してゐるので之を別つて記載するのは極めて煩雜の上に、讀者に於ても見るのに少有からぬ不便があると思ふから便宜上一括して記すことにした。従つて記述の体裁が他とは大に異つてゐるからその積りで讀んでもらひたい。記述の順序は兵庫停留所の順序に従つてあるが院線ならば何驛で下りていゝかさいふことは、「以下何々驛下車」とあるのによつて判断をしてもらひたい。電車によるよりも瀛車の方が便利であるやうな所は特に附記して置いた。

## 院線神戸驛

## 同兵庫驛

市部は五大都市神戸市の部参照

### 以下院線兵庫驛下車

## 兵電長田停留所

【長田神社】 停留所の北長田村にある、事代主命を祀つた官幣中社で、村上天皇御寄進の石燈籠小野道風の書こいふ華表の額等がある。俗に運の神様こいふので毎月一日十五日には參詣者が多い。社前に近く【平成章の碑】及び成章の臣【監物頼賢の碑】がある、其の他附近には源平合戦當時の古墳が多く散在してゐる。

【寶満寺】 停留所の東南方にある、弘法大師が支那から歸つて第一に創建したこい

ふ古い眞言宗の道場で、昔は立派な伽藍を持つてゐたこいふが今は廢頽してゐる。

寺の北方に【匂の梅】こいふのがある、菅公左遷の時わざ／＼見に來たこいふ傳説

の梅だ、中々の古木である。



—以下院線鷹取驛下車—

【鷹取山】長田神社の横から西北に向つて登るこ、十八丁で頂上に達する。頗る眺望に富んだ所である。山の東北方に聳わてゐる峻険な山が、一の谷合戦の時に義経が坂落しをやつたこいふ有名な「鶉越」だ。

兵電西代停留所

【鷹取游泳場】鷹取驛の南方に近い。海濱は毎年夏になるこ游泳場が設けられるので賑ふ、こ、から須磨まで濱傳ひで十八町にすぎない。

【駒ヶ林大堂】

鷹取驛の東五丁の所にある、俗に子安観音といつて嘉應承安の頃、平家の某夫人が子がなないので大堂に願をかけて遂に男子を産んだこいふ傳説があつて、今に子のない婦人の參詣者が多い、毎年一月十五日、この堂の前の海濱で行はれる「左儀長」の式は珍らしい習俗で見物が群集する。大堂の附近に「さつき寺」がある、本名を【松月庵】こいひ皐月が多いので名がある、さつき寺の附近には

平忠度の腕を埋めたこいふ【腕塚】その他【三河塚】【首塚】なご、稱する古い塚が随分あるが、何が何だかわからない。

【禪昌寺】

停留所の北十丁、鷹取山の西麓、板宿村にある。延文年間宗光禪師の開基こいふ。臨濟宗の寺で境内に楓が多いので頗る名高い、兵神附近では唯一の楓の名所になつてゐる。山門の扉は所謂鶯張で開閉に奇妙な響きがする、例によつて左甚五郎の作だこある。禪昌寺の北に【妙法寺】がある、聖武天皇の勅願所になつた古い眞言宗の寺で、古くは三十七の坊舎のある大伽藍であつたこいふが、今は纔にその佛が残つてゐるだけである。

板宿停留所

【勝福寺】停留所より北四丁にある。一條天皇の勅願によつて永延二年創建の古刹である。境内に梅林がある。附近に古來月の名所こして知られた【持尾山林】地主の神を祀つた【證城神社】梅で有名な【清友園】桃で名高い【百々

園」等がある。

—以下須磨驛下車—

月見山停留所

【武庫離宮】北に見ゆる和洋折衷の大きな建物がそれである、附近

の地は觀月の勝地で【月見山】も名づけられた、もこ西本願寺の別荘があつた所だ

【綱敷天神】須磨驛より東五丁の海濱にある。菅公左遷の時にこゝへ立ち寄つたの

で漁師が綱を巻いて敷物にすゝめたこいふ縁起だ。社から北方數丁、菖蒲小路に【松

風村雨堂】がある、在原行平が須磨へ流されて、松風三村雨こいふ二人の女を寵し

たこいふ有名な物語を縁起にもつてゐる堂だ。行平がこの地へ來てゐるうちに弟

の業平も事故が出來て東へ下つた、柳樽に、「弟は江戸へ逃げたこ須磨でいひ」こ

いふのがある。

須磨寺停留所

【須磨寺】本名を福祥寺こいふ、天長年中和田岬の海底から梅檀木

の觀音像があがつたが靈驗あらたかなりこのこ叡聞を達し仁和二年光孝天皇の勅

願によつて草創されたものだこいふ。この附近は源平合戦の激戦地であつただけに

當時の遺物も稱するものを寺寶に澤山もつてゐる、青葉の笛、敦盛自筆の和歌、敦

盛赤旗の名號、母衣絹の名號、辨慶が若木櫻にかゝけたこいふ制札なご稱するもの

がある。この寺の鐘は當時の陣鐘に用ひたものださうだ。その他義經腰掛松、神功

皇后釣竿竹なごいふものがある、腰掛松もおかしいが、釣竿竹に至つては神戸の生

田神社にもあれば、武庫郡の住吉神社にもある、何れも、皇后その携へ給へる釣竿

を地上にさして置かれたら、後に根が生へ枝葉を生じたこいふのだ、この寺昔は寺

領もあり十七の坊舎を有する巨刹であつたこいふが、今は纔に二三を存してゐるに

過ぎない、須磨寺の西南に【源光寺】がある、門前に芭蕉の句碑が建つてゐる、

見渡せばながむれば見れば須磨の秋 芭蕉

【須磨寺公園】 須磨寺境内、及び附近の荒撫地を開拓して近年一大遊園地になされた。地域一帯に櫻を栽へられてある。又數百株の梅林もある。花時分には兵電も院線も押すなくの大雑間を極める。

【須磨の關】 源光寺の西方の街道の左右に一寸こした臺地がこさへてあるが、これが昔の須磨の關屋の遺跡といふことである。

淡路島がよふ千鳥のなく聲に、幾夜寢さめぬ須磨の關守  
廉兼  
淡路島はるかに見つるうき雲も、須磨の關屋に時雨きにけり、  
家隆

須磨海岸



【須磨の浦】 この邊の海濱一帯の稱である。その風光の明媚なところは天下に知らるる所であるから今更らしく記す要もないが、殊にこの地は、古く在原行平の遺した風流な傳説、壽永の昔阪東武者の一蹶にあつて亂離した平家没落の哀話、それに伴ふ敦盛の物語や那須與一の「扇の的」の話など、幾多の戯曲的な挿話が縦横に織込まれてゐるので、さらでだに明媚な須磨浦の風光に一層美しい色彩を感じせしめられる。

一の谷停留所

【一の谷】 壽永の源平合戦の古戰場として人のよく知る所である。

平家が安徳幼帝を擁して籠つた時の【内裏趾】は谷の上にある。一の谷の西に【二の谷】がある。二の谷の奥が【鐵拐嶽】で義経は鴨越からこの上へ出て阪落しに平家の不意を衝いたのである。二の谷の西に【三の谷】がある。

敦盛塚停留所

【敦盛塚】 三の谷の西にある大きな五輪の石塔である。これは北條

貞時が平家一門追福のために建てたもので別に敦盛だけに關係したものではないの

だが、いつのまにか敦盛塚と呼ばれるやうになつた、塔の前に蕎麥屋がある、敦盛蕎麥で名高い、面白い文句があるから紹介して置く

「そばはあつ盛あんばいはよし、大茶碗にてつ揚山もり、それを知りつ、九郎判官、うごんは色の白い玉織姫、酒は一の谷源平躑躅のもろはく、三浦の大杯で一ばい飲めば顔は辨慶、座敷は千疊敷水は帆かけ舟、紀州熊野浦までやりツばなし、お茶はせつたい薩摩の守たゞのみ、御遠慮のお方は悪七兵衛、食ひにげしたら後に平山、草鞋は熊谷の陣屋の草鞋、破れるまでは受合に候」

——以下塩屋驛下車——

東鹽屋停留所

【境川】敦盛塚から西七丁、播州三攝津の境をなしてゐる小流で

ある。

蝸牛の角ふりわけよ須磨明石

芭蕉

【塩屋海水浴場】塩屋は小さな村に過ぎないが、塩屋驛の前の邊り、潮流が緩いので、夏季の海水浴場として名がある。

——以下垂水驛下車——

垂水停留所

【海神社】驛及停留所の傍にある、住吉神を祀つた官幣中社で、

神功皇后の御草創といふ。

五色山停留所

【五色山】垂水驛の西北五丁、垂水村にある丘である、【千壺】こもいふ。魔阪忍熊の二皇子仲哀天皇の御陵をここに造營し奉る事に托して、皇后を害せんこ圖つた所で、當時數百の小壺を埋め五色の花をいけて葬儀をあけたといふので五色山、千壺の名が起つたといふ。

——以下舞子驛下車——

舞子停留所

【舞子濱】西垂水から山田に至る東西約十町南北四五丁の海濱一帯

の地の總稱である。この間何れも古い松の樹の林になつてゐて、枝振の奇怪なるを以て名がある。匍つてゐるやうな形、舞つてゐるやうな姿、千姿萬態の變化を盡してゐる。樹の間を通して白い砂と緑の海の色を隔てた沖に近く、長々横はつてゐる紺碧の淡路の島山を望んだ風景は實に絶佳である。この附近一帯は「公園」になつてゐる。この邊は、松露が澤山出来るので、秋は松露拾ひに出掛けるものが多い、驛の東三丁、左方の丘の上に有栖川宮御別邸がある。

——以下明石驛下車——

人丸前停留所

【人丸神社】明石驛の東北四丁、人丸山の中腹にある。柿本人丸を祀つた神社である。「ほのくぐみあかしの浦の朝ぎりに島かくれゆく船をしぞ思ふ」といふ有名な人丸の歌によつて、この社の因縁がついてゐるわけだ。もこは今の明石城趾のある所にあつたのを、元和四年小笠原氏が城を築くに當つて現在の所へ移



柿本人丸神社

したものだといふ。社内から海を見た景色かいので名高い。境内に【盲杖櫻】といふのがあつたが、その櫻から枝葉が出て花を咲くに至つたといふ、神功皇后なら釣竿の竹になるころだ。社の西に並んで【月照寺】がある、もこは人丸社の別當職であつたといふ。庭前に船の形をした梅の樹がある、赤穂義士の一人間瀬久太

夫が手植の樹だこいふ、薄紅の花が咲いて八つ房の大きな實がなるので名高い。

【権現山】 人丸山の東にある丘で、眺望は人丸山よりも更にいゝのだがあまり來る人がない。山上に権現の祠がある。

【長壽院】 人丸山の麓にある舊藩主の菩提所である。その南に薩摩守忠度の【腕塚】と稱するのがある。駒ヶ林にも同じ腕塚があつた、こつちのは右の腕だか左の腕だかわからない、この附近大藏谷村に【休天神】がある。菅公左遷の途こゝで休んだこいひ境内に菅公腰掛石こいふのがある、御叮嚀なここだ。

明石驛前停留所

【明石城趾】 明石驛の西北三丁人丸山の西の山續にある。城は元和四年小笠原氏の築く所で、城内は今宮内省の御料地になつてゐるが、一部を【公園】に開放されてゐる、城の濠には蓮を多く栽培してあるので夏は頗る見事だ。附近に【農學校】がある。

【太山寺】 驛から北二里、伊川谷村にある。元正天皇の勅願所になつたこいふ古刹で、その仁王門の額は小野の道風の筆こいふ。境内に櫻が多いので春は杖を引くものが多い。後の山中に【不動の瀧】【聲明の瀧】なごがあるので夏の避暑にも適してゐる。

明石停留所

【明石町】 中國街道の要衝に當つてゐるので、姫路に次ぐ繁華な地である。殊に近來明石附近探勝の遊客が多くなつた爲めに、町もますます發展する。同時に たちが悪くなつて來たのも已むを得ないここだらう。町で名所こいふへば鍛冶屋町に【朝顔光明寺】がある、光源氏の舊跡だこいふ、前記須磨の源光寺こいふのも光源氏の古跡ださうだが、元來光源氏こいふのは、紫式部の書いた源氏物語の主人公で、源氏物語は純然たる小説だ、光の君は西の宮左大臣源高明の事を書いたものだなごこいふ説もあるが皆嘘で、全く架空の人物である、架空の人物が舊

蹟をのこすわけはないから、お氣の毒だがすべて抹殺する、畢竟こんな古蹟は、源氏物語の須磨明石の巻から思ひついた文盲ないたづらに過ぎない。同じ鍛冶屋町に【浄土光明寺】がある。明治天皇の行在所になったこのある大きな寺だ。戎町に【岩屋神社】がある、伊弉諾伊弉冉尊以下の六座を祀つた町中第一の大社である。【中崎遊園】 明石驛より南八丁、明石町の中相生町の南にある海濱だ。海に隔て、對岸淡路の岩屋が指呼の間にある。白砂青松の景趣極めて美しい、夏は海水浴場が開かれるので賑ふ。この附近から對岩の岩屋へ船が出る、海上僅かに一里餘、明石を遊覽するものは是非渡つて見るべきである。この附近の海は有名な明石鯛の産地で蛸なごも澤山取れる。

蛸壺やはかなき夢を夏の月 芭蕉

淡路のこころは別項淡路島巡りの條に詳しく記したが、便宜上明石對岸の一二を記

して置く。

【岩屋港】 明石海峡を少しく東によつた所にある、平素は漁船が碇泊してゐるだけだが、前の海峡は潮流が急なので風浪の激しい時は附近航行中の船舶皆この港へ避難するので重要視されてゐる。附近に【岩屋神社】がある。

【繪島】 岩屋港の附近にある。景色がいゝので名高い所で、繪島といふ名もその風景繪の如きより起つた名である。また昔から月の名所で、平家物語にも、「福原の新都にある人々、名所の月を見むとて須磨明石を経て淡路の灘を渡り繪島の月を見る」なごご見わたる。

さよ千鳥ふけひの浦におさづれて、繪島が磯に月傾きぬ 藤原宗基

——以下院線——

大久保驛 【天郷梅林】 驛の北二十五丁、丘の半腹にある、約二町歩に亘つて、

千餘株の梅が栽培されてある上に、丘の上からの眺望は南に淡路島を望んで頗る絶景である、花時分は筈をひくものが多い。

【金崎梅林】天郷の西にある、(驛より十五丁)梅が天郷のよりも若い上に地域も亦狭いので天郷程見事ではないが、天郷へ行つたものは必ず序に廻つて見るべきである。尙ほその西北方に【烏ヶ谷温泉】がある。

### 土山驛

普通【播州巡り】三稱するものは、この驛で下車して、手枕の松、尾上の松、高砂の松、會根の松等の名所を遊覽して會根驛へ出る(或はその反對に會根驛から下車して土山驛へ出る)のである。土山或は會根驛から巡覽に人力車の便がある(車賃は二圓内外)左に東からの道順に従つてその名所を紹介しやう。

【手枕の松】土山驛より西南約一里十町、加古郡別府村、住吉神社の境内にある。東西四十八間南北十三間に亘る老松で、地を匍ふやうに蟠踞してゐるが、中程から

更に屈して地に臂をついてゐる、その形が恰も人が手枕をして寝てゐるやうであるといふので手枕の松なる稱が起つた。

### 加古川驛

【尾上相生の松】手枕の松から西へ二十二丁行くに【尾上神社】があるそこに【相生の松】がある。汽車の便は、加古川驛から、播州鐵道に乗りかへ尾上驛で下車、東南數丁である。相生の松は、一つの根から雌雄兩種の松が生じてゐるので頗る奇觀である。その隣に【片枝の松】がある、枝が悉く東の方をむいてゐるので名高い。この社前の鐘樓に【尾上の鐘】がある、高さ三尺二寸經二尺五寸、あまり大きくはないが、神功皇后が三韓から持ち歸られたものであるといふ、音色が非常にいいので、その響きは遙な海上まで傳はる、その邊一帶の海を響洋といふのはそれから起つた名稱ださうだ。

【鶴林寺】尾上から鳩里村字北在家へ出るに鶴林寺がある、鐵道の便は同じく播州



線尾上驛の北の次驛北在家で下車すればよい。尾上へ行つて北在家へ出るのは加古川驛からいふこ後戻りになるが、本文の記述は土山驛から下りての道順によつたものであるから、加古川驛から汽車の便を利用するなれば尾上の松へ行くまでに鶴林寺を先づ見るべきである。却説この寺は用明天皇の御宇聖德太子の建立で、創建以來千四百餘年間一回の火災にも會はず現存してゐる古刹である。

【高砂相生松】 鶴林寺から道を轉じて加古川の長橋を渡るこ【高砂神社】に出る。

境内に尾上の松のやうな【相生の松】がある。尾上のよりも枝幹一層よく繁茂してゐるから更に奇觀である。瀛車の便は播州鐵道南の終點、高砂浦驛で下車すれば便利だ。神社から西北方に高砂町が連つてゐる、因に附近【加古川の鮎狩】は世に名がある。

寶殿驛 【石の寶殿】 驛より二十丁、高砂の松から廻るのは、高砂町を眞つ直

に西へ出て、荒井川の橋を渡るこ、伊保崎村で道が二つに岐れてゐる、右へ行くこ【石の寶殿】へ出られる。左へのけば會根へ出る。石の寶殿は名所中で最も奇觀を極めたものである、幅二丈三尺高さ二丈六尺の大岩は恰も社殿を横さまにしたやうな恰形をしてゐる、石の上には稚い松が生へてゐる、周圍には水をたゝへて石は恰も浮いてゐるやうに見ゆる。古大己貴命すまひこのみことが一夜の中に石の殿堂を作らうこせられたが、途中で夜があけたのでその儘中止されて今に遺つてゐるのだこいふ傳説がある、河内葛城山の岩橋の傳説でんせつも同工異曲だ。寶殿の南數丁山腹に一大巖壁がある【觀濤處】の三大字が刻してある、此丘の上へ上がるこ眺望が頗るよい。

會根驛 【會根天滿宮】 前記伊保崎村の岐れ路を左へ行くこ會根村へ出る。境内

に【會根の松】がある。菅公手植の松が繁茂したこいふ老松は寛政の頃に枯てしまつて、今は株だけがのこつてゐる、その實から生長したこいふ二代目の松が今の會

根の松である。高さ三丈圍り二丈、枝の長さ十二丈に餘る見事なものだ。こゝから西南二十五丁で會根驛に出られる。以上は世に所謂「播州廻り」の大略である。

姫路驛

【姫路市】酒井氏の舊城下で、播

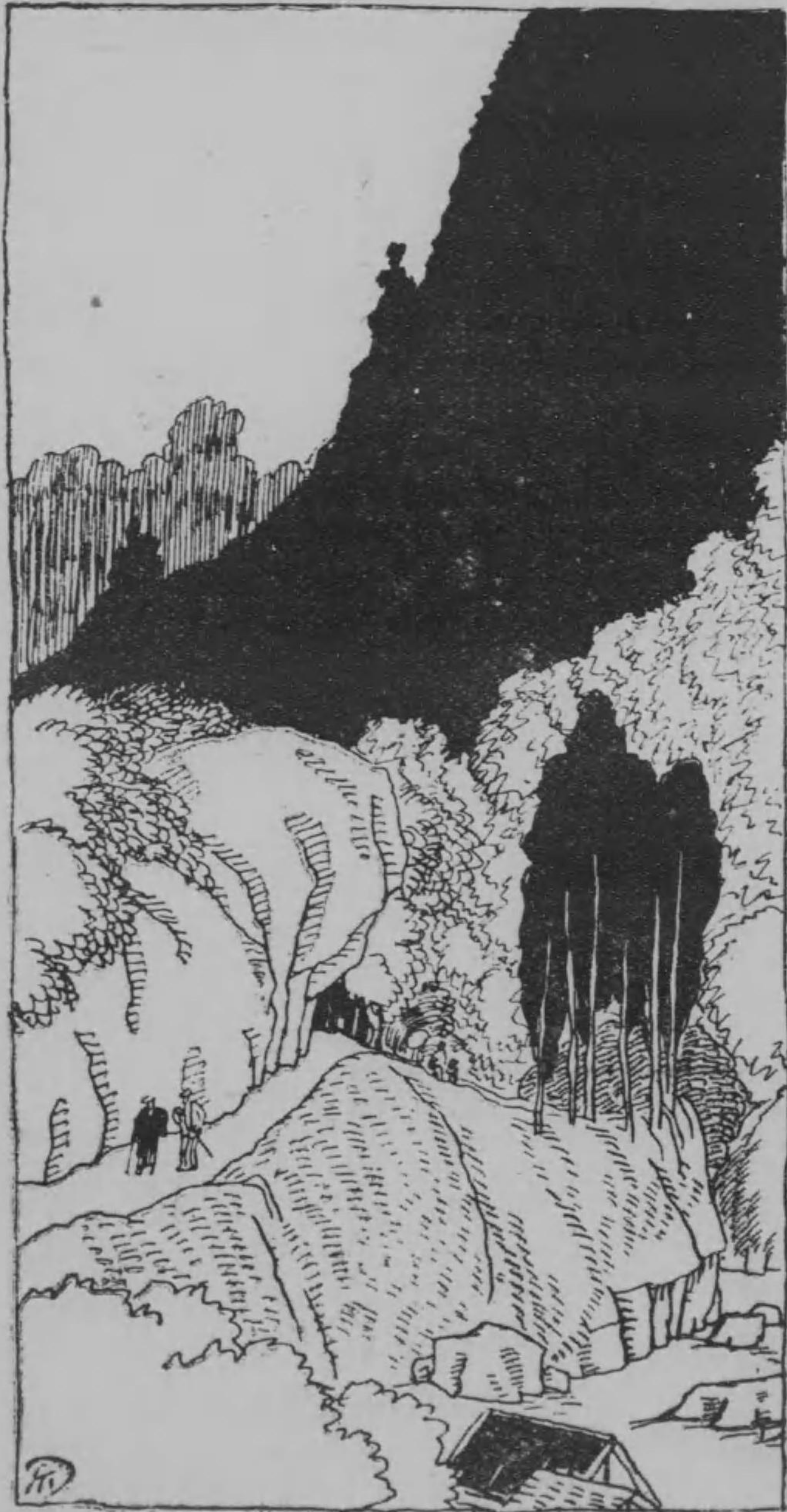
州第一の都會である。中國山陰交通の要衝に當つてゐるので極めて重要な都市だ、播但線が姫路驛から分岐して山陰の連絡になつてゐる。

【姫路城】姫路驛の北に滴るやうな翠の中から巍然として半空に聳わてゐる五層の白聖城がそれである。最初は赤松貞範が築いて後に山名宗

城 鷺 白 路 姫



箕 面



箕面

大阪近郊の名所としては先第一に箕面を推す。秋の紅葉は少くとも關西一ま  
いつてもいゝが、春の楓の紅い芽出しと山櫻の白さが、常磐樹で暗い溪のあち  
こちに點綴された景色も他所に求め難い美しいものである。尙瀧の水上を溯つ  
て溪流傳ひに勝尾寺へ迄一里の道も中々興の多いものだ。

全の領となり、天正年間秀吉が移つて今の五層の天守閣を築いた、世に【白鷺城】  
と稱して、その建築の様式、外觀の美に於て實に日本一の名城と稱せられ、現存唯  
一の模範城として學者の間にも推奨せられてゐる、以てその價值を知るべきである  
今は第十師團の管轄になつてゐる、近年之を公園に開放する義がある。

【飾磨】 姫路市の南約一里半の海岸で、驛から飾磨線が通じてゐる、海水浴に名高  
い所で、家島郡島が散在してゐる海の風光は陸前の松島に似てゐる。

【隨願寺】 驛より北一里、廣峰山の南にある。姫路から播但線にのりかへて野里驛  
で下車するに北二十五丁である。聖徳太子の開基で仁明天皇から【増位山隨願寺】の  
名を賜つたといふ由緒のある寺だ。野里驛からこの寺へ行く途中【増位温泉】【白國  
の梅林】等がある。

【書寫山】 隨願寺の西北一里、曾佐村にある、姫路驛より約二里、播但線野里驛か

ら一里半、西國二十七番の札所で播州第一の巨刹として遠近に聞こえてゐる。一條天皇の永延二年創建、花山法皇、後醍醐天皇の行幸があつた。辨慶がゐるたこいふ【辨慶學問所】と稱する所がある。その他【如意ヶ瀧】【烏帽子岩】【引雲岡】【紫雲堂】【女人堂】【王院の馬場】等山中の名所が多い。

# 阪神電軌

||大阪梅田より神戸終點まで十九哩二十八釐||

||〔阪神電軌營業時間〕四月より九月まで大阪發一番午前四時半、最終午前一時、神戸發一番午前四時半最終午後十二時、十月より三月まで大阪發一番午前五時、最終午前一時、神戸發一番午前五時最終午後十二時、〔賃金〕大阪梅田又は天神橋筋神戸間四區二十五錢往復四十九錢大阪西の宮間二區十三錢往復二十五錢||

大阪市内 五大都市大阪市の部参照、

淀川 淀川改修の結果新たに開鑿した新淀川の堤がそれである。川の上流に見

ゆる長い鐵橋が、阪神間の街道を連絡する【西成大橋】である。長さ三百八十餘間、大阪の天神橋が長い鐵橋で名所になつてゐた頃は時勢が違ふ。

佃 佃こいふのは昔から漁村で聞けてゐた所だ、今の東京の佃島はこゝの佃